

326

370



始



326
376

大正七年十月

西比利亞經濟事情概要

(調乙第十八號)

朝鮮銀行調查局

326-370

(1)



一邦人動モスレハ西比利亞ヲ以テ不毛ノ原野、荒涼タル氷原ノミト爲シ甚タシキハ之ヲ以テ單ニ露國囚徒ノ流謫地ニ過キスト思惟スルモノナキニアラス其ノ經濟的價值ニ至リテハ全ク徒閑視スルモノ今尙尠カラサルハ吾人ノ深憂ニ堪ヘスト爲ストコロナリ蓋帝國ノ經濟的發展ハ今ヤ滿洲ヲ其ノ勢力圈ニ收メ西比利亞トハ壤域互ニ相接シ之ト極メテ密接ナル關係ヲ有スルニ至レル今起同地方ノ經濟事情ヲ知悉シ之カ富源ノ開發ヲ計リ以テ其ノ經濟的發達ヲ援助スルハ晉隣邦ノ責務タルノミナラス亦我カ國是タル經濟的勢力ノ對外發展ヲ企圖スル所以ニ外ナラスト信ス露國ハ昨春革命勃發シタル以來政變相踵テ起リ國內紛亂殆ト寧日ナク其ノ影響ハ延テ西比利亞ニ及ヒ同地ノ秩序全ク敗壞シ其ノ經濟的施設ノ如キ殆ト舉ケテ絶滅セルモノノ如シ加フルニ過激派政府カ中歐帝國ト單獨講和ヲ締結スルヤ獨塊ノ勢力ハ露國ヲ壓シ更ニ遠ク極東露領ニ侵漸シテ現ニ西比利亞ニ於ケル露國軍隊ハ獨塊俘虜ヲ混ヘ實際ニ於テ

例言

与寄贈本

7 11 1
寄贈

正誤表

頁數	行數	誤	正
三	一四	ゴカギール	「五十五度」ノ下「以北五十七度」挿入
五	九	ユカギール	ユカギール
六	六	ゴリヤーク	ゴリヤーク
六	二	マリシヤン	アリシヤン
一八	一四	ヤクートスク縣	ヤクートスク州
一八	一六	三縣三州	「エニセイスク縣」ヲラスノヤルスク市挿入
二一	九	ヤクートスク縣	二縣二州
二二	五、八、一〇	ヤクートスク縣	ヤクートスク州
二五	二	チユクナ	チユクチ
二五	二	ヤクーツ	ヤクーツ
三九	四	砂金	砂鐵
三九	七	八百萬布度	八百布度
七五	一〇	斃死	斃死
九八	六、七	一九〇六年	一八九六年
一三七	一	一平方アルシン(五平方フート九分ノ四)	一平方アルシン(九平方アルシン)
一三七	二	一平方アルシン(九平方アルシン)	一平方アルシン(五平方フート九分ノ四)

ハ其ノ指揮權ヲ掌握スルノ状態ヲ現出セリ此ノ時ニ當リ帝國政府ハ英米佛ノ與國ト共ニ軍隊ヲ烏港ニ派遣スルノ議ヲ決シ既ニ其ノ一部ハ同地ニ上陸セリ將來其ノ軍事行動ノ發展ト共ニ同地ニ於ケル帝國ノ利害ハ一層緊密ヲ告クルニ至ルヘキハ言ヲ俟タサル所ニシテ此ノ點ヨリ觀ルモ西比利亞經濟事情ノ研究ハ今日ニ於テ特ニ其ノ必要加重セラレタリト云フヲ得ヘシ

本書ハ叙上ノ目的ヨリ同地ニ於ケル經濟事情ノ一斑ヲ編述シテ當行執務上ノ參考タラシメントスルニ在リ唯其ノ資料ハ多ク内外既刊ノ典籍ニ據リタル爲最近ノ事實ヲ網羅スルコトヲ得サリシト又引用ノ材料中往々正確ナラサルモノアリ其ノ記述中誤謬ナキヲ保シ難キハ豫メ讀者ノ諒察ヲ請ハサルヘカラサル所ナリトス

一本調査ハ當局員室谷俊松氏之ヲ擔當セリ

大正七年八月

朝鮮銀行調查局

目次

第一章 總說.....一

 第一節 西比利亞ノ地理的概観.....一

 一、西比利亞ノ位置.....一

 二、西比利亞ノ地勢.....二

 三、西比利亞ノ住民.....四

 第二節 西比利亞ノ沿革.....八

 第三節 西比利亞ノ行政組織及其區分.....一七

第二章 東部西比利亞.....二四

 第一節 概說.....二四

 第二節 農業.....二九

 第三節 林業.....三二

 第四節 漁獵.....三四

第五節	鑛業	三七
第六節	工業	四二
第七節	商業	四三
第八節	都市	四六

第三章 中部西比利亞

第一節	概說	五一
第二節	農業	五八
第三節	漁獵	六一
第四節	鑛業	六二
第五節	工業	六六
第六節	商業	六七
第七節	都市	六九

第四章 西部西比利亞

第一節	概說	七二
-----	----	----

第二節	農業	七八
第三節	漁獵	八三
第四節	鑛業	八三
第五節	工業	八六
第六節	商業	八七
第七節	都市	八九

第五章 西比利亞ノ鐵道

第一節	西比利亞ニ於ケル鐵道敷設ノ沿革	九三
第二節	西比利亞ノ既設鐵道	一〇〇
一、	オムスク鐵道及トムスク鐵道	一〇〇
二、	後貝加留鐵道	一〇一
三、	烏蘇里鐵道	一〇二
四、	黑龍鐵道	一〇二
五、	亞爾泰鐵道	一〇四

六、アチンスクーミスシンスク鐵道……………一〇五

七、ボダイボ狹軌鐵道……………一〇五

第三節 鐵道敷設計畫……………一〇六

附 錄

第一 西比利亞ニ於ケル工業ノ發達……………一一一

第二 西比利亞ニ於ケル信用期間……………一一八

第三 西比利亞ニ於ケル米國農具販賣會社ノ組織及取引方法……………一二二

第四 西比利亞ニ於ケル毛皮貿易……………一二四

第五 北氷洋航路ト西比利亞貿易……………一二八

第六 日露度量衡比較表……………一三六

西比利亞經濟事情概要

第一章 總 說

第一節 西比利亞ノ地理的概觀



一、西比利亞ノ位置

地理ノ歴史ノ基礎ナリトハ往々ニシテ人ノ稱スル所ナルト共ニ一國ノ地理的状態ハ該地方住民ノ經濟生活ヲ律スルノ骨組ナリト云フモ亦敢テ妨ナカルヘシトハ西比利亞探家ノ權威タルエム、ビー、ブラ
 イス氏ノ喝破セル處ニシテ西比利亞ニ於ケル經濟事情カ同地ノ位置、氣候、地勢等自然的状态ヲ知ルニア
 ラサレ、之ヲ子解スルコト能ハザルヘシ即チ西比利亞トハ亞細亞ノ北部ニ位置スル露國ノ領土ニシテ北
 緯四十七度二十三分ノ圖滿江口ヨリ起リ七十七度三十四分ニ至ル間凡三十五度十一分ノ緯度線ヲ有シ東
 經凡六十度ノ烏拉爾山脈ヨリ遙ニ西經百七十度ノベールング海峽ニ至ル約百三十度ノ間ニ擴カリ東西約
 四千百哩南北約二千二百哩其ノ總面積五、三三五、二七六方哩ヲ有ス即チ全地球陸地總面積ノ十三分ノ一
 ヲ占メ歐羅巴全土ノ一倍半、亞細亞全土ノ三分ノ一ヲ有ス之ヲ歐露ニ比較スレハ其ノ二倍三分ノ一ニ當
 リ又我カ帝國全領土ノ二十倍ニ達スル大領域ナリトス而シテ北方ハ北氷洋ニ沿ヒ東方ハ太平洋ニ面シ

ベールリグ海峡ヲ以テ我カ千島列島ト相連リ灣曲シテオコーツク海ニ樺太島ノ北半ヲ領シ日本海ヲ距テテ帝國ト相對シ更ニ南方ハ其ノ一隅圖滿江口ヲ以テ朝鮮ト相接セル外滿洲、蒙古及西藏ノ支那領土ハ數千哩ニ亘リテ之ト相界シ西方ハ其ノ大部分烏拉爾山脈ニ依リテ歐羅巴露西亞ト相連レリ而シテ西比利亞ハ斯ノ如ク北方ノ一帶北氷洋ニ相面シ其ノ寒風ヲ碍キル山嶽ナク加フルニ土地ハ南ヨリ北ニ至リ自然ニ傾斜ヲ爲シ南部國境ニ近クアルタイ、サヤン、ダウル等ノ諸山脈アリテ南風ヲ碍リ且東部ハスタノールウオイ山脈南北ニ連リテ太平洋トノ氣流ヲ絶ツ之レ西比利亞ノ歐洲ニ於ケル他ノ同緯度ニ位スル諸國ニ比シ殊ニ寒威酷烈ナル所以ナリトス而モ此ノ廣漠ナル領域ニハ黑土地帶ヨリ成ル豊饒ナル大平野ノ所々ニ存在シ彼ノ西部西比利亞ニ於ケル一黑土地帶ノ如キ將來充分ニ開拓ヲ見シカ單ニ此ノ地ヨリ産出スヘキ小麥ハ優ニ歐露全人口ノ五倍ヲ養フニ足ルモノアリト云ヘルカ如キ又其ノ山岳ハ無限ノ鑛脈ヲ藏シ金、銀、白金、鐵、石炭、諸種ノ寶石、有要ナル鑛物ハ頗ル豊富ニシテ今日採掘セラルルハ僅ニ九牛ノ一毛ニ過キサレモ而モ露國産金額ノ十分ノ八ハ一ニ西比利亞ヨリ産出セラルルモノナルヲ知ラハ如何ニ西比利亞鑛業ノ前途ノ多望ナルヤヲ知ルニ足ルヘク其ノ他牧養ニ供スヘキ廣漠ナル原野、鬱蒼タル森林等其ノ經濟的價值頗ル偉大ニシテ之カ開發利用ハ將來世界の大事業タルニ至ルヘキナリ

二、西比利亞ノ地勢

西比利亞ハ其ノ地勢及氣候ニ因リ之ヲ四地帶ニ區分シテ叙述スルヲ便宜トス即チ凍土帶、森林帶、曠野

帶及山嶽帶是ナリ

一、凍土帶又ハ苔蘚地帶ハ北緯六十二度以北ニシテ北氷洋ノ海岸ニ沿ヒ地勢卑低時々暴風ヲ起シ波濤撼搖シテ海岸ニ上リ冬季ハ水陸共ニ氷結シテ其ノ分界ヲ識別スルコト能サルニ至ルヲ常トス湖水ノ深サ十四五尺ニ達スルモノアルモ嚴寒ニ至レハ水底迄氷トナリ此ノ地帶ヲ流ルル河川亦悉ク結氷ス北氷洋ノ海岸地方ハ一般ニ地下二百米ニ至ル迄深ク氷結シ殊ニヤクトスク州北部地方ノ如キハ其ノ地下二百七十米ニ及フト稱セラル而シテ夏季至レハ地下一米内外解氷シ僅ニ野苔、紅覆盆子、紅莓苔等ノ寒帶植物ノ生育スルニ止マリ又八月ヲ過クレハ最早冬季ノ兆候ヲ示シ一面唯渺茫タル大平野ハ再ヒ白皚皚タル氷野ヲ出現スルニ至ルヲ常トス

二、森林帶ハ北緯五十七度ヨリ六十二度ノ間ニ延長スル森林地ノ總稱ナリ此ノ地帶ハ處ニ依リ趣ヲ異ニシ氣候稍温暖濕潤ナル地方ハ銀松、新羅松、樺、赤楊ノ喬木類繁茂シ猛獸其ノ間ヲ徘徊シ概シテ濕氣ノ甚シキヲ以テ蚊虻等ノ昆蟲多ク土人ハ之ヲ防クニ年中「ベール」ノ如キモノヲ以テ顔ヲ掩ヒ夜間室内ニ安臥セントセハ先ツ薰煙ヲ以テ之ヲ驅逐シ堅ク戸ヲ鎖スヲ常トス冬季ハ寒氣極メテ酷烈ニシテ氷點以下四十度乃至四十五度ニ降ルコト珍ラシカラス貴重ナル毛皮獸類ハ多ク此ノ地帶ニ栖息ス

三、曠野帶ハ北緯五十五度以南即チ西比利亞地方大山脈ノ間ニ横ハルバラバ、ミスシンスク、プラト等ノ平地ヲ云フ就中バラバ曠野ハ腐植土ヨリ成リ春季ハ水分ヲ吸收シ夏季ニ至レハ日光ヲ受ケテ腐敗シ

一種ノ蒸氣ヲ發スルカ爲人類及家畜ニ對シテハ往々危害ヲ及ホスノ虞ナキニアラサルモ全西比利亞ヲ通シ地味最沃饒氣候亦温暖ノ地ニシテ歐露ヨリノ移民ハ大部分此ノ地方ニ集中シ農牧ノ業最盛ナリ

四、山岳帶ハ南部東部ニ連亘セル諸山脈ヨリ成リ即チ烏拉爾山脈、亞爾泰山脈、サヤン山脈、スタノ

ウオイ山脈、黑龍江山脈、堪察加山脈ノ地方之ニ屬ス其ノ南部一帶ノ山脈ハ最高峻ニシテ西比利亞ノ

河川ハ大抵茲ニ源ヲ發ス

三、西比利亞ノ住民

西比利亞ニ於ケル人口ハ一九一五年ノ調査ニ依ルニ二、七九九、三〇〇人ヲ算シ此ノ内最大多數ヲ占ムルハ露國人ナルコト言ヲ俟タサル所ナルモ尙歐米人、日本人、朝鮮人、支那人、猶太人、韃靼人ノ住居スルモノ少カラス尤モ猶太人、韃靼人ト稱スルモノ其ノ全部ハ殆ト露國ニ歸化セルモノニシテ其ノ他獨逸人及朝鮮人中ニ於テモ亦歸化セルモノ尠カラス唯日本人及支那人ニ至リテハ殆ト歸化セルモノヲ見ス右露國中純露人及上記歸化露人ヲ除キ固有土人今尙各所ニ存在シ地方ニ依リ遙ニ純露人ノ數ヲ凌駕スルモノアリ一例ヲ舉クレハセミバラチンスク州ノ如キ其ノ全人口ノ殆ト七割八分ハ此等土着ノ土人ヨリ成レリ而シテ彼等ハ現在政治上又ハ經濟上何等ノ勢力ヲ有セスト云フヲ得ヘキモ其ノ蒙古人種ニ屬スル「ブリヤート」族ノ如キ性情活潑殊ニ智識能力ノ發達ニ於テ毫モ露國農民ニ遜色ナキモノ少カラス從フテ彼等ハ將來必スシモ經濟上輕視スヘカラサル一因子タルノ機ナキヲ期スヘカラサルモノアリ今西比利亞

固有土人ニ關シ一言スルノ無用ニアラサルヲ信ス

西比利亞土人ノ數ニ就テハ正確ナル統計ヲ缺クモ一八九七年ニ於ケル露國政府ノ調査ニ依レハ總人口六百萬人此ノ内固有土人ハ約一百万人ト稱セラレ又有名ナルバツカノフ氏ノ一九一二年出版ノ西比利亞ノ人口ニ依レハ固有土人ノ總數ヲ八十七萬〇五百三十六人(男四十四萬二千四百五十九人、女四十二萬八千〇七十七人)ト算セルモ多クノ學者ハ之ヲ約一百万ト爲スモノノ如キヲ以テ現在西比利亞土人ノ總數ヲ約一百万人ト見テ大差ナカルヘシ

西比利亞固有ノ土人ハ之ヲ人種學上ヨリ見ルトキハ全ク蒙古人種ニ屬ス之ヲ大別スルトキハ古西比利亞及新西比利亞ト爲スコトヲ得ヘク前者ハ現時堪察加半島、ペーリング海峡沿岸地方ニ居住セル「ギリヤーク」、「カムチャダール」、「コリヤーク」、「チュクチ」、「コカギール」及「エスキモー」等ヲ含ミ後者ハ烏拉爾山以東スタノウオイ山脈迄ノ間ニ擴カリ「フキン」族、「トルコ」族、「ツングース」族、「モンゴル」族等ニ分レ學者ノ所謂「ウラル、アルタイ」民族ト稱スルモノ是ナリ而シテ之ニ包含セラルル諸種族ハ言語、風俗相類スルモノアリ其ノ間多少ノ連絡アルモ古西比利亞ニ屬スル各種族ニ至リテハ便宜上之ヲ一括セルニ過キスシテ其ノ間人類學上何等ノ關係ヲ有セス全ク各別個ノ位置ニ立ツモノナリト云フ第十七世紀ノ中葉エルマーク烏拉爾山ヲ踏破シテ西比利亞ニ侵入セル以來此ノ二種ノ西比利亞族カ其ノ土地ヲ露國人ニ奪ハルルニ至リタルト等シク往昔ニ在リテハ西比利亞ノ大半ハ古西比利亞族ニ依リテ占據セラレタ

リシモ後新西比利族ノ侵入ニ會ヒ遂ニ東北方ニ退却スルニ至リシモノニシテ此ノ事實ハ上述兩民族ノ地理的分布ニ依リ之ヲ明ニスルヲ得ヘシ

今左ニ古西比利族ニ關シ述フル所アラントス

一、「チュクチ」族 ベーリング海峡附近ニ住シ人口一萬千七百七十一人アリ今尙石器時代ノ位置ニ屬ス而モ往昔ヨリベーリング海峡ヲ渡リテ北亞米利加ノ對岸ニ赴キ之ト貿易ヲ爲シ居タル形跡アリ

二、「スリヤーク」族 「チュクチ」ノ南、堪察加半島ノ中央部トノ間ニ住シ七千三百三十三人ヲ有ス今尙穴居ノ状態ニ在リ

三、「チュハニー」族 チュアン灣ノ沿岸ニ住シ四百五十三人アリ

四、「カムチャダール」族 堪察加半島南部ノ土着人ニシテ「コリヤーク」ノ南ヨリ同半島ノ南岬ニ及フ人口二千二百〇五人、今日露西亞化セルモノ多シ

五、「エスキモー」族 往昔北米ヨリ移住シ來レルモノニシテベーリング海峡ノ附近ニ住ス其ノ數二千五百人

六、「アリユート」族 北米アラスカ半島ト堪察加半島トヲ連続セルマリシヤン諸島ニ住ス約五百七十四人アリ

七、「ユカギール」族 西比利亞ノヤナ河トコリマ河ト下流ニ住シ七百五十人アリ

八、「エニセイノ」オスチャツク」族 エニセイ河ノ下流ツングスカ附近ニ住シ九百八十八人ニ過キサレモ

昔時ハ優勢ナル民族タリシト云フ

九、「ギリヤーク」族 黑龍江口及樺太島ニ占據シ二千人許ノ人口ヲ有ス

右列舉セル古西比利族ハ初メ大陸ノ良地ニ住シ勢力ヲ有セシモ新西比利族ノ侵入シ來ルニ會シ其ノ住地ヲ占領セラレ漸次極地海岸諸島ニ退却セルモノナルコト前ニ一言セル所ノ如シ斯クシテ第二ノ主人公タルニ至レル新西比利族トハ何ソヤ左ニ之ヲ略述スヘシ

一、「フキン」族 西比利亞ニ於ケル「フキン」族ニ二種アリ一ハ「ウグリアン、オスチャツク」ニシテ他ハ

「ボーグル」ナリ前者ハタボーリス州ノ北部オビ河下流及エニセイ河畔ニ住シ人口一萬七千二百人アリ後者ハオビ河ノ中央部ヨリベレゾフ又ハ烏拉爾地方ニ住シ七千五百人アリ多クハ漁業又ハ狩獵ニ従事ス

二、「サモエード」族 馴鹿ヲ御シ水草ヲ逐フテ北地ヲ游牧スルモノ人口七千四百七十人

三、「トルコ」族 所謂突厥族ノ一部ニシテ主トシテレナ河畔、ヤクトトスク州ノ各地及黑龍江畔ニ住ス

「トルコ」族ニ屬スルモノニシテタボーリスク、トムスク地方ニ住スル「トルコ、タルタル」セミバラチンスク、アクモリンスク地方ニ住スル「キールギース」其ノ他多クノ種族アリ人口二十八萬八千五百九十九人アリ

四、「ツングース」族 滿洲ニ住スル女眞、滿洲人ト同一種族ニ屬シ廣ク西比利亞各地ニ散布セラル其ノ人口七萬六千五百人ト稱セラル之カ代表者トシテ下部ツングースカ地方ニ住スル「チャボギル」、下部黒龍江畔ノ「ゴルデキ」、オコーツク海岸ノ「ラムート」、中部黒龍江畔ノ「マネーグル」、太平洋沿岸ノ「オルチ」、オレクマ河畔ノ「オロチヨン」等ヲ舉クルヲ得ヘシ

五、蒙古族 主トシテ貝加爾湖畔及其ノ以東ノ地方ニ住シ其ノ代表民族ヲ「ブリヤート」トス其ノ人口二十八萬八千五百五十五人ニ上リ從來漁獵ヲ以テ唯一ノ生業トセシモ日露戰役以來從來ノ天然的生活ヲ捨テテ次第ニ耕作ニ從事スルノ傾ヲ生セリ性質快瀾ニシテ智識、能力、露國農民ニ優リ而モ堅忍不拔ニシテ自治ノ精神頗ル旺盛ナリト云ヘリ今ヤ露本國勢力ノ減退セルニ當リ西比利亞ノ將來ニ對シ本民族ノ貢獻スル所如何ハ極メテ興味アル問題ナリト信ス

第二節 西比利亞ノ沿革

西比利亞トハ蒙古語ノ「シビール」即チ森林地ヨリ轉化シタルモノニシテ往昔蒙古ニ住シ後現今タボールスク縣ニ屬スルイルツイシ河中流附近ニ移住セル人種ヲ「スイウキル」又ハ「スイビール」ト稱セリ其ノ後中央亞細亞ヨリ來リタル韃靼人ハ右「スイウキル」人種ヲ征服シ其ノ部將庫程汗ノ居城ヲ茲ニ定メ之ヲ「シビール」城ト名ケシカ露國之ヲ攻略シテ同地方一帯ヲ西比利亞ト稱セリ以來亞細亞ニ於ケル露國領域

ノ擴大ト共ニ當初渺タル一蠻族ノ居城ニ過キサリシ西比利亞ナル名稱カ遂ニウラル以東太平洋ニ達スル大領域ノ總稱タルニ至レリ而シテ西比利亞カ露國民族ト交渉ヲ有スルニ至リシハ紀元十一世紀ノ初歐露ノ「ゴロウド」大公國カ烏拉爾以東ノ森林地帯ノ貴重ナル毛皮獸ニ富メルヲ知り毛皮蒐集者ヲ派遣シ土人ト交易ヲ爲サシメタルニ始マレリト雖露國カ政治上全西比利亞占領ノ基礎ヲ確立スルニ至リシハ蓋シ十六世紀ノ末葉哥薩克ノ英傑エルマークノ西比利亞ニ入りタボール、イルツイシ兩河ノ交會地ニ存立セシ「シビール」ノ地ヲ攻略シテ西比利亞韃靼族庫程汗ヲ征服セルニ端ヲ發スト云ハサルヘカラス現今「シビール」城ノ舊趾ヲ距ル十六哩ノ上流タボールスク市ニ屹立セル長方形「ピラミット」形ノ一大石碑ノ表面ニ「西比利亞ノ征服者エルマーク」ト刻シ裏面ニ「一八三九年建立」他ノ一面ニハ「一五八一年西比利ヤ征服ス」又他ノ一面ニハ「一五八四年エルマーク戰死ス」ト刻記セルモノ即チ彼エルマークノ勳業ヲ永ヘニ傳フルモノナリ

エルマークハモト河賊ヲ以テ業トシ屢ヴオルガ河上ヲ掠奪セルヨリ時ノ皇帝イワン四世ノ爲ニ追ハレ一五七五年六千ノ部下ト共ニヴオルガ河ヲ脱シテカマ河ノ上流ニ走り土地ノ豪族ストロガノウイ家ニ投セリ當時同家ハ屢西比利亞庫程汗ノ侵略ヲ受ケ之カ防備ニ苦心セルヨリ歡テエルマークヲ迎ヘ彈藥兵糧ヲ與ヘテ庫程汗ヲ討タンコトヲ懇請セリ茲ニ於テ乎エルマークハ一五七八年九月船ニ乘シテチウリウオイ河ヲ遡リ初テ西比利亞ニ入レリ是ヨリ幾多ノ河川ヲ上下シテ深ク西比利亞ノ内部ニ侵入シ一五八一年十

月二十三日チウワシスカ山麓ニ於テ大ニ庫程汗ノ軍ヲ敗リ更ニ長驅シテ同月二十六日西比利亞ノ首府イスケル即チシビルニ入城シタリ此ノ一戰ハ實ニ烏拉爾以東ニ露人ノ勢力ヲ確立セル端緒ナリトスエ
ルマークハ皇帝イワン四世ニ使者ヲ遣ハシ新ニ西比利亞ヲ征服セルコトヲ報告シ新領土ヲ皇帝ニ奉獻ス
ルト共ニ彼ノ前過ヲ赦免セラレンコトヲ奏上シ其ノ容ルル所トナリ斯クシテ遂ニ西比利亞ハ露國ノ有ト
爲レリ

一五八四年エルマークハ再度遠征ノ途ニ上リイルツイシ河ヲ遡リ同年八月五日シシーノ小流ニ達シ茲ニ
夜營ヲ張レリ其ノ夜半連日ノ行旅ニ全軍眠リテ死セルカ如ク加フルニ暴雨俄ニ到リテ殆ト咫尺ヲ辨セス
此ノ時ニ當リ突如韃靼軍ノ夜襲ニ遇ヒ全軍奮闘力戰ノ後殆ト全滅シ彼亦河中ニ逃レントシ遂ニ溺死セリ
而シテ其ノ居城亦庫程汗ノ奪フ所トナリ彼ノ遺業ハ斯クシテ水泡ニ歸セシカ如クナリシト雖莫斯科政府
ハ直ニ遠征軍ヲ派シテ之ヲ回復シタルノミナラス此等新領土ノ占領ヲ確固ナラシムル目的ヲ以テ西比利
亞ニ多數ノ郡市ヲ建設セリ即チチメーニ市(一五八六年)タボリースク市(一五八七年)ベルイム市、ベレ
ゾフ市、スルグート市(一五九二年)ツエルホツーリエ市(一五九八年)等はナリ是等ノ各市ニハ守備兵ト
食糧ヲ配給シ之ヲ根據地トシテ新ニ深ク西比利亞ノ内部ニ侵入スルノ策ヲ講セリ

斯クシテ各地ヲ進發セル哥薩克ハ鐵蹄長驅深ク西比利亞ノ内部ニ侵入シ遂ニ黑龍江ノ上流ニ達セリ即チ
第十七世紀ノ初メニハエニセイ河域ヲ占領シトムスク市(一六〇四年)及クラスノヤルスク市(一六二八

年)ヲ建設シ尙東進レナ河ニ至リヤクトスク市(一六三二年)及其ノ他ノ市邑ヲ創設セリ一六三〇年乃
至四〇年ノ間ニ於テアルダン、マイア、ニユドマ諸河上流ヨリオコーツク海ニ通スルノ途ニ達セリ又エニ
セイ河ヲ下リテ北氷洋ニ進ムニ當リテ遠征隊ハヤナ、インジガルカ、コルイマ及アナドイルノ諸河口ニ
達シ悉ク此等ノ地方ヲ征服シ又ヤクトスク地方ニハオレクミンスキイ城砦(一六三五年)ニジネコルム
イスク(一六四四年)及オコーツク(一六四八年)ノ諸堡ヲ建設シ此等ノ堡上ニ初メテ露國國旗ヲ翻セリ
其ノ後一六四九年哥薩克ノ隊長ボウロウイチ、ハバロフナルモノ黑龍江ニ進發シテ之ヲ攻略シ一六五一
年其ノ河岸アルバジンニ城砦ヲ建設シ更ニ烏蘇里河口ニ進ミテ之ヲ占領シ黑龍江左岸ノ地ハ全ク露國ノ
有ニ歸セリ後年ムラビヨフ伯カ烏蘇里河口ニ一市ヲ建設シ之ヲハバロフスクト稱セルモノ此ノ征服者
ノ功績ヲ紀念センカ爲ナリ支那ハ當時清ノ康熙帝ノ治世ニシテ國勢最隆盛ヲ極メタルノ時ナリキ同國ハ
國境上ニ露人ノ活動ヲ坐視スルニ忍ヒス寧古塔ニ兵二千ヲ駐在セシメ尙江上ニ船隊ヲ浮ヘ陸上ニハ露國
要塞ノ前面ニ一城砦ヲ築キ專ラ露人ノ南侵ヲ防禦スルニ努メタリ之カ爲哥薩克トノ間ニ紛擾絶ヘス遂ニ
アルバジン其ノ他ノ露國要塞ヲ燒棄セル等露支兩國ノ國境上ニ於ケル衝突ハ益其ノ度ヲ高ムルニ至レリ
時ノ露國ベテロ大帝ハ斯ル状態ノ繼續スルヲ以テ兩國ニ不利ナリト想定シ一六八九年一月ゴロウイン
ヲ全權委員トシテ支那ニ遣ハシ國境ノ一地點ニ於テ講和ヲ議センコトヲ發議シ且支那委員ノ同伴セルト
同數ノ隨員ヲ隨伴スルコトト爲スヘク豫メ會場、時日及隨員ノ數ヲ通知センコトヲ求メタルニ支那政府

ハ直ニ之ニ應諾シ會場ヲネルチンスクト定メ隨員ハ其ノ目的兩國恒久ノ平和ニ存スルヲ以テ僅ニ委員ノ身邊ヲ保護スルニ必要ナル人員ノ外ハ之ヲ隨伴セサル旨ヲ通告シ來リタリ茲ニ於テ同年八月十八日露國委員ネルチンスク市ニ到着セルニ支那委員ノ一行ハ兵一萬ヲ引率シテ既ニ此ノ地ニ到着セルヲ發見シ早クモ機先ヲ制セラルルノ觀アリ會議ハ同月二十二日ヲ以テ開始セラレ九月七日甚タシク露國ニ不利ナル一條約ヲ締結スルニ至レリ是レ即チネルチンスク條約トシテ世ニ知ラレ支那カ歐羅巴諸國ト締結シタル最初ノモノニシテ且最光榮アルモノト稱セラルルモノナリ其ノ條項中主要ナル點左ノ如シ

一、露支兩國ノ境域ヲゴルベチ河及其ノ水源地ヨリ東海ノ方向ニ通過セル興安嶺ヲ以テ限リトシ其ノ以南ヲ支那ニ其ノ以北ハ露國ニ屬スルモノトナシ更ニアルグン河ヲ以テ兩國ノ境トナシ其ノ以東ハ支那領以西ハ露國ト定メアルグン河以東ニ創設シタル露國ノ市城及住家ハ悉ク河北ニ移スコト

二、露國カアルバジンニ築造シタル堡壘ハ悉ク破却スヘシ且該城壘中ニ住居セル露人ハ其ノ財產ヲ携ヘテ露領ニ轉住スヘキコト

其ノ他數多ノ條項アルモ要スルニ露國ハ曩ニ刻苦經營領有セル黑龍江左岸即チ今ノ黑龍州ヲ支那ニ還附シタルニ過キス本條約ノ全文ハ韃韃、支那、露西亞及羅典ノ四國語ヲ以テ之ヲ碑石ニ刻シ一六九〇年之ヲアルグン河口ニ建設セリ

是ヨリ先哥薩克ノ一隊ハオコーツク海ニ達シ行ク々々太平洋ノ沿岸ヲ征服シ來リシカ更ニ一六九七年以

來堪察加半島ニ出兵シテ一七一一年同半島ヲ占領シテ之ヲ露領ト公布シタルノミナラスカタリナ二世ノ時ニ至リ尙一步ヲ進メスバンケンベルヒヲシテ日本北部ノ諸島ヲ巡歴セシメ又日本ノ漂流民ヲ撫育シテ專ラ日本ノ國情ヲ探知セントシ且イルクートスク市ニ日本語學校ヲ開キ歸化漂流民ヲシテ日本語ヲ教習セシムル等專ラ他日我邊境ノ侵略ニ資スルニ汲々タルモノアリ更ニ皇帝アレキサンドル一世ハ屢學術的ノ遠征隊ヲ派遣シテ專ラ支那ノ國情ヲ調査セシメ其ノ財政兵力等ノ實際ヲ討究シ之ヲ本國ニ報道セシメタルカ就中一八四〇年以來黑龍江地方ノ研究ハ益必要トナルニ至レリ蓋シ當時外國船ニシテ捕鯨ヲ業トスルモノ多クハオコーツク海ヨリベールング海ノ方面ニ出沒シ又英國船ハ支那トノ鴉片戰爭ニ勝チテ香港ヲ割取シタル以來大ニ南支方面ニ雄飛シタルヲ以テ露國ニシテ苟クモ極東ニ於ケル權利ヲ擁護シ太平洋上ノ霸權ヲ掌握セントセハ必スヤ先黑龍江地方ノ領有ヲ恢復シ以テ黑龍江ノ水運ニ依リ極東トノ連絡ヲ安全且迅速ナラシムルノ必要アルヲ以テナリトスニコラス一世夙ニ此ニ見ルアリ一八四七年九月當時ツラ知事タリシムラビヨフヲ拔擢シテ東部西北利總督ニ勅任シ專ラ此ノ方面ノ探檢ニ從事セシメタリムラビヨフ即チネベルスキー提督ニ託スルニ太平洋上ノ探檢ヲ以テシ自ラ一八四八年陸路イルクートスクニ着シ翌年親シク堪察加半島ニ至リ其ノ地ノビオートルバフロフスクカ露國艦隊ノ根據地トシテ最適當ノ地ナルコトヲ發見シ茲ニ要塞ヲ築造セリ尋テ彼ハ此ノ地ヲ發シテ樺太島ニ航シネベルスキー提督ニ邂逅シ其ノ報告ニ依リ樺太ハ半島ニアラス又黑龍江ハ從來ノ報告ト異ナリ大船ノ航行ニ適當セル水深ヲ

有スルコトヲ確メ一八五〇年其ノ沿岸一帯ノ地ヲ露國ノ領有ナリト宣言シ且河口ノ地ニニコライエフスクノ一小村ヲ創立シ茲ニ露國ノ國旗ヲ掲揚セリ更ニ一八五二年デカストリース灣ヲ又翌一八五三年アレキサンドロフスク、マリインスクノ二港ヲ略取シテ益々黑龍江下流ノ地ニ勢力ノ扶殖ヲ計レリ然ルニ一八五四年ニ至リ歐洲ノ風雲轉々急變ヲ告ケ英佛兩國ハ土耳其ト結ヒテ露國ニ宣戰スルニ至リシ結果其ノ影響ハ東洋ニ波及シ英佛兩國ハ太平洋沿岸ニ在リタル露國艦隊ノ隨時東海ニ出沒シ英佛兩國ノ通商ヲ脅サシコトヲ虞レ其ノ兩國聯合艦隊ヲシテビオートルバフロフスク、デカストリース灣、マリインスク、ニコライエフスク等ヲ襲撃シタルヲ以テ當時露都ニ靜養中ナリシムラビヨフハ急行イルクートスクニ歸リ支那政府ノ許諾ヲ受ケス自カラ七十五艘ノ舟ヲ引率シテ一八五四年五月黑龍江ヲ下リ前記ノ諸地方ヲ巡回シ或ハ修築ヲ行ヒ或ハ新ニ營所ヲ築造シ或ハ道路ヲ改修シ橋梁ヲ架設シ專ラ其ノ防備ヲ嚴ニシ尋テ翌一八五五年再ヒ遠征隊ヲ率ヒテ黑龍江ヲ下リ其ノ左右兩岸ニ村落邑里ヲ新設シ且ニコライエフスクニ要塞工事ヲ起シ益其ノ經營ヲ進メタリムラビヨフノ江ヲ下リテ烏蘇里河トノ分流地點ニ達スルヤ鬱蒼タル樹林ハ明媚ナル水色ト相映シ壯麗比ナキ一岬角アルヲ見彼即チ「此處ニ市街ヲ建設スヘシ」ト叫ビ且黑龍江最初ノ遠征者タルハバロフノ名ヲ以テ之ニ付スヘシト命セリ今ノ所謂ハバロフスク市ハ即チ此ニシテ同市綠樹鬱蒼タル高地ニ屹然トシテ峙立シ行人ノ眼ヲ奪フモノハ彼ムラビヨフ、アムルスキー伯ノ銅像ナリトス

上述ノ如クムラビヨフカ支那ノ承諾ヲ得ルコトナク肆ニ其ノ領土タル黑龍江ニ兵船ヲ浮ヘ又同河岸ノ地ヲ占領セルニ對シ支那政府ハ強硬ナル抗議ヲ爲シ露國ニ嚴談スルトコロアリ是ヨリ先キ露國外務大臣ネツゼルドルフハ事毎ニムラビヨフノ政策ニ反對シ極東ニ於ケル露國ノ政策ハ一ニ支那政府ノ感情ヲ害セサルヲ以テ限度トスヘシトシ專ラ退嬰消極主義ヲ唱ヘ曩ニ黑龍江口ヲ占領シニコライエフスクノ地ニ露國國旗ヲ掲クルヲ聞クヤ直ニ之ヲ撤去セシムヘキヲ主張シ之ヲ皇帝ニ上奏セシニコラス一世ハ「一度掲揚セル露國國旗ハ之ヲ下スヘカラス」トノ有名ナル詔勅ヲ下シ遂ニムラビヨフノ意見行ハルルニ至リシカ如ク前述支那政府ノ抗議ニ對シテモ外務省ハ直ニ其ノ要求ヲ容レ單ニ黑龍江ノ自由航行ト糧食薪炭ヲ貯藏スヘキ倉庫建設トニ對シ清國ノ許諾ヲ求ムルヲ以テ満足セントセリ時恰カモ露都ニ歸還セルムラビヨフハ痛ク政府ノ軟弱ナル外交方針ニ反對シ黑龍江地方ノ現狀ヲ開陳シ強硬ノ態度ヲ採リテ一步モ讓ルコトナク既ニ占領シタル黑龍江一帯ノ地方ハ露國領土ト爲シ且必要ニ應シ沿岸ニ數村ヲ建設スルノ許可ヲ受クヘキヲ切論シ新帝アレキサンデルノ勅許ヲ得タリ是ニ於テ露國政府ハ一八五六年十月ヲ以テ沿海州ヲ新設シ且ニコライエフスクヲ黑龍江總督府ノ所在地ト確定セルコトヲ公布シテ軍事占領ヲ確實ナラシメタリ是ヨリ先露支兩國ノ境界ヲ確定スルコトハ兩國ノ希望スルトコロナリシヲ以テ一八五八年五月十一日支那ノ全權委員ト愛理城內ニ於テ第一回ノ會見ヲナシ露國ハ黑龍江ノ領有ヲ主張セルモ支那ハ之ヲ肯セス議論徒ラニ沸騰シテ容易ニ決セザリシヲ以テムラビヨフハ自カラ起草セル條約案ヲ提出シ

テ十二日以後病ト稱シテ出テス且強硬ノ態度ヲ採リ一步モ讓歩スルコトヲ敢テセサリシヲ以テ交渉六日ニシテ支那委員遂ニ屈シムラビヨフノ提案ニ基キテ左ノ三條ヲ規定シ五月十六日相互ノ調印ヲ了シタリ之ヲ愛琿條約ト云フ

- 一、黑龍江ト烏蘇里江ヲ以テ露支兩國ノ境界トナスコト
 - 二、烏蘇里江ト日本海トノ間ノ一帶ノ地方ハ兩國ノ共有トナスコト
 - 三、露國臣民ニ烏蘇里江及松花江ノ自由航行ヲ許スコト
- 斯ノ如クシテ露國ノ極東ニ於ケル地位ハ鞏固トナリ其ノ勢力ハ益隆盛ニ向ヒツツアリシカ同年六月一日更ニ支那ト天津條約ヲ締結シ露國ハ北京ニ公使ヲ置キ數港ヲ露國人ニ開放シ且恰克圖ヲ通シテ露國トノ間ニ交通往來ノ便ヲ開クコト等ヲ約セリ其ノ後一八六〇年英佛聯合軍ハ北京城内ニ浸入シ清廷ハ殆ト其ノ措置ニ窮シタルニ乘シ時ノ露國公使イグナチエフハ其ノ間ニ居中調停ノ勞ヲ採リ支那ト英佛露トノ間ニ奔走シ遂ニ講和條約ヲ締結セシムルヲ得タリ斯クシテ露國ハ恩ヲ支那ニ賣リタルノ機ヲ利用シ曩ニ愛琿條約ニ於テ共有ト定メラレタル烏蘇里江ヨリ日本海トノ間ニ介在スル一帶ノ地方ヲ露國ニ割讓セシメ朝鮮ト境域相接スルニ至リタリ是ニ於テ東部西比利亞ノ經營ヲ以テ已ノ大任トセルムラビヨフ伯ハ益極東探險ノ事業ニ盡瘁シ尋テビクトリヤ灣ヲベテロ大帝灣ト改名シ一八六一年其ノ灣口ニウラヂホストツク港ヲ建設シ一八七二年以來此ノ地ヲ以テ極東ノ海軍根據地トナシ露國ノ東亞侵略上ニ最顯著ナル偉績

ヲ樹テタリ此ノ外一八六六年ニ樺太島ニ於ケル日露兩國間ノ境界劃定セラレ後一八七五年千島トノ交換ニ依リ樺太全島ヲ領スルニ至リタルカ如キムラビヨフノ此等兩島探險ニ負フ所頗ル大ナリトス思フテ茲ニ至レハ彼カアムルスキー伯爵ノ榮爵ヲ得タルモノ實ニ偶然ニアラサルナリ斯ノ如ク露國ハ英佛兩國カ北京城ニ迫ルニ當リ之ヲ調停シ其ノ報酬トシテ愛琿條約ヲ締結シ坐ナカラ黑龍、沿海二州ノ地ヲ割取シタルハ後年日支戰爭ニ際シ露國自カラ主唱トナリテ之ニ干涉シ遼東半島ヲ還付セシメテ恩ヲ支那ニ賣リ次テ東清鐵道敷設權ヲ得テ北滿洲ヲ自己ノ勢力圈内ニ求メ更ニ又旅順、大連ヲ租借シ東清鐵道ヲ茲ニ延長スルノ權ヲ獲得セルカ如キ恰カモ之ト符節ヲ合スルモノアルハ亦奇ナラスヤ

西比利亞ノ經濟的發達ニ對シ最大ナル貢獻ヲ有セルハ蓋シ鐵道ノ完成ナリトス殊ニ歐露ヨリ浦鹽斯德港ニ連絡スル所謂西比利亞鐵道ノ開通竝黑龍鐵道ノ敷設ハ西比利亞ノ外交、軍事、經濟各方面ニ重大ナル影響ヲ與ヘ又其ノ敷設計畫ノ一進一退ハ露國ノ極東ニ於ケル國際的地位ノ消長ト最密接ナル關涉ヲ有シ從ツテ西比利亞ノ沿革ヲ叙スルニ當リ最重要ニシテ且最興味アル一部ヲ爲スモノナリト雖此等ノ叙述ハ後章「西比利亞ノ鐵道」中ニ讓リ茲ニ之ヲ述ヘス

第三節 西比利亞ノ行政組織及其ノ區分

一八二二年七月二十八日露都ニ於テ西比利亞委員會組織セラレ當時ノ西比利亞總督スベランスキー氏ノ

建策ニ基キ一八二二年一月二十七日付元老院令ヲ以テ西比利亞ヲ東部及西部ノ二ニ分チ各之ニ總督府ヲ置キタリ即チ東部西比利亞總督府ハイルクートスク、エニセイスク、ヤクートスクノ三州竝オコソツク堪察加、沿海政廳ヲ管轄シ其ノ政廳ヲイルクートスク市ニ置キ又西部西比利亞總督府ハタボールスク、トムスク、オムスクノ三縣ヲ管轄シ其ノ政廳ヲタボールスク市(後之ヲオムスク市ニ移ス)ニ置キタリシカ後一八八四年ニ至リ東西ノ區別ヲ廢シ之ニ代フルニトムスク及タボールスクノ兩縣ヲ獨立行政州縣トシテ直接內務省ニ直屬セシメ其ノ他ノ州縣ヲイルクートスク、沿黑龍及ステブノ三總督府ニ分屬セシムルニ至レリ其ノ管轄地域ハ爾後數回ノ變更アリ以テ現在ノ區劃ヲ爲セリ左ニ之ヲ表記スヘシ

總督府名

總督府所在地

管轄州縣名

政廳所在地

沿黑龍總督府	沿海州	ハバロフスク市	黑龍州	ブラゴリエシエンスク市
			沿海州	浦鹽斯德市
			樺太州	ニコラーエフスク市
			堪察加州	ベトロバウロフスク市
			後貝加留州	チタ市
			イルクートスク縣	ヤクートスク市
			イルクートスク縣	イルクートスク市

ステブ總督府	アクモリンスク州	オムスク市	アクモリンスク州	オムスク市
			セミバラチンスク州	セミバラチンスク市
			トムスク縣	トムスク市
			タボールスク縣	タボールスク市

直轄行政縣

備考 樺太州ハ從來州廳ヲアレキサンドロフスキニ置キ樺太島ノ北半ヲ領スルニ止マリシカ一九一六年ニ至リ沿海州ヨリウードスク郡ノ一部ヲ割キテ之ヲ同州ニ合シ且州廳ヲ同郡ニコラーエフスク市ニ移シタルモ本書掲載ノ統計資料ハ多ク同年以前ニ屬スルヲ以テ以下單ニ樺太州ト稱スルトキハ總テ前ノ管轄區域ニ依リウードスク郡ヲ含マサルモノナリ

各總督府ニハ總督ヲ置キ總督ハ皇帝ノ任命ニ係リ該管轄地域内ニ於ケル最高ノ行政長官タルト共ニ又軍隊統帥權ヲモ有セリ但シ沿黑龍總督ハ一九一一年ノ官制改革ニ依リ其ノ軍司令官タルノ職權ヲ極東ニ於ケル軍管區司令官ニ移セリ總督ノ直屬官吏トシテハ秘書官數名、視學官、外交事務官、鑛山技師、測地技師アリ尙大藏省、農務省ヨリモ勅任官吏ヲ派遣シテ總督監督ノ下ニ前者ハ專ラ關稅ニ關シ後者ハ主トシテ土地整理及漁業ノ監督ノ任ニ當リ內務省移民局ヨリモ又相當官吏ヲ派シテ移民ニ關スル事務ヲ司掌セシム

各總督府ノ管轄ニ屬スル縣及州ノ外トムスク及タボールスクノ二縣ハ總督ニ屬セス內務大臣直接ノ監督

ニ服スルコト歐露ノ各縣ト異ナルコトナシ是レ同地方カ歐露ト最接近シ比較的早ク開發セルト極東其ノ他國境附近ノ如ク外交上軍事上特別ノ意義ナキニ依レルモノナルヘシ即チ全西比利亞ハ四縣八州ニ分レ各縣又ハ州ノ下ニ市、郡及區アリ縣又ハ州ニハ知事ヲ其ノ長官トス知事ハ縣ニ在リテハ文官ニシテ州ハ文官又ハ武官タルコトヲ得ルモ沿海州、黑龍州ノ如キ哥薩克國境地方ニ配置サレ居レル地方ハ武官即チ軍務知事ヲ以テ之ニ充テ哥薩克ニ對スル一般行政ヲモ掌理セシム（一九一六年ニ至リ沿海、黑龍二州ノ軍務知事ヲ廢止シ代フルニ文官知事ヲ以テスルコトヲ布告セシ由ナルモ未タ實行ヲ見ルニ至ラスシテ革命起レリ）知事ノ補佐機關トシテハ縣（又ハ州）參事會アリテ知事其ノ會長トナリ內務大臣ノ承認ヲ經知事ノ任命ニ係ル參事官ヲ以テ之ヲ組織ス參事會ノ事務ハ更ニ市政部、農村部、司法部、監獄委員會、學務局、土地調查部及保健部ニ分レ上記各參事官夫々各部局ヲ主宰スルヲ以テ此等各部局ノ事務ハ畢竟內務大臣ノ管轄ニ服スルモノト云フヲ得ヘシ此ノ外內務系ニ屬セサル地方機關トシテハ大藏省地方支廳アリテ各縣又ハ州ニ於ケル國稅又ハ地方稅ノ賦課及徵收ヲ司ルモノアリ農務大臣監督ノ下ニハ農事獎勵委員、地方移民委員會及測地部アリ其ノ他商務省、司法部、軍務省ノ地方支廳アリテ夫々各本省ノ監督ニ服シ知事ハ職務上此等各部ノ一員タルヲ常トス斯ノ如ク西比利亞ノ行政組織ハ制度上極メテ完備シ一見歐洲諸國ト軒輊スル所ナキカ如シト雖實際ニ於テハ官吏其ノ人ヲ得ス賄賂苞苴頻リニ行ハレ此等制度モ殆ト空文ニ屬スルモノ尠カラストハ西比利亞ニ關スル多クノ著書ノ均シク記述スル所ナリトス

以上述フル如ク西比利亞ニ於ケル一般行政上ノ區劃トシテハ之ヲ四縣八州ニ分チ其ノ內內務大臣直屬ノ二縣ヲ除キ其ノ他ノ縣州ハ夫々三總督府ニ分屬セシムルモノナリ尙此ノ外軍事行政、司法行政又ハ通信行政等各其ノ目的ヲ異ニスルニ從ヒ亦相異ナレル區分ヲ有ス即チ左ノ如シ

軍事上ノ目的ヨリ全露國ヲ二十三軍管區ニ分チ此ノ內西比利亞ノ各州縣ヲ三軍管區ニ配屬セリ（一）黑龍軍管區（黑龍州、堪察加州、沿海州及樺太州ヲ管轄ス）（二）イルクート斯克軍管區（イルクート斯克縣、エニセイスク縣、ヤクトート斯克州及後貝加留州ヲ管轄ス）（三）オムスク軍管區（トムスク縣、タボーリ斯克縣、アクモリンスク州及セミバラチンスク州ヲ管轄ス）是ナリ

司法上ノ目的ヨリ全露國ヲ十四區ニ分チ內二區ハ西比利亞ナリ（一）イルクート斯克區（エニセイスク縣以東ノ二縣六州ヲ包含ス）（二）オムスク區（其ノ他ノ三縣三州ヲ包含ス）是ナリ

又通信行政ノ目的ヨリ露國ヲ二十四管理區ニ分チ內西比利亞ニハ四區アリ即チ（一）イルクート斯克管理區（イルクート斯克、エニセイスク、ヤクトート斯克及後貝加留ノ二縣二州）（二）オムスク管理區（タホーリスク及アクモリンスクノ一縣一州）（三）黑龍管理區（黑龍、沿海、堪察加及樺太ノ四州）（四）トムスク管理區（トムスク及セミバラチンスクノ一縣一州）是ナリトス

西比利亞ヲ説明スルニ當リテ之ヲ如何ニ大別スヘキヤハ著書ニ依リ甚シク異同アリテ上述各種行政的區劃ト一致セサルハ言ヲ俟タサル所ナリ今其ノ主ナル區分ヲ左ニ記サン

一、西比利亞ヲ三分シ貝加留湖以東ノヤクトースク縣、後貝加留州、黑龍州、沿海州、堪察加州及樺太州ヲ總稱シテ東部西比利亞トシ貝加留湖以西ノイルクトースク縣及エニセイスク縣ヲ中部西比利亞トシトムスク縣、アクモリンスク州、セミバラチンスク州、タボーリスク縣、セミレチエンスク州及ツルガイ州ヲ西部西比利亞トス

二、ヤクトースク縣、イルクトースク縣、エニセイスク縣ヲ東部西比利亞トシトムスク縣、アクモリンスク州、タボーリスク縣、セミバラチンスク州ヲ西部西比利亞トシ後貝加留州、黑龍州、沿海州、堪察加州及樺太州ヲ極東トス

三、ヤクトースク縣、後貝加留州、イルクトースク縣ヲ東部西比利亞トシエニセイスク縣、トムスク縣及其ノ以西ヲ西部西比利亞トシ黑龍州以東ヲ極東トス

四、ヤクトースク縣、後貝加爾州、イルクトースク縣、エニセイスク縣ヲ東部西比利亞トシトムスク縣、アクモリンスク州、タボーリスク縣、セミバラチンスク州ヲ西部西比利亞トシセミレチエンスク州、スイタリンスク州、フェルガニスク州、ザカスピースク州ヲ中央亞細亞トシ黑龍州以東ヲ極東トス

西比利亞ノ範圍ニ關シ一言スヘキハ上記第一ノ區分ニ於ケルカ如クセミレチエンスク及ツルガイノ二州ヲ西比利亞ニ包含セシムルモノアリト雖此等二州ハ西比利亞ニ屬セス前者ハ中央亞細亞ニ後者ハ烏拉爾地方トシテ歐歐ニ屬スト爲スコト普通ナリ又嚴密ナル地理的區分ニ依ルトキハアクモリンスク及セミバ

ラチンスクノ二州即チステブ總督府ノ管轄地方ハ之ヲ中央亞細亞ト爲スコト適當ナルカ如シト雖此等二州ハ經濟上トムスク、タボーリスクノ二縣ト最密接ナル關係ヲ有シ殆トト同一經濟的地域ヲ爲スモノナルノミナラス今ヤ西比利亞鐵道ハアクモリンスク州ノ北部ヲ橫貫シテ其ノ間オムスク市、ペトロバウロフスク市ノ如キ沿線中最主要ナル都市ヲ有シ何人モ之ヲ西比利亞ノ一部ト爲ササルモノナク殊ニ前述軍事、司法、通信等各種行政上ノ區劃ニ依ルモ之ヲ西比利亞ノ州縣ト同一視シ中央亞細亞ノ諸州ハ別ニ之ヲ一括セルニ觀ルモ之ヲ西比利亞ニ包含セシムルヲ以テ最適切ナルヘキヲ信スルモノナリ

更ニ一言スヘキハ上記第二及第三ノ區分ニ於テ黑龍州以東ノ四州若ハ後貝加留州以東ノ五州ヲ單ニ極東ト稱シ其他ノ州縣ヲ東部及西部西比利亞ト稱セルコト是ナリ斯クテハ此等極東地方ハ之ヲ西比利亞以外ニ置カサルヲ得サルノ結果ヲ來タシ甚タシク今日ノ普通觀念ニ反ス蓋シ一八二一年西比利亞ヲ東西ノ二部ニ分チタル當時今日ノ黑龍州及沿海州ノ大半ハ尙支那ノ領土ニシテ堪察加、樺太二州ノ如キ亦僅ニ露人ノ足跡ヲ印セリト云フニ止マリ當時東部西比利亞ト稱セハ直ニヤクトースク州以西ヲ指稱スルニ止マリシモ其ノ後ムラビヨフノ遠征ニ依リ黑龍、沿海ノ二州ヲ支那ヨリ割讓セシメ所謂極東地方ハ確實ニ露國ノ有ト爲リシ後ニ至ルモ尙此ノ因襲的稱呼ヲ脱却スルコト能ハサリシ結果ナルヘシ此ノ點西比利亞ナル名稱カ初メ一會族ノ居城ヲ稱スルニ過キサリシモノ露國勢力ノ進展ト共ニ漸次其ノ範圍ヲ擴大セル事實ト合セ考フルニ於テ一層ノ興味アリトス近時露國政府ノ外交文書中東部西比利亞ト稱スルトキハ所謂

極東地方ヲ指稱スルコト常ナルヲ以テ茲ニハ西比利亞ヲ左ノ如ク東部、中部及西部ニ三大別シ以下順次
之カ經濟事情ヲ説述セントス

一、東部西比利亞又ハ極東

後貝加留州、黑龍州、沿海州、堪察加州、樺太州

二、中部西比利亞

イルクートスク縣、エニセイスク縣、ヤクートスク州

三、西部西比利亞

トムスク縣、アクモリンスク州、タボーリスク縣、セミバラチンスク州

第二章 東部西比利亞

第一節 概説

一、位置、面積及人口

東部西比利亞トハ貝加留湖以東ノ所謂極東露領ノ地方ヲ指稱シ北緯四十二度ヨリ起リテ五十七度ニ達シ
東經百四度乃至西經百七十度ノ間ニ介在ス北ハ北氷洋ニ面シ夫ヨリ西スルニ從ヒヤクートスク州及イル

クートスク縣ニ連リ東方太平洋ニ臨ミ南ハ朝鮮、滿洲及蒙古ト相界ス而シテ之ヲ後貝加留、黑龍、沿海、
樺太及堪察加ノ五州ニ分チ此ノ内後貝加留ノ一州ハイルクートスク總督ノ治下ニ屬スルモ其ノ他ノ四州
ハ沿黑龍總督之ヲ統轄ス今各州面積及人口ヲ擧クレハ左ノ如シ (一九一五年現在)

州名	面積 (平方俄里)	人口	一露里平均人口
後貝加留州	五四,三三九	九七,七〇〇	一・七九
黑龍州	三五,二八一	二六,一五〇	〇・七四
沿海州	六〇,四六七	六三,一六〇	一・〇四
樺太州	三三,三八一	三四,〇〇〇	一・〇二
堪察加州	一一,四二一	四一,四〇〇	〇・四
合計	二,六七,八七九	一,九〇,二〇〇	〇・七二

右ノ内支那人、朝鮮人十四萬餘人ヲ含ミ「ブリヤート」「ツングース」「カムチャダール」「コリヤーク」チ
ユクナ「ヤワーツ」等ノ土人十五萬ニ及フ日本人ハ平時ニ在リテハ四千五百人内外ナルモ漁期ニハ約萬
ヲ以テ數フルニ至ル是レ沿海、堪察加及樺太ノ三州ハ漁業最盛ニシテ本邦人ハ日露漁業協約ニ基キ此ノ
地方ニ漁業權ヲ享有シ居レル關係上漁期ニ際シ多數ノ出漁者ヲ見ルコト常ナルヲ以テナリトス

二、氣候

東部西比利亞ノ氣候ハ地方ニ依リ同一ナラサルモ概シテ冬ハ西北風吹キ荒ミ乾燥甚シク寒氣最峻嚴氣温攝氏零下五十度ニ下ルコト鮮カラス之ニ反シ夏ハ大氣濕潤シ暑熱亦酷烈ナリ今各地ニ於ケル冬、夏及一箇年平均氣温ヲ左ニ摘記スヘシ

チ	タ	市	冬	夏	一年平均
ブラゴウエシチエンスク市	(-)	二二・五	(+)	一九・四	二二・五
ハバロフスク市	(-)	二〇・六	(+)	二〇・四	二〇・〇
浦鹽斯德市	(-)	一〇・八	(+)	二〇・一	四・四
アレキサンドロフスキー市	(-)	二五・〇			
ペトロバウロフスク市	(-)	二五・〇	(+)		二・一七

三、河 湖

東部西比利亞ノ河流中其ノ最大ナルハ黑龍江竝之ニ合流スル烏蘇里、松花、ブレヤ、ゼヤ、シルガ及アルグニノ諸大河竝貝加留湖ニ流入スルセレンガ河ニシテ此等ノ諸川ハ極東ノ開發ニ多大ノ貢獻ヲナシ來レリ此ノ内松花江ハ主トシテ滿洲蒙古ノ地域ヲ貫流スルモノナルヲ以テ之ヲ除キ其ノ他ノ諸川ニツキ少シク記スル所アラントス

一、黑龍江ハシルガ、アルグニ兩河ノ合流點ニ起リ黑龍州ト滿洲トノ界ヲ流レテ途々ゼヤ、ブレヤ、松花ノ諸川ヲ入レテ烏蘇里江口ニ至リ更ニ北流シテオコーツク海ニ入ル延長二千七百六十七露里ヲ有シ其ノ間汽船ノ航行頻繁ナリ即チ黑龍江汽船貿易會社及黑龍江聯合汽船會社ハ定期航海ヲ營ミ前者ハ汽船二十一艘、荷船四十七艘(積載量一萬九千二百二十三噸)後者ハ汽船百二十六艘、荷船七十艘(積載量七萬九千六百六十噸)ヲ有シ最近船舶延數約四萬航、貨物九千萬布度、乘客五十萬ヲ輸送セリ航期ハ河水凍結ノ遲速ト水量ノ増減ニ依リ支配セラレ一定シ難ク殊ニブラゴウエシチエンスクヨリ上流航路ニ於テ甚シトス千九百二年以降十箇年間ノ統計ニ徵スレハ河水ノ解氷ヲ始ムルハ平均四月四日氷片ナキニ至ルハ五月九日ニシテ凍氷ノ始期ハ十月二日氷上人馬ノ交通シ得ルニ至ルハ十月二十三日ナリト云フ

二、シルガ河ハヤプロノウイ山脈ノケンタイ支脈ヨリ發スルオノン河及ソホント山ニ水源ヲ發スルインゴダ河ヨリ成リ延長五百露里ニシテアルグニ河ト合シテ黑龍江トナル幅員下流ニ於テ百五十乃至二百「サージエン」ヲ有スルモ水量ノ變化甚タシ開航期間四月末ヨリ十月下旬迄トス

三、アルグニ河ハ水源ヲケルレン河及滿洲里ノ西方クルン湖ニ發シテ後貝加留州ト滿洲トノ界ヲ流レ更ニ東北ニ折レテ遂ニ黑龍江ニ合ス延長八百露里ヲ算シ此ノ内舟行ノ便アルハ二百露里ニ及フ沿岸未開發ノ地多ク航運未タ頻繁ナラス

四、ゼア河及ブレヤ河ハ黒龍州内ニ在リテ其ノ下流ハ西比利亞有數ノ沃野ナリ且其ノ上流地方ニハ多數ノ砂金坑ヲ有ス其ノ可航哩數前者ハ七百八十五露里後者ハ三百三十八露里ニ達ス

五、烏蘇里河ハ主トシテ沿海州ト滿洲トノ間ヲ北流シハバロフスク市附近ニ至リ黒龍江ニ合スルモノニシテ舟行ノ便アルハ本川三百七十八露里ノ外枝川イマン河ニ由リイマン邑ニ通シ又興凱湖ニ達ス而シテ本河系ノ船舶延數四千九百航ニシテ乘客六千九百人、貨物四百三十萬布度ヲ運搬セリ

六、セレンガ河ハ源ヲ蒙古ニ發シ後貝加留州ヲ貫流スルコト約四百露里遂ニ貝加留湖ニ入ル河口ヨリ三百三十露里ノ間ハ船舶ノ航行ヲ見ル貝加留湖ハ東部及中部西比利亞ノ中間ニ介在シ南北六百三十露里東西三十五露里乃至九十露里トス土人ハ之ヲ「神聖ナル海」ト稱シ實ニ西比利亞第一ノ大湖ナリトス湖上ニハ後貝加留鐵道附屬汽船ヲ初メ貝加留汽船貿易會社ノ汽船並其ノ他ノ私有汽船二十五艘、荷船三十餘艘、漁船及小荷物船百二十艘ヲ浮ヘ交通及漁業ニ從事ス

五、沿海線

東部西比利亞ニ在リテ沿海線ヲ有スルハ沿海、樺太及堪察加ノ三州ニシテ其ノ内良好ナル港灣ナキニアラサルモ冬期ハ氷結シテ殆ト其ノ用ヲ爲ササルモノ多シ其ノ内第一ノ良港ハ浦鹽斯德港ニシテニコラエウスク港之ニ次ク兩港ヨリハ沿岸各地ヘノ航路極メテ頻繁ナルノミナラス亦歐露及諸外國トノ交通ヲ保チ殊ニ浦鹽斯德港ヨリハ露國義勇艦隊汽船會社、大阪商船會社、日本郵船會社及ケーゼリング汽船會

社ノ定期航路ヲ有シ其ノ他尙不定期航海ヲ爲スモノ少カラス樺太州ニ於テハアレキサンドロフスキ及ツエノ兩港アルモ風波荒ク碇泊ニ便ナラス堪察加州ニ於テハベトロバウロフスク港ヲ以テ第一ノ良港トス同州ニ於テハ日本人ノ租借ニ係ル漁區少カラス而モ從來日本汽船ハ自由ニ各漁區ニ航行碇泊スルヲ許サレザリシモ一九一六年以來解禁セラレ同地方沿岸航路ノ開放ヲ見ルニ至リタルハ特筆スヘキ事柄ナリトス

第二節 農業

一、農業

東部西比利亞ニ於ケル農業ハ黒龍州ヲ以テ第一トシ後貝加留州及沿海州之ニ次ク樺太及堪察加二州ハ農牧尙極メテ幼稚ニシテ殆ト記述スルノ價值ナシ茲ニハ專ラ上記三州ニ就キ農業ノ狀況ヲ述ヘントス
土質ハ黒龍州ノゼア及ブレヤ兩河ノ流域ヲ除ケハ概シテ砂質地多ク豊饒地少ナク農業最適ノ地ト稱スヘカラス加フルニ農耕法頗ル幼稚ニシテ五年乃至八年ノ休耕法ニ依リ毫モ施肥ヲ加ヘサルヲ以テ其ノ收穫豊饒ヲ以テ目スヘキニアラスト雖其ノ可耕地頗ル廣大ニシテ今後開墾スヘキ剩地從フテ大ナリ是レ同地方農業ノ前途有望ナルヲ證スルモノナリ從來東部西比利亞ニ於ケル農業ノ發展極メテ遅々タリシ所以ハ交通ノ不便其ノ一因ナルコト論ナキモ移民政策ノ宜シキヲ得サリシコト及事業經營方針ノ常ニ保守的消

極的ナリシコトモ亦其ノ最大原因ナリ過去十七八箇年間黑龍州セヤ河口一帯ノ耕地ハ支那人經營ノ下ニ其ノ發展見ルヘキモノアリシカ時ノ州知事自國民保護ノ爲武力ヲ以テ之ヲ放逐シタル以來茲ニ大頓挫ヲ來タシタルノ實例アリ管ニ農業ニ於テノミナラス鑛業、漁業等苟クモ西比利亞ノ富源ヲ開發シ其ノ經濟的發達ヲ企圖セント欲セハ外國人竝外國資金ノ流入ニ對スル從來ノ方針ヲ一拋スルノ要アルヲ知ルヘシ今東部西比利亞ニ於ケル後貝加留、黑龍及沿海ノ三州ニ於ケル耕作耕地面積及農產物收穫高ヲ記スレハ左ノ如シ (一九一四年調)

州別	耕作耕地面積	收穫高	平均收穫高
後貝加留州	二六七八七	一三、〇六二、七三五	四八七
黑龍州	三九八、五八二	二二、一八五、四九六	五三・二
沿海州	三七四八二	一九、五四、一四七	六・五
合計	九六三、九四一	五三、八〇二、三七八	五四・六

備考 後貝加留州ハ一九一三年ノ調査ニ據ル

前表ノ耕地面積ハ該調査年度ニ於ケル現在耕作反別ヲ示スモノニシテ從テ耕地總面積ハ少クトモ之ニ五倍乃至八倍スト見ルヲ得ヘシ是レ同地ノ農業ハ多ク五年乃至八年ノ休耕法ニ依ルモノナルカ故ニ現在耕作地ノ外向數倍ノ休耕地アルヲ以テナリトス

同地方ニ於ケル農作物ノ種類ハ小麥、大麥、裸麥、燕麥及馬鈴薯等ナリ今各地ニ於ケル此等收穫ノ割合ヲ見ルニ後貝加留州ハ小麥一〇%、裸麥四八%、燕麥一六%、馬鈴薯一六%ニシテ黑龍州ハ小麥三五%、燕麥四八%、馬鈴薯一五%ヲ示シ又沿海州ニ於テハ小麥二〇%、燕麥二七%、馬鈴薯二七%ノ割合ヲ示セリ其ノ他大麻、亞麻及日廻モ相當ノ收穫アリ煙草モ又將來有望ナル作物ノ一ナリ都會地附近ノ地ニ於テハ蔬菜ノ栽培亦有望ナリ之ヲ要スルニ東部西比利亞ニ於ケル農作物ハ家畜ノ飼料タル大麥、燕麥等大部ヲ占メ住民ノ常食ニ充ツヘキ小麥其ノ他ノ穀類ハ比較的少ナシ是レ從來本邦ノ對露輸出品中米穀其ノ主位ヲ占メ又滿洲ヨリハ小麥粉其ノ他ノ穀類ノ輸入旺盛ナル所以ナリトス

二、牧 畜 業

東部西比利亞ニ於ケル牧畜ハ同地方ノ氣象一般ニ乾燥シ殊ニ輕鬆ノ砂地多キヲ占メ且牧草地ニ乏シカラサルヲ以テ益發達スルノ傾向アリト雖尙未タ住民ノ需用ヲ充タスニ至ラス肉ハ多ク滿洲、蒙古ヨリノ輸入ト又沿海州地方ニ於ケル朝鮮及山東牛ノ輸入ニ俟ツノ有様ナリ當地飼養ノ方法ハ週年蓄群ヲ放牧シ特ニ飼料等ニ注意セス極メテ原始的ナリト云フ今極東三州ニ於ケル最近蓄產數ヲ擧クレハ左ノ如シ

州別	馬	牛	綿羊	山羊	豚	其他	合計
後貝加留州	五〇、六三〇	九三、五三〇	一〇、九、一五	一一、八二七	一一〇、七六四	一〇、九九三	二八五、八六八
黑龍州	二八、五五四	一〇〇、五〇四	—	—	—	—	一二六、二二
					七五、七五七		三二七、三九七

沿海州	二七、二六五	一八九九〇五	三、七四四	二、三五七	一六三、四三三	二一、三三三	四九、一四七
合計	八六、四二九	一、二七三、九三九	一、〇六一、八四九	二、九七六	三六〇、〇八四	三三、三五五	三六七、四〇一

第三節 林業

東部西比利亞ハ其ノ大半山地ヨリ成レルヲ以テ人跡未到ノ大深林到ル處ニ存在スルモ今日之カ利用ハ尙極メテ微々タリ樹種ノ主ナルモノハ柏樹、落葉松、杉及松類ニシテ其ノ分布ノ状態ヲ略叙スレハ杉及松類ハ主ニ黑龍州ノ西北部ニ落葉松類ハ沿海州ノ東北部ニ繁茂シ樺、白楊、赤楊ハ到ル處ニ生長スルモ樺、榆、「バルハト」及「アカシヤ」樹ハ沿海及黑龍二州ノ南部地方ニ多ク又シホタリアン山脈ノ南方分水嶺地方ニハ水松ヲ産ス而シテ此等ノ森林ハ今日未タ調査行届カサルト又木材ノ輸送ニ利用シ得ヘキ河川水流渺カラサルモ其ノ整理行ハレサルトノ爲林業ノ發達ハ急速ニ之ヲ期待シ得ヘカラサルヘシ然レトモ鐵道沿線又ハ人口稍稠密セル地方ニ在リテハ其ノ附近ニ存立スル森林ハ既ニ濫伐シ盡サレ年々建築材料及薪材ノ騰貴スルヲ見ルノ状態ナリトス國財廳ハ伐木稅ヲ課シテ其ノ濫伐ヲ制スルニ努メツツアリト雖土地ノ開發ニ伴ヒ戸口増加シ木材及薪材ノ需要ヲ増加スルヲ以テ其ノ伐採ハ益激甚トナリ殊ニ山火事ノ頻繁ニシテ被害地域ノ廣大ナルコト實ニ想像以上ニ在リ相俟チテ所在ノ森林ヲ荒廢セシムルコト多シ一專問家ノ計算ニ依レハ沿海及黑龍二州ニ於テ毎年伐採シ得ヘキ木材ノ數量ハ約千萬立方「サーゼン」以上

ナリト云フモ實際ニ於テハ一年間僅ニ約十萬立方「サーゼン」ヲ伐採セルニ過キス以テ今日林業ノ如何ニ不振ナルヤヲ知り得ヘシ今東部西比利亞ニ於ケル林業ニ關スル主ナル事業ヲ左ニ記セン
 オリガ灣附近ニ於テ英人スレイ氏ハ一九〇七年四年間立木四十萬本ヲ伐採スル特權ヲ得イムベラトトルスカヤ灣ニ製材場ヲ設置シ一九一〇年スウキーデルスキー氏ハ又同森林區内ニ於テ五十萬本ノ立木ヲ四年間伐採スルノ特權ヲ獲得セリ其ノ製材ハ共ニ之ヲ濠洲ニ輸出シツツアリ
 樺太島西海岸ニ於テハ英人ブリーネル氏ハ四年間立木四十一萬本及鑛山用抗木四十萬本ヲ伐採スルノ特權ヲ獲得シ其ノ附近ニ製材所ヲ設置セリ
 ハバロフスク木材會社ハ一九〇六年沿海州シヤルギン湖附近ニ於テ十二年間立木十八萬本ノ伐採權ヲ獲得シ同年ルビンシユテイン商會ハチリ湖附近ナルニコラーエフスク森林區内ニ於テ六年間立木十萬本ノ伐採ヲ許可セラレ引續キスキーデルスキー及ガルススキーノ兩氏ハ烏蘇里鐵道ノウスリ一驛附近ナルボロチノニ一大製材所ヲ設ケ尙チエルニゴフカ森林區内ニ於テモ林富ヲ開拓ス
 右ノ外一九〇四年木材業者スウオーロフ氏ハチエルニゴフカ森林區内ニ於テ十五年間面積二萬五千「デシャーチン」ノ森林伐採權ヲ特許セラレ同事業地内ニ一大製材所ヲ設ケ四百餘人ノ人夫ヲ使役シ之カ經營ニ從事セリ
 黑龍州ニ於テハ從來地方ノ小木材業者及農民木材ノ伐採ヲ爲シ市場ニ供給スルニ過キサリシカ黑龍鐵道

ノ工事開始セラルト共ニ大供給者出現シ製材所ノ規模又從テ大ナルニ至レリ最近ノ伐採量ハ一箇年六萬五千立方「サージン」ニ達セリ
要スルニ東部西比利亞ノ林業ハ今尙幼稚ノ域ヲ脱セス其ノ製材事業ハ一部海外ニ輸出セララルモノナキニアラサルモ概シテ地方ノ需要ニ應スルニ止マリ其ノ他副業トシテ「マツチ」軸木、「バルブ」、樹脂、「タール」及木炭製造等ニ從事スルモノアルニ過キス副業中稍大ナルハ沿海州ニ於ケルスキテルスキー氏ノ被木工場ニシテ同工場ハオケヤンスカヤ驛附近ニ在リ百四十馬力ノ機關ト十五汽壓ノ汽鐘ヲ備ヘ工夫四百三十人ヲ使役シテ一箇年ノ産額五十萬留ヲ算ス尙同工場ニハ近時「マツチ」軸木製造ヲモ開始シ其ノ原料ハ白楊、菩提樹ヲ用ヒ製品ハ主トシテ英國ニ輸出ス此ノ種山林利用事業ハ將來最モ有望ナリトス

第四節 漁 獵

一、漁 業

東部西比利亞ニ於テ漁業ノ最盛ナルハ沿海、樺太及堪察加ノ三州ニシテ他ノ二州ハ僅ニ河湖ニ於テ小規模ノ漁業ニ從事スルモノアルノミ而シテ上記三州ニ在リテハ漁業ハ實ニ其ノ生命トスル所ニシテ魚族ノ豊富ナル殆ト無盡藏ト稱セラレ就中鮭、鱈及鱒ヲ以テ其ノ主ナル漁獲物トス從來露國ハ外國人ニ對シ露領沿岸ヲ去ル十二哩以外ノ外海ニアラサレハ絶對ニ漁業ヲ許可セサリシモ一九〇七年ノ日露漁業協約ニ

依リ日本人ニ對シ漁區入札ニ加入スルコトヲ許シタル以來邦人ハ同地漁業界ニ於テ優勢ヲ保持スルニ至リ東部西比利亞漁業ノ發達ハ之ニ負フ所極メテ大ナルハ世人ノ知ル所ナリ
同地方ノ漁區ハ前記協約ニ依リ日露人平等ニ入札ニ參加スルコトヲ得ルモノト露人ニ限り漁業權ヲ與フルモノトノ二種アリ後者ハ河川、河口又ハ港灣内ニ在リテ二百留内外ノ租借料ヲ徵シ若ハ之ヲ徵スルコトナク漁獲物ノ多少ニ應シ一定ノ漁業稅ヲ課シテ貸付クルモノナリ今一九一五年ニ於ケル漁區ノ數ヲ見ルニ總數三百五十六ニシテ此ノ内九十一區ハ露人ニ限り漁業權ヲ與フルモノナルヲ以テ之ヲ除キ其ノ他ノ二百六十五區ハ漁業協約ニ依リ日露人平等ニ入札ヲ爲スコトヲ得ヘク此ノ内日本人ノ租借ニ歸セルモノ二百三十一即チ八十七%、露人ノ權利ニ歸セシモノ三十四即チ十三%ヲ示セリ單ニ此ノ一事ニ依ルモ日本人カ如何ニ同地ノ漁業界ニ大ナル勢力ヲ有スルヤヲ知り得ヘシ而シテ露國政府ハ此等漁區監視ノ便宜上三州ノ漁業地ヲ八區ニ分ツ即チ沿海州ニ在リテハハバロフスク地方及西南沿海地方ノ二トシ樺太州ニ在リテハマリンスク地方、薩哈連地方及黑龍江口地方ノ三トシ又堪察加州ニ在リテハオコーツク地方堪察加東岸地方及西岸地方ノ三トシ之ニ五名ノ漁法監視及七十六名ノ漁守ヲ置キ尙小艦二隻、帆船發動機船等十二隻ヲ配置シ之カ取締ヲ行ハシメツツアリ今一九一三年以降ノ漁獲物及政府ノ漁業收入ヲ記スレハ左ノ如シ

年次	漁獲數量	同上價格	國財廳漁業稅收入
一九一三年	八三三,000 ^{市度}	一四一五,000 ^市	一,110,000 ^市
一九一四年	八〇七,000	一六,100,000	一,120,000
一九一五年	八五六,000	三三,100,000	一,111,000

右ノ外後貝加留州ニ於テハ貝加留湖ヲ初メセレンガ、アルグニ其ノ他ノ河川ニ於テ漁業行ハルルモ其ノ漁獲物ハ地方ノ需要ヲ充タスニ止マリ一箇年約三十萬留ニ過キス黑龍州ニ於テモ又幾多ノ河川湖沼アルモ漁業ハ微々トシテ振ハス一箇年ノ漁獲僅ニ六萬五千留内外ニ止マル

二、山 獵

山獵ニ關シ一言センニ元來西比利亞カ露國ノ有トナリシハ其ノ初メ同地方一帶ノ貴重ナル毛皮獸ニ富メルヲ知リ之カ獲得ニ着手セルニ端ヲ發セシカ如ク由來西比利亞殊ニ東部西比利亞ハ黑貂、栗鼠、狐、熊獺其ノ他ノ鳥獸ノ栖息極メテ豊富ナリシモ鐵道ノ開通以來遠ク奥地ニ遁竄シタルト一方濫獲ニ任カセ種族ノ繁殖ヲ計ラサリシ結果獵獲亦前日ノ如クナラサルニ至レリ而シテ山獵ニ從事スルモノハ土人ニ多ク殆ト全獵獲高ノ大半ヲ占メ農民之ニ次キ哥薩克最少シ今各州ニ於ケル獵獲狀況ヲ叙スレハ後貝加留州ニ於テハ栗鼠ヲ第一トシ黑貂之ニ次キ其ノ他ノ獵獲高ヲ合セ年產額四十四萬三千留ニ達シ黑龍州ニ在リテハ大鹿、海馬、猪、熊、栗鼠、羊及黑貂ヲ重ナルモノトシ年額約二十萬留ヲ獵獲シ沿海州ハ栗鼠最モ多

ク袋鹿、猪、狐ヲ主ナルモノトシ年額二十四萬留ヲ產ス樺太及堪察加ノ二州ニ於テモ又栗鼠、狐、熊、貂等ヲ獵獲シ其ノ額約百二十萬留ニ達ス其ノ他臘臘獸ハ近時漁獲禁止セラレタル結果漸次繁殖シ一九一四年ノ調査ニ依レハコンマンドル島ニ於テ約一万四千餘頭ノ栖息アルニ至レリ上述ノ如ク近年獸類ノ減少ヲ來タシタルニ付テハ露國當局者ハ或ハ課稅ノ増徴ニ依リテ其ノ濫獲ヲ防止スル等常ニ苦心シツアリシカ一九一五年堪察加ニ於テ狐族繁殖ノ一法トシテ養殖所設置ヲ獎勵シ種々ノ保護ヲ施スト共ニ外來獵獸者ノ濫入ヲ取締ルコトトセリト云ヘリ

第五節 鑛 業

西比利亞ノ全土ヲ貝加留湖ニ依リ兩分セハ其ノ以西ハ之ヲ農業地ト稱スルヲ得ヘク其ノ以東ハ之ヲ鑛業地ト爲スヲ得ヘキニ似タリ殊ニ黑龍、後貝加留ノ二州ノ如キハ往々西比利亞ノカリフォルニア若ハクロンダイクト稱セラレル如ク概シテ東部西比利亞一帶ノ地ハ頗ル鑛物ニ富ミ從ツテ鑛業ハ此ノ地方ノ生命ト稱スルヲ憚ラス唯交通ノ不便、勞働者ノ不足、資金ノ缺乏ハ其ノ發達ヲ阻害シ探掘ノ狀況今尙頗ル幼稚ナルヲ免レス東部西比利亞ニ存在スル鑛物ノ種類ハ金、銀、銅、鐵、亞鉛、黑鉛、「アスベスト」、雲母等ヲ主トシ寶石亦尠カラサルモ今日比較的盛大ニ稼行セラレルハ僅ニ金及石炭ノ二鑛業ニ過キス而モ之スラ同地方ニ存在スル全鑛區ノ僅ニ一小部分ニ止マリ尙未開ノ遺利少カラスト云ヘリ

露國ノ鑛業法ニ依レハ土地所有權ハ其ノ地下ニ及フヲ原則トスルヲ以テ鑛物ノ試掘又ハ探掘ヲ爲サントスルモノハ先ツ土地所有者トノ契約ニ依ルヲ要スルモ西比利亞ノ土地ハ土人及一部特別階級以外ニ對シ之カ私有ヲ許サス殆ト帝室、政府又ハ哥薩克ニ屬シ從テ其ノ鑛山ハ多ク御料地、國有地又ハ哥薩克所有地ニ存在シ而カモ此等ハ容易ニ個人ノ鑛業經營ヲ許サリシカ如シ是レ西比利亞ニ於ケル鑛業ノ發展遲延タル原因ノ一ナリトス而シテ今此等御料地又ハ國有地ニ於ケル鑛業權獲得ノ方法ヲ一言センニ其ノ手續ハ一九〇一年ノ發布ニ係ル極東露領鑛業ニ關スル法規ニ據ルモノニシテ鑛物發見者ハ地方行政廳ノ許可ヲ經テ鑛區圖ヲ調製シ之ヲ試掘又ハ探掘願書ト共ニ該地方行政廳ヲ經由シ鑛山管廳ニ提出シテ初メテ其ノ許可ヲ受クヘキモノトス而シテ鑛山探掘權ハ法律上外國人ニ對シテ許可ヲ制限スルカ如キ規定ヲ存セサルモ從來ノ實例ハ容易ニ之ヲ許可セサリシモノノ如ク英米人等ノ現ニ鑛業ニ從事スルモノ多クハ露國人ヲ其ノ出願名義人トセルモノナリ尙鑛業ニ對スル一ノ制限ハ同法ニ於テ沿海州及堪察加州ニ於ケル海岸ヨリ一百露里以内ノ地帯ニ於テハ個人ノ鑛山企業ヲ許ササルコト是ナリ是會々一私人ニ鑛業ノ經營ヲ許可スルトキハ其ノ資金ハ之ヲ外國ニ仰クノ恐アリテ同沿岸地方ニ外國勢力ノ扶殖ヲ杞憂セルノ結果ニ外ナラサルヘキカ(同地方ニ於テ米國人クララソン氏ニ探炭ヲ許可シ又米人ノ經營ニ係ル北西比利亞探金會社ニ鑛業權ヲ與ヘタルカ如キ異例アリ明ニ同法違反ナルモ此ノ點ハ所謂露國式トモ稱スヘク斯ノ如キ實例ハ到ル處ニ存在スト云フ)又他ノ一制限ハ法律上ノ明文ナキモ既設及未設鐵道沿線一百露里

以外ノ地域ニ對シテハ絕對ニ探掘ノ許可ヲ爲ササル方針ナリトモ傳ヘラル

一、探 金 業

東部西比利亞ニ於ケル諸種鑛業中探金業ハ其ノ主位ヲ占メ其ノ鑛區ハ到ル處ニ存在ス殊ニ品質佳良合金量頗ル豊富ニシテ砂金百布度中一「ゾロトニツク」以上即チ百萬分ノ二・六以上、鑛石ハ概シテ百布度中二乃至二十「ゾロトニツク」即チ十萬分ノ〇・五乃至五ノ間ニ在ルヲ常トス而シテ東部西比利亞ノ産金總額ノ何程ニ達スルヤハ精確ニ知り得サルモ後員加留、黑龍及沿海ノ三州ニ於テ官廳ニ届出タルモノノミニテ八百萬布度即チ我千八百萬圓以上ニ達シ此ノ外盜掘若ハ密輸出セラレタルモノ略之ト同額ニ上ルト云ヘルニ依リ推算セハ産出額ヲ大體三千五百萬圓内外ト推算スルヲ得ヘシ今各州ニ於ケル探掘狀況ヲ略述スレハ後員加留州ニ於テハ一九一三年ニ於テ探金所二百十三箇所、工夫六千、産金額三百十四布度ニ達シネルチンスキ郡最多ク次ハチチンスキ郡及バルグジンスキ郡ナリトス殊ニネルチンスキ郡ニ屬スルシルガ及アルグン兩河系ニ屬スル地方ハ御料鑛區ニ屬シ産金最盛ニシテ同區内ニハ一般探金者ニ許可セル七十九ノ探金所ノ外御料局直營ノ探金所十箇所アリテ一箇年二百布度ヲ採金セリ又黑龍州ハ東部西比利亞中探金業最盛ニシテ過去十年間ノ統計ニ依レハ一箇年平均産金額ハ實ニ四百二十五布度ニ達セリ同州ノ砂金地域ハ之ヲアムールスキ、ゼイススキ及ブレインスキノ三鑛區ニ分チ就中最モ豊富ナル地方ハセヤ河中流系、ブレヤ河上流系、ヅヅヤリング河系、セレムヅジエ河系等ナリ一九一四年ニ於ケル探

金經營者ハ二百七十六、採金所九百八十ナルモ此ノ内實際採掘ニ從事セルハ百五十三箇所ニシテ其ノ産金額ハ同年ニ於テ三百六布度ナリ坑夫ハ二萬人内外ニシテ支那人全數ノ八割ヲ占メ次ハ露人一割二分其ノ他ハ朝鮮人ナリトス沿海州ハ北部鑛山區ヲ以テ其ノ主產地トシ即チアムグン河系、ウヅイル湖畔、チリヤ湖畔、黒龍江系及オコーツク海岸等はナリトス烏蘇里地方ニ於テモ又各所ニ採金スルモノアルモ含量少ク鑛脈又貧弱ナリト云フ今一九一五年ニ於ケル同州産金額ヲ見ルニ百四十布度ニシテ鑛區ノ數二百三十、採掘者六十五ヲ算スルモ實際稼行セルハ前者ハ六十五後者ハ二十六ニ止マル以上三州ノ外堪察加州及樺太州ニ於テ鑛ノ存在頗ル豊富ナル由ナルモ今日之カ採掘ハ極メテ微々タル狀況ナリトス現ニ一九〇〇年一休職大尉ニ對シ堪察加州チユコート半島全部ノ金採掘權ヲ同年一建築技師ニ全堪察加半島ニ於ケル金採掘權ヲ附與シ又一九〇一年英人ドグラス氏ハオコーツク地方ニ於テ廣大ナル地域ニ亘リ金ノ採掘特許權ヲ獲得セルモ共ニ未タ事業ニ着手セルヲ聞カス

二、採炭業

東部西比利亞中石炭ノ主產地ハ沿海州ニシテ後貝加留、樺太又黒龍ノ三州之ニ次ク沿海州中殊ニ南部烏蘇里地方ノ如キハ地下ノ全部殆ト炭層ナリトノ説アル程ナルモ蘇城炭ノ外ハ品質粗惡ナル褐炭ニシテ且斷層多キヲ缺點トス沿海州ニ於ケル石炭採掘高ハ一箇年約二千萬布度ニシテ此ノ内蘇城炭千二百万布度ヲ占ム同炭鑛ハ官營ニシテ專ラ鐵道及海軍用ニ充テラレ市場ニ現ハルルコト稀ナリ而シテ沿海州ニ於ケ

ル石炭ノ需要額ハ約三千万布度ニシテ此ノ内上記二千萬布度ヲ除キ他ハ今尙日本炭ノ輸入ニ依リ補充スルノ外ナキ現況ナリトス後貝加留州ニ於ケル重ナル出炭地ハタラバガタイ邑附近ノ同名ノ炭鑛、沿線チユコートノフスキ驛附近ノサミヤーチン炭鑛及第一チンスキ炭鑛等トシ其ノ採炭年額千二百万布度ニ達ス又樺太島ニハツエ炭鑛及其ノ他二三ノ鑛區アリ品質及鑛量共ニ極メテ有望ナルモ其ノ出炭量ハ前者ハ年百三十万布度内外ニ止マリ其ノ他ハ未タ開發セラレサルモノノ如シ黒龍州ニ於テモ又所々ニ炭鑛存在スルモ何レモ小規模ノ採掘アルニ過キス要スルニ東部地方ノ採炭業ハ今日未タ地方ノ需要ニ應スルヲ得サルノ現況ニ在リト雖沿海州及樺太ノ炭脈中有望ナルモノ少カラサルヲ以テ他日開發資金ノ供給充分ナルヲ得ハ大ニ發達スルノ機アルヲ信スルモノ多シ

三、其ノ他ノ鑛業

東部西比利亞地方ハ以上金及石炭ノ外尙各種ノ鑛物ヲ藏ス鐵鑛ハ後貝加留州ベトロフスキザラート驛ノ東南一帶ノ地殊ニ豊富ニシテ同所ニ官立製鐵所ノ設立アリ又沿海州ニ於テモチユチヘ河附近ヨリオリガ、蘇城及奧地ノニコリスク山林區地方ハ磁鐵鑛ノ分布頗ル豊富ニシテ就中オリガ灣ヨリ北方十二露里ヲ距テルペロゴリススキ鐵鑛ハ尠クトモ一億布度ノ鑛量ヲ有スト推定セラレ鐵分ノ含有率五割六分乃至六割ニ達シ且附近ニ良炭田ヲ有スルヲ以テオリガ灣頭ニ遠カラス一大製鐵所ノ現出ヲ見ルニ至ルヘシト云フモノアリ

雲母ハ貝加留湖畔一帯ニ存在シ中ニハ全山光輝ヲ放チ附近ハ雲母村ト稱スル地アルニ見ルモ其ノ豐富ナルヲ知り得ヘク其ノ他銀、銅、硫黃、「アスベスト」、水晶其ノ他各種寶石又鈔カラサルモ今日之カ採掘ニ從事スルモノナシ

第六節 工業

東部西比利亞ニ於ケル工業ハ逐年發達ヲ示セルモ人口稀薄ノ爲勞働者ヲ得ルノ困難ナルト原料ノ拂底セルト且交通ノ不備、資金ノ缺乏トニ因リ其ノ進步頗ル遅々タルヲ免レス今其ノ狀況ヲ記センニ東部西比利亞五州中工業比較的盛ナルハ沿海州ヲ第一トナスモ其ノ工産物ハ未タ地方ノ需要ヲ充タスニ足ラス工場ハ多ク烏蘇里地方ノ鐵道沿線ニ設置セラレ其ノ總數一九一四年ニ於テ一千三百十五ヲ算シ職工數九千七百七十人、工産額一千七百四十萬留ヲ算セリ其ノ種類ハ製粉、金工、煉瓦、製材、製油、釀造等ニシテ此ノ内最モ多キヲ占ムルハ製粉工場ノ四百八十五(製産額四百二十三萬留)釀造三十(産額三百四十八萬留)煉瓦九十一(百二十五萬留)製材六十一(産額百萬留)製油五十九(産額六十六萬留)等ナリトス沿海州ニ次キ工業ノ盛ナルハ黑龍州ニシテ就中ブラゴウエシチエンスク市其ノ中心ナリ同州ノ工場總數五百五十、職工數三千九百人、其ノ年産額一千三百七十萬留ニ達ス其ノ製造業ノ主要ナルモノハ製粉業ニシテ其ノ製産額ハ七百九十六萬留ニ達シ同州全製品額ノ半以上ヲ占ム次ハ釀造、手工業、製材等ナリ

トス同州ノ製粉業ハ嘗ニ同州内各製造業中ノ冠タルノミナラス東部西比利亞中最盛大ナルモノニシテ就中ブラゴウエシチエンスク市ニ於ケル製粉所ノ如キハ蒸汽力ヲ用ユル大規模ノモノニシテ殆ト全州製粉額ノ七割以上ヲ産出ス同州ノ製粉業ノ將來ハ頗ル有望ナリトス後貝加留州ノ製造業ハ前二州ニ比シ更ニ幼稚ニシテ一九一一年ノ狀況ニ依レハ工場ノ總數六百七十三、職工數二千九百六十人、其ノ製産額ハ三百六十九萬餘留ニ過キス其ノ大部分ハ製粉其ノ他ノ食料品製造所ナリトス樺太及堪察加ノ二州ニ至ツテハ殆ト工場トシテ見ルヘキモノナシ

第七節 商業

東部西比利亞ノ商業狀態ハ州ニ依リ其ノ趣ヲ異ニセリト雖概シテ之ヲ云ヘハ東部西比利亞ニ於ケル商權ハ事實上純露人ノ手ニ存セスシテ常ニ獨逸人(開戰後其ノ勢力ヲ失墜セルハ言ヲ俟タス)猶太人、波蘭人、支那人若ハ其ノ歸化人ノ掌裡ニ歸セルハ各州殆ト其ノ搔ヲ一ニセル所ナリ今内外商業ニ分チ左ニ之ヲ説明セントス

一、地方商業

東部西比利亞ニ於ケル地方商業ハ同地方ニ於ケル産業ノ開發ト共ニ漸次隆盛ヲ致セルハ之ヲ推想シ得ヘキモ之ヲ數字的ニ表明スルハ極メテ困難ナリトス唯チタ市、ブラゴウエシチエンスク、ハバロフスク又

ハ浦鹽港ノ如キハ該各地方ノ中心市場トシテ外國品ヲ輸入シテ之ヲ其ノ商圏範圍内ノ奥地ニ分配スルヲ以テ奥地方ノ開發進ムニ從ヒ此等各市ノ商業亦次第ニ般盛ヲ呈シ來レリ即チブラゴウエシチエンスク市ノ如キ其ノ附近ニ於ケル金鑛ノ開發セラルルト共ニ該産金地方ニ對スル物資ノ供給地トシテ漸次其ノ取引高ヲ増加セリ其ノ他地方商業トシテ擧クヘキハ各地ニ行ハレ來レル定期市場ニシテ今尙物々交換的取引アリ交通ノ便備ハラサル奥地ニ對スル物資ノ需給機關トシテ貢獻スル所少カラス其ノ市場數及取引高ヲ擧クレハ後貝加留州十六箇所(取引高百三十二萬留) 黑龍州四十一箇所(取引高十五萬留) 沿海州ハ百二十箇所(取引高百萬留)等ナリトス

二、外國貿易

東部西比利亞ノ外國貿易ハ海港及陸接貿易ノ二ニ分ツヲ得ヘク前者ハ浦鹽港及ニコラーエウスク港ニシテ後者ニアリテハボクラニーチナヤ、ハバロフスク市、ブラゴウエシチエンスク市、克恰圖經由ヲ其ノ主要ナルモノトス左ニ其ノ大要ヲ分説セントス

一、浦鹽港經由貿易 本港ハ管ニ極東露領ニ於ケル最大ノ貿易港タルノミナラス東亞ニ於ケル屈指ノ商港タルハ人ノ知ル所ナリ其ノ輸出入貿易ノ大要ヲ陳フレハ一九一四年ニ於ケル輸出總額二三、四三四、〇〇〇留其ノ輸入總額ハ五四、〇五二、〇〇〇留ニシテ此ノ外堪察加方面及近海沿岸貿易又少カラサル額ヲ示セリ而モ一九一五年ニ至リ時局ノ關係ハ其ノ貿易額ニ激増ヲ來タシ政府直接取引ノ軍需品ヲ除

キ輸出三六、三四五、〇〇〇布度輸入八一、四六二、〇〇〇布度合計一一七、八〇七、〇〇〇布度價格三億百十萬留ヲ算スルニ至レリ此ノ内日本ハ第一位ヲ占メ一億千三百萬留ヲ示シ次ハ北米合衆國ノ一億六百十萬留、英國ノ五千四百二十萬留、支那ノ二千六十萬留等ナリトス

二、ニコラーエウスク港經由貿易 本港ノ貿易ハ一九一二年以來不振ヲ呈シツツアリ殊ニ一九一四年ニ至リ漁業ノ不況ト時局ノ影響トニ依リ一層沈衰ノ状態ヲ告クルニ至レリ即チ同年ノ貿易額ハ大藏省調査ニ據レハ輸入一三、六〇〇、〇〇〇留輸出一、五〇〇、〇〇〇留合計一五、〇〇〇、〇〇〇留ニ過キス

三、陸接國境貿易 東部西比利亞ニ於ケル外國トノ貿易ハ右海港ニ依ルモノノ外陸接國境地方ニ於テモ亦少カラサル數額ヲ示セリ其ノ重ナルモノハボクラニーチナヤ、ハバロフスク、ブラゴウエシチエンスク及恰克圖經由トシ尙其ノ他多數ノ稅關出張所及監視所アリ

イ、ボクラニーチナヤハ東清鐵道ニ依ル輸出入ヲ取扱ヒ一九一四年ニ於ケル其ノ貿易額ハ輸入七、六五〇、〇〇〇留輸出六一八、〇〇〇留合計八、二六八、〇〇〇留ヲ示セリ
 ロ、ハバロフスク經由 黑龍江及松花江ニ依ル對滿洲貿易ニシテ其ノ輸入ハ三、九七一、〇〇〇留輸出ハ四〇八、〇〇〇留合計四、三八〇、〇〇〇留ヲ示セリ

ハ、ブラゴウエシチエンスク經由 同稅關經由ノ貿易ハ愛琿、齊々哈爾地方ニ對スルモノヲ主トシ其ノ輸入ハ一九一四年ニ於テ六、七一〇、〇〇〇留輸出ハ七八〇、〇〇〇留トス

ニ、恰克圖經由貿易 同地ハ元來露領ノ蒙古及支那ニ對スル貿易市場トシテ有力ナル地位ヲ有シ一時貿易總額二千萬留以上ヲ示シタリシカ西比利亞及東清鐵道ノ開通ト共ニ著シク其ノ勢力ヲ失墜セリ而モ尙相當ノ貿易額ヲ示シ後貝加留州隨一ノ重要市場タルヲ失ハス一九一一年ニ於ケル同地ノ輸入ハ五、九三六、〇〇〇留ニシテ輸出ハ八〇八、〇〇〇留トス

第八節 都 市

一、浦鹽斯德市

露國人ノ初メテ浦鹽斯德ニ現ハレタリシハ一八五九年運送船「マンヂユリヤ」號ノ金角灣ニ入りタルヲ以テ嚆矢トス後一八六〇年北京條約ニ依リ露國ノ有トナリ爾來漸次發達ヲ遂ケ戰前其ノ人口九九、二六五人(男七七、六六八、女二一、五九七内日本人二、〇〇〇、朝鮮人三、三〇〇ヲ含ム)ト爲レリ市ハシコト半島ノ山腹及山下ニ連亘シ金角灣ニ臨ミ港灣ハアドミラール埠頭以東ヲ軍港トシ以西ヲ商港トス商港ハ又市有埠頭、稅關埠頭、烏蘇里鐵道埠頭、官衙用埠頭、義勇艦隊埠頭、東清鐵道エグリゼリド埠頭等ニ分レ港内ハ五千噸級ノ汽船六十艘ヲ一時ニ碇泊セシムルコトヲ得ヘシ市街ハ年々擴張シ一方ハ灣ニ沿フテ東ニ延ヒ一方ハ北ニ小丘ヲ越ヘテ一番河ニ達ス市中ニ電氣鐵道アリ州廳其ノ他ノ諸官衙ヲ初メ金融機關トシテハ帝國銀行、露亞銀行、西比利亞商業銀行ノ各支店、「ヤロスラウスコーコストロームスキ」農

業銀行、「ニジネゴロドスコサマルスキ」農業銀行ノ各出張所、松田銀行部及クンストアルベルス金融部ノ外市立質店、市立組合銀行、市立相互貯蓄銀行等アリ

二、ハバロフスク市

本市ハ黑龍江ノ右岸ニ位置シ烏蘇里河ノ黑龍江ニ注ク所ニアリ沿黑龍總督府ノ所在地ニシテ人口五五、八三八人(男三五、七六四、女二〇、〇七四内日本人六六〇、鮮人一、一一六)ヲ有ス從來商工業上樞要ノ地位ニ在ラサリシモ黑龍鐵道ノ開通ト黑龍江系水運ノ發達トニ因リ漸次發展ヲ示スニ至レリ帝國銀行、露亞銀行ノ支店、「ヤロスラウスコーコストロームスキ」農業銀行出張所、「ブリュシン」銀行、市立相互貯蓄銀行、クンストアルベルス金融部及チューリン金融部ハ此ノ地ノ金融機關ナリ

三、ニコリスクウスリースク市

人口三六、九九三人(男二二、五五五、女一四、四三八内日本人四八五、鮮人八九三)アリ烏蘇里東清兩鐵道ノ分岐點ニ位シ沿海州農業地區ノ中央市場ニシテ又烏蘇里鐵道ノ中央工場及烏蘇里北方軍隊ノ中樞部ナリ相互組合銀行、クンストアルベルス金融部及露亞銀行、西比利亞商業銀行ノ各支店存在ス

四、ニコラーエフスク市

黑龍江口ニ在リテ人口一四、三九七人(男九、一二八、女五、二六九内日本人三八一、鮮人三七二)ヲ有スモト沿海州ニ屬セシモ一九一六年ニ至リ沿海州ウドスク郡ヲ割キ樺太州ニ合スルト共ニ其ノ州廳ヲ本市

ニ移セリ本市ハ是ニ依リ繁榮ヲ加フルニ至ラン

五、ブラゴウエシチエンスク市

本市ハ黑龍江左岸ゼヤ河口ノ右岸ニ位シ黑龍州廳所在地ナリ人口五六、四三六人(男三〇、四三四、女二六、〇〇二)内日本人六九三、鮮人五六二)ヲ有ス一八五六年彼ノ有名ナルムラビヨフ、アムルスキー伯ニ依リ建設セラレタル極東露領最古ノ都會ナリ鐵道ハ黑龍鐵道本線トノ間ニ一枝線ヲ通シ對岸黑河及愛琿ヲ控ヘ通商上亦重要ナル地點タリトス同地所在ノ金融機關トシテハ帝國銀行、西比利亞商業銀行ノ各支店、「ヤロスラウスコーコストロームスキ」農業銀行、「ニジネゴロドスコサマルスキ」農業銀行出張所等アリ

六、アレキセーエウスク市

本市ハゼヤ河右岸ニ位置シ黑龍鐵道ノ中心ニ當レリ初メスラゼーウカト稱シ地味豊饒ニシテ最移民ニ適セルヲ以テ時ノ沿黑龍總督ゴンダツチハ當地ヲ黑龍鐵道ノ中央市場ニ選定シ勅許ヲ得テ之ヲアレキセーエウスクト命名シ一九一二年七月三十日開市ノ礎石ヲ建テタリ爾來長足ノ發達ヲ遂ケ目下人口九、九八九人(一九一五年現在)ヲ有ス又黑龍鐵道ノ建設ニ際シチタ市ニ在リシ西部區廳ヲブラゴウエシチエンスク市ノ中部區廳ニ合併シテ本市ニ移シ更ニ將來ハパロフスク市ニ於ケル東部區廳ヲモ之ニ合シテ黑龍鐵道主腦廳ヲ此ニ集中セントスル計畫アリ將來最有望ノ地ナリ

七、チタ市

本市ハ行政及商業上後貝加留州ノ中心場ニシテ即チ州廳ノ所在地タリ市ハ固ト一ノ寒村ニ過キサリシカ後貝加留鐵道ト黑龍江水路トノ交叉點ニ位シ四通八達ノ要衝ニ當レルカ爲鐵道開通以來非常ナル發達ヲ爲シ一八九七年人口僅ニ一萬一千五百人ニ過キサリジモノ今ヤ七七、八〇〇人(男四二、五〇〇、女三三、五〇〇)ヲ有スルニ至レリ帝國銀行、露亞銀行、西比利亞商業銀行、「ニゼゴロドスコサマルスキ」農業銀行、「ヤロスラウスコーコストロームスキ」農業銀行支店アリ

八、スレーチエンスク邑

後貝加留州ニ屬シシルガ河ノ右岸ニ在リモト渺タル一哥薩克兵村ニ過キサリシカ其ノ地シルガ河及黑龍江ノ汽船ト鐵道トノ接續點ヲ爲セルヨリ忽チシルガ沿岸中第一ノ都會ト爲レリ人口一萬五千人ヲ有シ一箇年ノ商取引一時千三百萬留内外ニ達スルノ盛況ヲ呈セシモ一八一五年十一月黑龍鐵道ノ全通スルニ及ヒ水運ニ依ル貨客ノ減少ハ著シク其ノ繁榮ヲ害シ殊ニ歐亂勃發後駐屯軍減少シタル爲人口、商取引高共ニ從前ニ比シ殆ト半減スルニ至レリ同地ノ金融機關トシテハ露亞銀行、西比利亞商業銀行並借款銀行アリ

九、ウエルフネウーチンスク市

本市ハセレンガ河トウダ河トノ合流點ニアリテ後貝加留鐵道沿線ニ位置スモト流刑地タリシカ後郡市ト

ナリ且恰克圖ヨリ貝加留湖ニ通スル水路ノ中央ヲ占メ蒙古貿易ノ通路タルト又背後ニ後貝加留州農業ノ
 主要地セレンギンスクヲ控ヘ居ルヲ以テ將來ノ發展見ルヘキモノアルヘシ尙市内ニ露亞銀行、西比利亞
 商業銀行、「ヤロスラウスコーコストロム」農業銀行ノ各支店及市相互貯蓄銀行アリ

一〇、ツロイツコサーフスク市及チンスク市

共ニ郡市ニシテツロイツコサーフスク市ハ人口一萬四千ヲ有シ露蒙國境ヨリ三露里半ノ地位ニ在リチル
 チンスク市ハ人口八千ニ過キササル小市ナルモ一六八九年支那カ國際條約ヲ締結セシ最初ノ地トシテ有名
 ナリ金融機關トシテハツロイツコサーフスク市ニ露亞銀行支店アリネルチンスク市ニハ露亞及西比利亞
 商業銀行ノ各支店アリ

一一、アレクサドロフスキー市

同市ハ人口八千ヲ有シ樺太州廳ノ所在地トシテ同州行政ノ中心地タリシカ近時之ヲニコラエフスク市ニ
 移セル結果將來其ノ繁榮ヲ持續スヘキヤハ疑ハル北樺太島第一ノ都會ナリ毎年四月末ヨリ十一月末迄ハ
 義勇艦隊汽船此ノ地ニ往復ス市民ハ主モニ商業、運搬業、手工業ヲ營ミ僅ニ一小部分ハ農業ニ從事セリ

一二、ベトロバウロフスク市

同市ハ堪察加州ノ首府ナルモ人口僅ニ一千人ニ過キス露國最初ノ極東策源地ナリシト一八五六年英佛聯
 合艦隊ノ襲撃ヲ撃退セルニ由リ有名ナリ

第三章 中部西比利亞

第一節 概 說

一、位置、地勢、面積、人口

中部西比利亞トハイルクートスク縣、エニセイスク縣及ヤクートスク州ヲ指稱シ北緯五十一度ヨリ七十
 七度三十三分ニ至リ東經七十三度乃至百七十一度ノ間ニ横ハル北ハエニセイスク及ヤクートスクノ一縣
 一州ヲ以テ北氷洋ニ面シ東及東南ハイルクートスク及ヤクートスクノ一縣一州ヲ以テ後貝加留、黒龍、
 沿海、堪察加ノ四州ニ接シ南ハイルクートスク及エニセイスクノ二縣ヲ以テ蒙古ト相接シ西ハエニセイ
 スク縣ヲ以テトムスク及タポリスクノ二縣ニ相隣ス而シテ其ノ地勢ヲ見ルニ山地ハ全面積ノ殆ト七十
 五「パーセント」ヲ占メ其ノ重ナルモノハ南方蒙古界ヲナスサヤン山脈(最高八、二〇〇呎)エルギクアル
 ガク山脈(最高一一、五〇〇呎)貝加留湖ノ西岸ニ連亘スル貝加留山脈(最高六、〇〇〇呎)同湖ノ東南ニ
 連續スルハマルバダン山脈(七、五〇〇呎)及ヤクートスク州ノ東南界ヲナスヤブローノウイ山脈(最高
 三、九九〇呎)等ナリトス然レトモ北部及西北部ニ至リ北氷洋ニ近ツクニ從ヒ此等ノ山脈ハ漸次山形ヲ失
 シ遂ニ苔蘚地帯ヲ爲シテ海ニ没ス

今中部西比利亞各州縣ノ面積及人口ヲ示セハ左ノ如シ (一九一五年現在)

	面積	人口	一露里平均人口
イルクーツク縣	六三、一八九	八二、八〇〇	一三
エニセイスク縣	二、三三、九六	一、四三、九〇〇	〇五
ヤクーツク州	三、四八、五三	三三、六〇〇	〇二
合計	六、三五、六五九	二、九八、三〇〇	〇四

上記人口ヲ人種ニ依リ別ツトキハ「ヤクーツク」、「ブリヤーツク」等ノ土人約四十三%、猶太、波蘭及獨逸人等五%、露人五十二%ノ割合ナリ市邑ハ主トシテトムスク鐵道即チ所謂西比利亞鐵道ニ沿フテ散在シレナ、エニセイ兩河系ノ上流地方ニ於テモ又多少ノ市邑ヲ存ス然レトモ奧地殊ニ右兩河中流以下ノ地方ニ至リテハ人烟稀薄ニシテ山林、沼澤、苔蘚地ノ外農牧好適ノ地ナキニアラサルモ今尙人跡到ラサル處多シ

中部西比利亞ハ斯ノ如ク住民少ナク全面積ノ殆ト五分ノ四ハ尙未開ノ地ニ屬スルノ状態ニ在リト雖無限ノ天産物ハ此等未開ノ地ニ大寶庫ヲ爲シ金鑛ノ如キ目下採金シツアルハ僅ニ一小部分ニ止マルモ尙二千五百萬留ノ巨額ヲ産シ銅、石炭、銀、鐵、「アスベスト」ノ如キハ各地到ル處ニ存在スルモ未タ其ノ探掘ヲ見ルニ至ラス各種ノ寶石又頗ル多ク高價ナル獸類ノ群棲、熊蒼タル大森林ノ如キ殆ト世界ニ比ナシト稱セラル而モ今日此等富源ノ開發セラレタルモノ僅ニ九牛ノ一毛タニモ値セス農牧ノ業又有望ニシ

テ開墾ノ餘地尙甚タ多シ此ノ點ニ於テ中部西比利亞ハ東部及西部西比利亞ニ比シ其ノ開發ノ度更ニ遲遅タリト云ハサルヘカラス斯ノ如キハ中部西比利亞ノ地勢山岳多ク交通ノ不便甚タシキ其ノ開發ヲ困難ナラシメタルニ依ランモ一ハ西部西比利亞ニ於ケルカ如ク歐露ニ接近シ移民ノ流入、資金ノ投下容易ニ行ハレ自カラ富源ノ開發ヲ促カスニ至レルトハ大ニ其ノ事情ヲ異ニセルカ爲ナリ更ニ東部西比利亞ニ比シ富源ノ開拓遲延タル一理由トモ觀ルヘキハ同地方ニ於ケル露國施政ノ東部地方ニ於ケルト大ナル差異アルコト是ナリ即チ東部地方ノ施政ハ嚴刻ニシテ神經過敏ノ感ナキニアラサリシモ其ノ施設ノ積極的ナルニ反シ中部地方ノ施政ハ自然的ニシテ稍放任ニ失セルニ由ルコト是ナリ斯ノ如キハ兩者ノ位置カ前者ノ對外的ナルニ比シ後者ノ内政的ナルニ依ルモノナランカ今試ニ東部及中部地方ノ施政ニ關シ其ノ特異ノ點ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一、中部地方ノ縣州知事ハ文官ナルニ東部ハ多ク武官ヲ以テ之ニ充テ從フテ後者ハ武斷政治ニ傾クノ趣アルコト(東部西比利亞ニ於テモ又堪察加州及樺太州ヲ除キ其ノ他ノ州縣ヲ文官知事ト爲スニ決定セルモ實行ヲ見ルニ至ラスシテ革命起レリ)
- 二、極東移民ニ對スル保護獎勵ハ中部西比利亞移民ニ比シ厚キコト
- 三、東部地方ニ於テハ外國人ノ工業及勞働ヲ壓迫シ居ルノミナラス官營事業ノ如キハ一切外國人ヲ使役セス之ニ反シ中部地方ハ一般ニ之ヲ歡迎スルノ風アルコト(其ノ結果ノ東部地方産業ノ發達ヲ阻害セ

ルハ前章ニ一言セルカ如キモ而モ東部地方ノ官憲カ如何ニ自國移民ノ保護竝自國産業ノ開發ニ厚キモノアルヤヲ知り得ヘシ)

四、東部地方ニ於ケル鐵道其ノ他新設事業ハ着着進捗シ常ニ豫定期間ヲ短縮シ居レルニ反シ中部地方ハ

大抵延長セラレルノ傾アリ從フテ道路ノ如キ東部ニ於テ日日改善延長シ居レルモ中部ハ然ラス

五、極東ニ輸送セラレル歐露品ニ對シテハ特別運賃ノ適用アリ其ノ結果中部ニ到達スル貨物運賃ト殆ト

同額ナルコト

等はナリトス

二、氣候

中部西比利亞ニ於ケル氣候ヲ一言セハ其ノ變化ノ關係上之ヲ二部ニ區分スルヲ得ヘシ一ハイルクトスク縣竝ニヤクトスク州及エニセイスク縣ノ南部地方ニシテ此等ノ地方ハ概シテ大陸的氣象ヲ呈シ空氣最モ乾燥ス其二ハヤクトスク州及エニセイスク縣ノ北部即チ苔蘚地ニシテ寒威酷烈殆ト人畜ノ生存ニ適セサルモノアリ各中部西比利亞二縣一州ノ各主要地ニ於ケル冬、夏及一箇年ノ平均氣温ヲ示セハ左ノ如シ

イルクトスク	(-)	冬	二二・二	夏	一八・〇	一年平均	〇・九
--------	-----	---	------	---	------	------	-----

アチンスク	(-)	一七・九	一八・九	〇・三
エニセイスク	(-)	二二・五	一九・六	一・四
ウシンスコエ	(-)	二九・二	一七・二	四・五
ヤクトスク	(=)	四三・三	一九・〇	一・〇
ウエルホヤンスク	(-)	五〇・八	一五・二	一六・九

三、河 湖

中部西比利亞ニ於ケル河川ノ主ナルモノハレナ河及其ノ河系、エニセイ河及其ノ河系、アングラ河等トス一、レナ河ハ貝加留湖ノ西北三十露里貝加留山脈ノ支脈ベレゾーウイノ西北嶮谷ニ源ヲ發シ松、檜、樅等ノ深林ヨリ成ル山丘ノ間ヲ流レ南方ヨリ來レルマンズール川ト合スルニ及ヒ稍流勢ヲ増シ夫ヨリイガ河、シユラーギ河、クト河、ウイチーム河、アルダン河、セヌート河等ヲ合シテ北氷洋ニ入ル全延長四千五百露里其ノ内舟運ノ便アル四千二百露里ニ及フ其ノ上流約一千露里間ハ淺瀬多ク舟行困難ナルモ其ノ他ハ濃霧ノ害ニ遭フノ外航行頗ル易シト云フウスケクト邑ヨリアルダン河口ニ至ル二千二百五十五露里間ハ中流ニ屬シヤクトスク州内農牧ノ行ハレ居レル處ニシテ沿岸市邑ノ散在スルモノ少カラス就中ヤクトスク市最モ有名ナリ夫ヨリアルダン河口迄二百露里間ハ河幅七露里以上ヲ有シ宛カモ海洋ノ如キ状態ヲ爲ス船舶ノ航行最モ瀕繁ナルハ亦實ニ此ノ中流ニ屬ス夫ヨリ下流レナ

三稜洲ニ至ル千二百五十露里ハ河幅十乃至三十露里アリ島嶼多ク沿岸亦深林ヨリ成レル山丘ナルモ漸次下流ニ至ルニ從ヒ住民稀薄トナリ殊ニ三稜洲ヨリ河口ニ至ル三百五十露里ハ茫茫タル苔蘚地ナリトスレナ河系中舟行ノ便アルハウイチム河、アルダン河等トス

二、エニセイ河ハ源ヲ支那ノ國境サヤン山脈ニ發シ延長三千五百露里北氷洋ニ注入スル大河ニシテオビ河ニアク亞細亞ノ大動脈ナリト雖其ノ流域ノ五分ノ四ハ不毛ノ地ナリクラスノヤールスク市ヨリ上流ニスシンスク市ニ至ル三百九十八露里間ハ沿岸地方ハ該流域中最モ農牧ノ盛ナル處ニシテ夫ヨリ下流エニセイスク市ニ至ル三百九十露里間亦多少ノ農地アルモ沿線殆ト皆深林ニシテ僅ニ金鑛及漁業ヲ以テ住民ノ生計ニ資スルニ過キス唯茲ニ注意スヘキハ上記ニスシンスク市ヨリ河口ニ至ル二千六百二十八露里間ハ優ニ舟揖ヲ通シ得ヘキコト是ナリ

三、アンガラ河ハ一名ワングースカ河トモ稱シ貝加留湖ノ西南ニ源ヲ發シ多ク山間及深林地帯ヲ經テ遂ニエニセイ河ニ合ス延長二千露里此ノ間急流多キヲ以テ汽船ノ航行スルモノ極メテ少シ沿岸砂金地少カラサルモ目下其ノ産金額大ナラス

エニセイ河ノ水運ニ關聯シ一言ノ要アルハ北氷洋航路ノ開始是ナリトス一八六三年エニセイ河口ニ自由貿易許サレタル當時英國汽船ハ北氷洋ノ一部タル加羅海ヲ通航シテエニセイ河口ニ至リ夫ヨリ同河ヲ溯航シテエニセイ市附近ニ至リタルコトアリ爾來北方航路ハ數多ノ學者、航海業者ニ依リテ探究セラレ近

時漸ク其ノ可能ヲ認メラレ其ノ結果西比利亞製造貿易汽船會社設立セラレ毎年一回英國ヲ發シテエニセイ河口ニ至リ一方西比利亞内地各市ヲ發セル河上汽船ト同河口ニ於テ貨物ノ積替ヲ行ヒ直チニ歸航スルノ方法ヲ取リ一九一五年迄ニ既ニ四回ノ航海ヲ爲シ何レモ好成绩ヲ舉ケタリ而シテ歐洲ノ大戰亂勃發シ西比利亞鐵道ハ專ラ軍事上ノ目的ニノミ使用セラレ且波羅的沿岸亦全ク通商ヲ杜絶セラレ中部及西部西比利亞ノ農産物ハ到ル處ニ堆積シ鐵道以外適當ナル輸送機關ヲ得ルノ益必要トナレルヲ以テ露國政府ハ戰爭ノ終了ニ至ル迄エニセイ河ノ水路ニ依リテ輸入セラルル肥料、桶板、石炭酸、各種ノ鐵及鋼、汽罐、筒管、鐵製又ハ鋼製針線、農具、工業用具、其ノ他各種ノ器具機械又ハ此等ノ部分品ニ對シ其ノ輸入稅ヲ免除スヘキ旨ヲ布告シ以テ北氷洋航路ノ振興ヲ計ラントセリ元來西比利亞ノ輸出品ハ牛酪ヲ除キ其ノ他ハ多ク穀物等荷嵩品ヨリ成リ從テ之ヲ鐵道ニ依リ歐洲市場ニ搬出セント欲セハ此等貨物ハ其ノ價格以上ノ運賃ヲ負擔セサルヘカラス斯クテハ到底永遠ニ西比利亞ニ於ケル農産物ノ價格ヲ高メ農業ノ發達ヲ企圖スルコトヲ得ス是レ北氷洋航路ノ開始ニ依リ輸出貨物ノ運賃ヲ低廉ナラシムルハ嘗ニ戰時ノ今日ノミナラス又平時ニ於テモ必要甚タ大ナル所以ナリトス今前記汽船會社ノ一九一五年以降ニ於ケル同航海ノ狀況ヲ左ニ略記スヘシ

一九一五年同會社第四回ノ北氷洋航海ハ「ホーガステール」(三、一〇〇噸)及「エデン」(一、〇〇〇噸)ノ二隻ニシテ同年七月英國ヲ發シ加羅海ノ流水ヲ突破シテオビ河口ニ至リ「エデン」ハ前三回ト同シクエニセイ

イ河ニ向ヒ「ボーガステール」ハ新ニオビ河ヲ遡航シテ目的地點ニ到達シ茲ニ西比利亞内地ヨリ下航シ來レル河上小汽船ニ貨物ノ轉載ヲ了リ同年九月英國クリムスビー港ニ歸着セリ其ノ積載貨物ノ價格三十五萬磅ノ多キニ達シタリト云フ

一九一六年第五回ノ航海ハ一隻ヲ以テ之ニ充テ往航二千五百噸歸航千百噸ノ貨物ヲ載セリ其ノ主ナル品目ハ往航器具、工具、針線、雜貨、「ベイント」、錫、錫板等ノ英國製品、歸航ハ穀類、牛酪、獸皮、大麻、亞麻及亞麻仁等ノ西比利亞產物ナリトス

一九一七年第六回ノ遠征ハ三隻ノ汽船ヲ以テ之ニ充テ内一隻ハ加奈陀ノ一港ヲ其ノ起點トセリ是又良好ナル成績ヲ擧ケタリト云フ

斯クシテ本航路ハ今日既ニ著シク危險ノ度ヲ減少シタリト雖尙露國政府ハ本航路ノ發展ヲ期センカ爲無線電信ヲ加羅海ノ關門ニ當ルニ海峽及加羅海ノ東側ヤマル半島ノマラ、サレーニ設置シ流水ノ狀態ヲ船ニ通報スルニ便ナラシメ且エニセイ河口ニ適當ナル碇泊所ノ設備ヲ爲スノ計畫ヲ爲セルト共ニ同航海ニ從事スル汽船ニハ又飛行機ヲ積載シ之ニ依リ流水ノ方面及狀態ヲ知ルノ施設ヲ爲スニ至レル等北氷洋航海竝エニセイ河水運ノ將來ハ極メテ注目スヘキモノアリト云フヘシ

第二節 農業

一、農 耕

中部西比利亞地方ハ概シテ山岳多ク開墾ニ便ナラサルノミナラス交通困難ナル地方多キヲ以テ耕地少ク農業尙甚タ不振ナルヲ免レス然レトモエニセイスク縣南部殊ニミスシンスク、アチンスク及カンスク地方ハ其ノ土質黑饒地ヨリ成リ中ニハ地層四「アルシン」内外ハ悉ク黑土質ヲ以テ蔽ハルルモノアリ其ノ他ノ地方ト雖亦黑饒地ニ乏シカラサルヲ以テ將來充分ナル資金及勞力ノ流入ヲ見ルヲ得ハ農業ノ發達決シテ絶望ニアラス今一九一四年ノ作付耕地面積及收穫量ヲ左ニ記セントス

イルクートスク縣	作付耕地面積	總 收 穫	平均收穫高
三七〇、二六三	一四、三五六	一〇〇	六五七
エニセイスク縣	五七、五七六	二、九六七	四二二
ヤクートスク州	一三、四九六	一、八五〇、〇〇〇	一三
合 計	一、〇七四、三三五	五〇、一七三、四四三	四六七

備考 クルグートスク縣ハ一九一四年、エニセイスク縣ハ一九一二年、ヤクートスク州ハ一九一四年ノ統計ニ依ル

中部西比利亞ノ農業ハ東部ニ於ケルト同シク大抵三年乃至十年ノ休耕法ニ依レリ從テ上表作付耕地面積以外之ニ約十倍セル休耕地存在スヘク即チ一九一三年ニ就テ之ヲ見レハ中部西比利亞二縣一州ニ於ケル耕地總面積ハイルクートスク縣五、一二六、〇〇〇「デシヤチン」エニセイスク縣六、一〇三、〇〇〇「デ

シヤチン「ヤクトースク州六一四、三二八」デシヤチン「總計一一、八四三、〇〇〇」デシヤチン「ヲ算スルヲ以テ上表現在作付耕地ニ約十倍セル休耕地存在スルヲ知ルヘシ而シテ中部地方中農業最盛ナルハエニセイスク縣ミヌシンスク地方及アチンスク地方ニシテ其ノ主要ナル農産物ハ小麦、大麥、裸麥、燕麥、蕎麥、黍、稗、馬鈴薯等はナリ然レトモ中部西比利亞ノ農業ハ概シテ今尙幼稚ノ域ヲ脱セサル狀況ニ在リテ上記ノ三地方ニ於テ毎年他地方ニ八百萬布度内外ノ穀物ヲ輸出シ得ルノ外其ノ他ノ地方ハ未タ住民ヲ養フニ足ラス其ノ食糧ハ上記三郡、西比利亞及滿洲ヨリノ輸入ヲ仰クノ現狀ニ在リトス

二、畜 産

中部西比利亞ノ經濟上農業ニ次キ樞要ナル地位ヲ占ムルハ牧畜業ニシテ各地共ニ逐年發達ヲ遂ケツツアリ殊ニエニセイスク縣南部地方ハ氣候適順ニシテ降雪少キト隨所牧草ニ富メルニ加ヘテ此ノ地方ニハ牧蓄ヲ以テ專業トナスモノ多ク自カラ斯業ノ振興ヲ促シ將來極メテ有望ナリトス又同縣北部地方及イルクートスク縣ニ於テモ亦土人ハ專業トシテ之ヲ行フモノアリ其ノ他ハ農家ノ副業トシテ之ヲ營ムト雖未タ以テ地方ノ需要ヲ充タス能ハサルノ狀況ニ在リヤクトースク州ノ各地ニ於テハ牧蓄ハ土人ニ依リ普ク行ハルル處ナルモ所謂自由放牧ニシテ一定セル牧場ヲ有スルモノナシ左ニ二縣一州ノ畜産數ヲ左ニ表示セ

	馬	牛	羊	豚	馴鹿及駱駝	計
イルクートスク縣	二二一、五〇〇	三六一、二〇〇	四一五、六〇〇	八九、五〇〇	六七〇	一、〇九八、四七〇
エニセイスク縣	五五、三四	五七、五三七	七九、三七	一六七、七九〇	六、六二〇	二、〇七七、五八八
ヤクトースク州	八八、二三八	二五、六七四	一三五	二二七	二〇、八五五	四六一、〇一九
合 計	八四、九六二	一、一八六、四一一	一、一八五、〇五二	二五七、五〇七	一八三、一四五	三、六三七、〇七七

備考 イルクートスク縣ハ一九二二年其ノ他ハ一九一四年ノ統計ニ據ル

第三節 漁 獵

一、漁 業

中部西比利亞ニ於テ漁業ト稱スヘキハ僅ニ貝加留湖上ニ於テ專業漁業者ノ比較的大仕掛ニ從事スルモノアルヲ除キ其ノ他ハ河川又ハ湖沼ニ於テ土人又ハ露農民ノ副業トシテ營ムモノアルニ過キス即チイルクートスク縣ニ在リテハ貝加留湖及レナ、アンガラ等ノ河川ヲ主ナル漁場トシ其ノ漁獲高一九一二年ニ於テ一八五、二〇〇留ヲ算シ又エニセイスク縣ニ在リテハエニセイ、アンガラ、チュルイム河ヲ主ナルモノトシ北方殊ニツルハンスク地方最モ盛ナリ其ノ漁獲高一九一四年ニ於テ一二七、三四八留ナリ而シテヤクトースク州ハレナ河ノ下流漁族最モ豊富ナリト稱セララルモ其ノ漁獲一九一二年七二、〇〇〇留ヲ

算スルニ過キス

二、山 獵

中部西比利亞ニ於ケル山獵ハ輕視スヘカラサル價值ヲ有スルモ近年地方開發ノ進ムニ從ヒ又山火事ノ頻繁ナルト獵法ノ改良ニ依リ濫獲ノ傾ヲ生シタルトニ依リ獸類ハ漸次邊僻ノ深林内ニ逃走シ逐年其ノ獵獲數ヲ減スルニ至レリ

二縣一州中山獵ノ最盛ナルハヤクトスク州ニシテ殊ニウエルホヤンスク及ウイリユイスクヲ最トシ土人ノ之ニ從事スルモノ多シ同地方ニ來集スル獸皮買集商ハ土人ノ嗜好ヲ利用シテ一瓶僅ニ二三十哥ノ酒精ト二十五六留ノ獸皮トヲ交換スルコトアリ元來土人ニ酒精ヲ賣買スルハ政府ノ嚴禁スル所ナレトモ未タ此等ノ獵手段ヲ取締ル迄ニ至ラサルカ如シ近時二三ノ米國商人ハ當地方獸皮ノ佳良ナルヲ知り露商ト競争シテ之カ買集ニ從事スルモノヲ生スルニ至レリ獵獲物ノ重ナルモノハ黑貂、熊、大鹿、狼、兔、袋鹿、鼯鼠、狐、白狐、鼯鼠、栗鼠、山猫等トシ其ノ獵獲届出高ハイルクトスク縣ニ於テ一五二、七九三留(一九一二年)エニセイスク縣ニ於テ二五一、四三六留(一九一四年)又ヤクトスク州ニ於テ二八五、〇〇〇留(一九一二年)ヲ算スルモ實際ノ獵獲高ハ遙ニ之ニ數倍スト云ヘリ

第四節 鑛 業

中部西比利亞ノ諸産業中鑛業ハ最モ主要トスル處ニシテ到ル處鑛脈ヲ藏シ就中金、銅、鐵、鉛、石炭、
「アスベスト」等ノ諸鑛石竝各種寶石ノ存在極メテ豊富ナルモ現在探掘シ居レルハ僅ニ金、石炭、鹽等ニ止マル今左ニ同地方主要鑛業ノ大要ヲ記サン

一、金ノ探掘最モ盛ナルハイルクトスク縣ヲ第一トシ其ノ一箇年ノ產金額九百七十布度内外(一九一一年)ヲ算ス其ノ主要產地ハウイツチム河竝其ノ支流ボダイボ及ジュヤノ兩川河岸ノ砂金地即チウイツチム鑛山區是ナリトス露國ニ於ケル最大ノ產金會社タルレナ探金株式會社ハ主トシテ此ノ地方ニ鑛區ヲ有ス同社ハ本店ヲ露都ニ置キ其ノ資本金ハ千六百五十萬留ニシテ之ヲ十一萬株ニ分チ各一株ノ拂込百五十留ナルモ其ノ相場ハ實ニ八百五十七留(一九一三年八月)ヲ唱フル程ニシテ其ノ株主ハ多ク英米人ナリト云フ同社一箇年ノ產金額八百五十八布度(一九一一年)ニ達シ實ニ全露產金總額ノ四分ノ一ヲ占ムエニセイスク縣ニ在リテハエニセイスク地方產金最多クアチンスク、アングールスク及ミスシンスク地方之ニ次ク其ノ產金額ハ一箇年二百三布度(一九一四年)ナリ又ヤクトスク州ニ至リテハ由來天產物ノ大倉庫ト稱セラルルモ人跡未到ノ地多ク調査探究極メテ不充分ナルモ近時同地方ヲ探鑛セル者及狩獵者ノ言ヲ綜合セハウチエール河沿岸一帶ウイリユイ地方アルダン河ノ上流沿岸及ヤプロノ一ウイ山脈一帶ニ豊富ナル金礦ヲ包藏シ其ノ鑛量殆ト他ニ類例ナシト云ヒ近時オレークミン地方ノ深林中キジン、ムルーカン及ミユルレーリ等ノ出資ニ係ル探金所アリ其ノ產金額一箇年八百布度(約千

六百萬留)ニ達スト云ヘルモノアルモ多少ノ疑ナキ能ハス

二、採金以外ノ鑛業トシテ特記スヘキハ石炭、「アスベスト」、銅、鹽、銀、鉛等ナリトス今其ノ産出ノ狀況ヲ記スレハ

石炭ハ中部西比利亞各所ニ存在スルモ現在採掘セルハイルクトスク縣内ニ於ケル西比利亞鐵道沿線地方ニシテ一箇年ノ採炭二千九百五十萬布度ニ達スエニセイスク縣ニ於テハミスシンスク附近即チエニセイ河ノ上流アバカンスク地方ニ豐富ナル炭田存在セルモ其ノ採掘尙少ナク僅ニ一箇年約百五十七萬布度ノ出炭アルニ過キス此等ノ石炭ハ西比利亞及後貝加留鐵道用ニ供セラルル外其ノ一部分ハ地方ノ需要ニ供給スヤクトスク州ニ於テモ亦炭田少カラサルカ如キモ今日明カトナレルハ多ク泥炭ニ屬シ未タ珍貴ト爲スニ足ラサルカ如シ

鐵ハエニセイ河上流アバカンスク地方ニ豐富ナル鐵鑛脈存在シ一八八五年以來アバカンスク製鐵所設立セラレ採掘ニ從事セシモ資金ノ不足交通ノ不便ナル爲殆ト休止ノ状態ニ在リシカ最近瑞典資本團ニ於テ之ヲ買收シ更ニ大擴張ヲ企テ今後ハ主トシテ西比利亞一帶ニ供給スヘキ農業用機械及器具ノ製作ニ從事スルノ計畫ナリトス同地ノ鐵鑛ハ磁鐵鑛ニシテ鐵分六十六「パーセント」ヲ有シ其ノ鑛量千二百萬噸ト推定セラレ更ニ同所ニアバカン河アリテ鑛石ノ運搬ニ至大ノ便ヲ與ヘ且其ノ附近ニ製鐵用骸炭ノ原料タル石炭ノ産出少カラサルノミナラス隣接セルトムスク縣クヅネーツスク地方ニハ豐富ナル炭

田アリテ之ヲモ利用スルコトヲ得ヘク將來アチンスク—ミスシンスク鐵道開通スルニ至ランカ同製鐵所ノ前途極メテ多望ナルモノアリト云フヲ得ヘシ

「アスベスト」又各地方ニ存在ス即チイルクトスク縣ニ於テハ年一萬布度内外ノ産出アリ第一西比利亞鑛山合資會社ヲ其ノ主ナル採掘者トスエニセイスク縣ニ在リテハミスシンスク地方ニ同鑛脈アリ一箇年ノ採掘高千七十四布度ニ達ス本鑛業ノ將來ハ頗ル有望ナリト稱セラル

銅鑛ハエニセイスク縣ミスシンスク地方及ヤクトスク州アルダン山脈及ウイリユーム地方其ノ他ニ多ク存在スルモ現在稼行セルハ僅ニエニセイスク縣ミスシンスク地方ニ於ケル西比利亞銅鑛株式會社ノユリヤ坑及アレキセーエフ商會ノウーレンスク坑ノ二銅坑ニシテ一箇年純銅四萬八千六百三十三布度ノ産額アリ

鹽ハ鹽泉又ハ岩鹽トナリテ各所ニ産出シ目下採鹽セルハイルクトスク縣ウスケクトト及イリームスクニ於ケル二箇ノ官立製鹽所トイリームスクニ於ケル私營製鹽所ニシテ年々ノ製鹽約百十萬布度トス又ヤクトスク州ウイリユーム河ノ上流地方ニハ岩鹽多ク殊ニ同州ケムベンヂヤイススキ及バギンスキノ兩鹽泉ハ各二十五%ノ含鹽泉トシテ著ハル其ノ他岩鹽亦少カラスシテ往々全山悉ク岩鹽ヨリ成レルモノアリ一九一二年同州ノ製鹽ノ額六萬布度ニ達セリ

其ノ他ヤクトスク州ニ於テハ銀ハ銀鉛鑛トナリテ各地ニ露ハレ就中ウエルホヤン地方レナ河ヲ距ル

百五十露里ノ地點ニ於テ全山本鑛ヨリ成レルモノアルカ如キ又アルダン河ノ支流ウスンチエン及ニヤギヤンヂヤ河ノ鉛鑛モ頗ル有望ニシテ鉛六五%銀八%ヲ含ミ鑛脈極メテ豊富ナリト稱セラル鐵ハ又褐鐵鑛トナリ州内各所ニ露出スルモ未タ之カ探鑛ヲ爲セシモノヲ聞カス「マモン」ノ骨角ハヤクトスク州ノ特産品ニシテ同州輸出品ノ主要ナルモノナリ即チ北氷洋岸並レナ河沿岸中カルイム、ウエルホヤン及ウイリユイ地方ヲ主産地トシ其ノ産額一箇年二千布度(約七萬五千留)トス

第五節 工業

中部西比利亞ニ於テ工業ト稱スヘキハ僅ニ麥酒釀造、硝子、燐寸、「セメント」、製粉、製材及鞣革ノ業ニ止マリ其ノ他ハ殆ト觀ルニ足ルヘキモノナシ是レ同地方交通ノ便備ハラサルト勞力ノ缺乏、資金ノ不足ハ工業ノ發達ヲ阻害セル所以ナルヘシ上記諸種ノ工業ハ主トシテ蒸汽又ハ電力ニ依リ行ハレ尙其ノ他ニ人力又ハ水力ヲ以テセル小規模ノモノ少カラス然レトモ一般ノ趨勢ハ漸次機械力ニ移リ規模ヲ大ニスルノ傾向アルハ爭フヘカラサル所ナリ今例ヲイルクトスク縣ニ取ルモ一九一一年ニ於テ蒸汽又ハ電力ニ依レル工場數七十、人力又ハ水力ニ依レル工場數百二十一ヲ算シタルニ一九一四年ニ至リ前者ハ九十二ニ増加セシニ拘ハラヌ後者ハ却テ百十二減セルカ如キ明ニ此ノ事實ヲ證スルモノニ外ナラス又エニセイスク縣ニ於ケル工場數ハ一九一四年ニ於テ千三十九ヲ算シ使役工夫六千人、生産額六百二十三萬留ヲ

示スモ此ノ内ニハクラスノヤールスク市所在ノ官設鐵道工場ヲ含ミ同所ハ工夫二千二百、生産額三百七萬留ヲ有シ中部西比利亞最大ノ工場ト稱セラレ上記エニセイスク縣工場總生産額ノ殆ト半ヲ占ムルヲ以テ其ノ他ノ工場ノ規模ノ小ナル以テ推知スルヲ得ヘシヤクトスク州ノ工業ハ殊ニ幼稚ニシテ一九一二年ニ於ケル工場ハ九十七、使役工夫百七十人、製産額僅ニ十一萬六千留ヲ示スキ過キス

第六節 商業

一、地方商業

中部西比利亞ノ二縣一州ニ於ケル各主要都市ハ地方商業ノ中心市場トシテ輿地ノ農業地、鑛業地等ニ對スル貨物ノ集散ヲ仲介スルヲ以テ其ノ間貨物ノ移動行ハルルヲ常トス其ノ他定期市ハ各地方一般ニ行ハレ之ニ依ル取引少カラサル額ニ達ス今各縣(州)ニ於ケル地方的商業ノ狀態ヲ略述スヘシ
イルクトスク縣ニ於テハイルクトスク市ヲ中心トシテエレモホーヲ炭坑及ボダイボ金鑛トノ間ニ貨物ノ移動最頻繁ニシテイルクトスク市ハ本縣内各地方ニ對スル物資ノ集散地ナリトス尙定期市ハ本縣ニハ盛ナラサルカ如シ

エニセイスク縣ノ地方的商業ハクラスノヤールスク市其他ノ各市其ノ中心ヲ爲スモ縣内一般ニ普及セル取引機關ハ定期市ナリトス同縣ニ於ケル開市數ハクラスノヤールスク、アーチンスク兩市ニ各一回、ミ

ヌシンスク市ニ於テ三回、アーチンスク郡ニ於テ十七回、ミスシンスク郡ニ於テ十四回、ウシンスク郡ニ於テ一回、合計三十七回ヲ算シ其ノ取引額年八十五萬留内外ニ達ス

ヤクトースク州ノ商業ハ専ラ定期市ニ依リ行ハレ殊ニヤクトースク市ニ於ケル冬(十一月一日乃至五月十五日)及夏(六月十五日)ノ二定期市ハ本州最大ノモノニシテ其ノ他ノ定期市ハ多クレナ河沿岸ノ各市邑ニ開カル而シテ夏市ハ輸入品ヲ取引シ冬市ハ輸出品殊ニ毛皮類ノ取引ヲ主トス定期市ニハイルクトースク市商人ハ固ヨリ遠ク歐露商人ノ來集スルヲ以テ其ノ般賑驚クヘキモノアリ同州定期市ノ取引高夏市ハ百三十萬留冬市ハ七十萬留ニ達スト云フ

二、外國貿易

中部西比利亞ノ工業ハ尙頗ル幼稚ノ状態ニアリ且農業又一部地方ヲ除キ發達セサルコト前述セル所ノ如シ是レ同地方ノ貿易カ一般ニ製造品及食料品ヲ輸入シ砂金、柔毛、毛皮、皮革等ヲ其ノ主ナル輸物トナス所以ナリ

本州ノ貿易ハ大部分鐵道ニ依ルモノナリト雖尙其ノ他オコーツク海經由ノ支那茶及日本雜貨ノ輸入並對蒙古國境貿易行ハレ殊ニ後者ハ本州ノ貿易上主要ナル地位ヲ占ム左ニ其ノ大要ヲ記スヘシ

中部西比利亞ノ蒙古貿易ハ二ツノ經路ニ依リテ行ハル

一、イルクトースク縣イレクタ河系ツンキン街路ニ由ルモノニシテ之ニ依リ輸入セラルル畜類ハ年々莫大ナル額ニ達シ管ニ同縣内ノ需要ヲ充タスニ止マラス更ニ後貝加留及黑龍ノ二州並滿洲ニ再輸出セララルモノ少カラス即チ一九一一年ニ於ケル輸入額ハ牛四萬頭、羊五萬頭、馬千頭等ヲ示セリ而シテ其ノ取引者ハウイントーフキン、ブラチエグリンケイウイチヲ主ナルモノトス

二、エニセイスク縣ニ於ケル蒙古貿易ハサヤン街路ニ由ルモノニシテ牛、羊等ノ畜類及皮革類ヲ輸入シ織物其ノ他各種雜貨ヲ輸出ス其ノ貿易年額四十五萬留(一九一一年)ヲ算ス

オコーツク海經由貿易ハ極メテ微々タルモヤクトースク州當局者カ地方ノ開發ニ資センカ爲水路ニ由ル同縣ヘノ輸入ヲ無稅トセル爲生シタル所ニシテ近來支那茶及日本雜貨ノ輸入ヲ見ルニ至レルモ州内交通ノ不便甚シキ昨今海路經由貿易ノ發達ハ前途更ニ遠シト云ハサル可カラス

右ノ外ヤクトースク州ノ貿易ニ關シ一言センニ其ノ輸入品ハ主トシテ製造品及食料品ヨリ成リ其ノ輸出品ハ獸皮、皮革、木材及「マーモン」ノ骨角等ナリトス即チ同縣ナフツノ一スク稅關經由ノ貿易額ハ輸入一、六四七、〇〇〇留、輸出四七二、〇〇〇留ヲ算スルモ此ノ外小包郵便ニ依リ高價ナル獸皮ノ直接莫斯科ニ輸送セラルルモノ少カラス即チ一九一三年小包郵便ニ依ル獸皮ハ黑貂、白狐、栗鼠、黃鼠、赤狐、黑褐狐、麝香等ニシテ此ノ金額七五九、五〇〇留ニ達セリト云フ

第七節 都市

一、イルクートスク市

本市ハイルクートスク、エニセイスク及ヤクトスクノ二縣一州ヲ管轄スルイルクートスク總督府ノ所在地ニシテ又イルクートスク縣ノ首府ナリ人口約十二萬(一九一五年)實ニ西比利亞屈指ノ大都會ナリ殊ニ同市住民ノ富裕ナルト市街ノ整然タルトハ歐露多數ノ縣市ニ比シ遜色ナシト云ヘリ本市ニハ上記ノ外尙多數ノ官衙、學校、寺院ヲ有ス市ハ往昔ヨリ蒙古貿易ノ中心地トシテ表ハレ同地ニ於ケル巨商ノ之ニ從事スルモノ少カラス市ニハ又帝國銀行、西比利亞商業銀行、露亞銀行ノ支店ヲ初メ其ノ他多クノ金融機關アリ

二、ニージネウーヂンスク市、ボダイボ市

兩市共ニイルクートスク縣ニ屬シ前者ハ西比利亞鐵道沿線ウダ河ニ沿ヒ人口一萬二千ヲ有スル郡市ニシテ後者ハウイテム河ノ右岸ボダイボ川ノ合流點ニ在リテ本縣金礦地方ノ中心地ヲ爲シ人口五千餘、帝國銀行支店及金分析所アリ

三、クラスノヤールスク市

人口九萬三十四(一九一五年)アリエニセイスク縣廳ノ所在地トシテ多數ノ官衙、學校、寺院ヲ有ス本市ハエニセイ河トカーチャ河トノ合流地點ニ在リ且西比利亞鐵道ニ沿ヘルヲ以テ水陸ノ便殊ニ良好ナリ即チエニセイ河ハ上流ミスシンスク地方ノ農産地ヲ控ヘ夫レヨリ下流エニセイスク市ニ達スル水運殊ニ頻

繁ナルヲ以テ本市ハ此等地方ニ對スル物資ノ集散地タルノ好位置ヲ占メ商業從ツテ殷賑ナリ市ニハ又帝國銀行、西比利亞商業銀行、露亞銀行ノ各支店ノ外數箇ノ金融機關アリ

四、ミスシンシク市

エニセイスク縣ノ南端ニ在リ人口一萬五千九百九十四(一九一五年)ノ小都市ナルモ附近農牧盛ナルト且礦物ノ豊富ナル爲自カラ市ノ發展ヲ來タシタルノミナラス蒙古ニ對スル貿易ノ通路ニ當リ從テ穀産及畜産ノ取引市場トシテ重要ナル位置ヲ占ム而シテエニセイ河ノ水路ハ本市ヨリクラスノヤールスク市ニ通シ又西比利亞鐵道ト相連絡スルヲ以テ交通ノ便不可ナラスト雖政府ハ經濟上及軍事上ノ見地ヨリアチンスク、ミスシンスク間四百四十七露里ノ鐵道ヲ敷設スルニ決シ數年前既ニ其ノ工事ニ着手セリ時局ノ紛糾ニ依リ一時其ノ落成ヲ疑ハレシモ最近同市ノ前驛アバカンスク迄ハ開通ヲ告ケタルモノノ如シ市ニハ又市立貯蓄銀行、西比利亞商業銀行及露亞銀行ノ支店アリ

五、エニセイスク市

本市ハエニセイ河ニ沿ヒ鐵道ヲ距ル三百二十露里ノ奥地ニアリモトエニセイスク縣廳ノ所在地ナリシカ其ノクラスノヤールスク市ニ移リタル以來著シク衰退シ殊ニ西比利亞鐵道ノ開通ト共ニ一層ノ衰微ヲ加ヘタリ人口一萬二千六百家屋千二百戸アリト雖多クハ木造ニシテ煉瓦造ハ其ノ内僅ニ五十餘戸ヲ算スルニ過キス而モ其ノ大部ハ官衙、學校、寺院等ニ屬ス

六、アチンスク市、カンスク市

共ニエニセイスク縣ニ屬シ西比利亞鐵道ノ沿線ニ在リ前者ハチユルイム河ノ右岸ニ位シ人口一萬ヲ有ス
 ミヌシンスク市ニ達スル鐵道ハ本市ヲ起點トセルコト前述ノ如シ後者ハ人口一萬五千ヲ有ス

七、ヤクートスク市

ヤクートスク州ノ首府ニシテ人口一萬五千(一九一四年)ヲ算スルモ土人其ノ三分ノ一ヲ占ム本市ニハ每
 年二回定期市ヲ開設シ盛ニ取引ヲ行フ官衙、學校、寺院、博物館、市場等アリ首府タルニ恥チスト雖其
 ノ設備未タ完カラサルモノ多シ

第四章 西部西比利亞

第一節 概 說

一、地勢、人口、面積

西部西比利亞ハオビ及イルツイシノ兩大河ニ依リテ開發セラレタル地方全體即チトムスク縣セミバラチ
 ンスク州アクモリンスク州及タボーリスク縣ノ二縣ニ州ヨリ成リ北緯四十三度ヨリ起リテ七十二度ニ至
 リ東經五十八度乃至九十度ノ間ニ横ハル北ハ北氷洋ニ面シ東ハトムスク縣及タボーリスク縣ヲ以テエニ

セイスク縣ニ連リ南方一部ハ亞爾泰山脈ニ依リテ蒙古ニ一部ハセミバラチンスク州及アクモリンスク州
 ヲ以テ露領土耳其斯坦ニ相接シ其ノ西方ハウラル山脈ヲ距テテ歐露ト相隣セリ而シテ西比利亞鐵道ハエ
 ニセイスク縣ヨリ來リテ之ヲ横斷シオビ及イルツイシノ兩大河及其ノ支流ハ更ニ之ヲ縱斷セルヲ以テ水
 陸交通ノ便アルコト西比利亞第一ナリ鐵道沿線以北ハ比較的深林多ク未開ノ地大部ヲ占メ獸獵及漁魚ニ
 適シ以南ノ地ハ亞爾泰山脈ヲ主トシテ山地多キモ到處開發セララルアリテ農牧ノ業甚タ盛ナリ就中
 トムスク縣ハ西部西比利亞ノ中心ニシテアクモリンスク、セミバラチンスクノ二州ニ連リ同地方一帯ヨ
 リ産スル穀類ノ輸出年額三千二百萬布度、牛酪ノ産出年額五百萬布度ヲ超ヘ馬匹ノ改良モ亦年ヲ逐フテ
 好果ヲ呈シ其ノ名聲隆々タルモノアリ西比利亞鐵道ハ此等饒多ナル輸出貨物ニヨリ常ニ巨額ノ利益ヲ收
 メオビ、イルツイシ兩河ノ運輸亦漸ヲ追フテ好況ニ赴キ船舶ノ新造セララルモノ其ノ數少カラス而シテ
 亞爾泰山鐵道ノ敷設、豐富ナル銅、石炭ノ採掘、無限ノ天產物ヲ包藏スル寶庫ト稱セララル亞爾泰山御料地
 ノ開放ハ鐵道、道路、移民ニ關スル諸般ノ計畫實施ト相俟チ西部西比利亞ノ開發ヲ促成スルニ餘リアル
 ヘシ現在西部西比利亞ニ於ケル市ハ十八ヲ算ス即チ市區ノ發達ハ既ニ西比利亞ニ冠タルノミナラス又以
 テ將來ノ盛運ヲトスルニ足ランカ

西部西比利亞ノ地勢ヲ一言スレハ南方國境線ニハ海拔一萬四千呎ノ高峰ヲ有スル亞爾泰山脈、ゴルビン
 山脈、タルバガダイ山脈高ク聳ヘ大小ノ河川ハ悉ク其ノ源ヲ此ニ發ス之ヨリ北ニ赴クニ從ヒ地勢漸次低

下シテ平原ヲ爲シ遂ニ北氷洋ニ没ス即チ此ノ間苔蘚地帯、深林丘地及林沼地帯、高原地帯及山嶽地帯ニ四大別スルヲ得ヘシ苔蘚地帯ニ屬スルハタボーリス州ノ北部北緯六十二度以北ノ地ニシテ北氷洋ニ面シ地勢卑低一望千里ノ平原ナリ深林及林沼地帯トハ北緯六十二度以南五十七度ノ間ニシテ同縣ノ中部及トムスク縣ノ北部之ニ屬シ檜、松、楊柳、針樅、落葉松、樺及「ハコヤナギ」等ノ樹木蔚蒼トシテ繁茂シ林中處々沼澤ノ横ハルヲ見ル高原地帯ハ五十度以南五十五度ニ及ヒ亞爾泰其ノ他ノ大山脈ノ間ニ横ハル曠野之ニ屬ス此ノ大部分ハ所謂黑饒地帯ト稱セラレ農牧ノ業最盛大ナリトス更ニ南セハ山嶽地帯トナリ農耕ニ適セサル荒蕪地其ノ大部ヲ占ム

今西部西比利亞ニ於ケル二縣二州ノ面積及人口ヲ左ニ記サン (一九一五年現在)

縣	面積 (平方英里)	人口	對一平方英里ニ對スル人口
トムスク縣	七四、五七六	四〇五、七〇〇	五、四
タボーリス州	一一、九二九	二〇八、七〇〇	一、七
セミバラチン州	四〇、八一九	八七、九〇〇	二、二
阿克モリン州	五二、二二三	一、五四、五〇〇	三、〇
合計	一八八、八四六	八、五〇、八〇〇	二、二

全西比利亞中西部地方最モ開發行ハレ居レルコト前ニ一言セシ處ナルカ上表ニ依リ之ヲ見ルモ一平方露

里ニ對シ人口僅ニ東部ハ〇・九、中部ハ〇・四ナルニ反シ西部ハ三・〇ヲ占メ殊ニトムスク縣ハ五・六ヲ有シ全西比利亞各縣州中人口ノ密度ニ於テ第一ナルヲ以テモ之ヲ知り得ヘシ
西部西比利亞人口八百五十六萬人ニ對シ土人約百五十萬ヲ含ミ此ノ内「キルギース」大部分ヲ占メ其ノ他ハ「アルタイ」人、「オスチャーク」、「サモエド」、「ラグル」等トス各州縣中土人最モ多キハセミバラチン州ニシテ總人口ノ約七割八分ヲ占メ次ハ阿克モリン州ノ四割六分是ナリトス

二、氣候

西部西比利亞ノ氣候ハ地方ニ依リ著シク變化スルモ北氷洋及ベルハ高山ヨリ襲來スル寒風ト高原地方ニ發生スル氣温トハ西部西比利亞地方ノ氣候ニ激變ヲ與ヘ殊ニ冬季ハ寒威酷烈ナリトス即チタボーリス州ノ北部ベレンゾーフ地方ニ於テハ零下五十度ニ下リ南部セミバラチン州ノ高原地方ニ在リテハ夏季ノ暑熱甚シク人畜ノ蔽死スルコト少カラス而シテ一年ヲ通シテ殆ト春秋ニ該當スル季節ナク酷暑ヨリ直ニ近寒ノ候トナル降雨少ク純然タル大陸的氣候ナリトス今各地ニ於ケル平均氣温ヲ左ニ示サントス

地方	冬	夏	一年平均
トムスク市	一八・〇〇	一七・〇〇	〇・五〇
タズネーツク	一六・〇三	八・〇二	一・二〇
オムスク市	一一・〇〇	〇・一〇	〇・二〇

阿克モリンスク市	(-)	一・一〇〇	〇・四〇	〇・三〇
タボーリスク市	(-)	一四・〇〇	一三・五〇	〇・一〇
ベソレトフ	(-)	一七・一〇	一一・〇〇	三・五〇

三、河 湖

西部西比利亞ニ於ケル最大ノ河川ハオビ河ニシテ同地方ニ於ケル大小幾多ノ河川ハ悉ク途ニ之ニ合流ス
 オビ川ハ源ヲ亞爾泰山中ニ發シ西部西比利亞中最モ豊饒ナル耕地ヲ縫ヒテ灌溉及運輸ノ便ニ供シ同地方
 ノ開發ニ資スル處多シ即チ同河系ニ屬スルイルツイシ、トミ、タボーリ、ツラ等主ナル河川ヲ合スルト
 キハ總延長二萬九千餘露里ニ達シ内汽船ノ通スルハ一萬四千五百四十二露里後ノ通スル處九千七百二十
 露里ヲ算ス從フテ數多ノ汽船會社ハ此等河系ニ於ケル航運ノ業ニ從事シ居レリ今此等諸川ニ付左ニ記ス
 ヘシ

一、オビ河本流ハ初メカツトニ河ト稱セラレ後ビト河ヲ合スルニ及ヒテオビ河ト成リ夫ヨリビト河ヲ迦
 ルコト二十三露里其ノ右岸ノビリスク市ヨリオビ灣ニ注ク間三千二百五十八露里間ハ航行ノ便アリ此
 ノ内ビリスク市、バルナウル市間二百四十露里ハ水深カラス淺瀬暗礁等時々汽船ノ來往ヲ妨クルモ
 夫ヨリ下流ノヲニコラトエウスタ市ニ至ル四百四十露里ハ亞爾泰山地方ノ最豊饒ナル地方ヲ通過シ居リ
 從フテオビ河系中船舶ノ來往最頻繁ナル所ナリ更ニ下リテイルツイシ河トノ合流點ニ至ル千五百七露

里間ハ水量及河域共ニ良好ナルモ沿岸ハ下流ニ赴クニ從ヒ未開ノ地多ク船舶ノ航行ハ從フテ減少ヲ來
 タスヲ免レス更ニオビ灣ニ至ル千九十五露里間ハ河幅水深一層増大シ優ニ海上汽船ノ航行ニ堪フルモ
 沿岸地方ハ少數ノ土人所々ニ散在スルノミニシテ從來同河航運ノ便ヲ利用スルノ要ナカリシモ近時北
 氷洋航路ノ開始セラレ一九一五年初メテ一汽船ノ遡航ヲ見ルニ至レルヲ以テ將來同河ノ利用ハ刮目ニ
 値ヒスルモノアルヘシ(前章エニセイ河參照)

二、イルツイシ河ハ支那ノ領域内ニ屬スル亞爾泰山中ヨリ發シ延長四千露里オビ河最大ノ支流ナリ國境
 アルカベークヨリ河口ニ至ル三千五百露里ハ全部船舶ヲ通スルノミナラス更ニ支那領域ニ遡リ尙數百
 露里ノ間船舶交通ノ便アリ地方ノ交通ニ資スルコト甚タ大ナリ

三、オビ河ニ流入スル河川ノ重ナルモノハ右イルツイシ川ヲ除キ其ノ他トミ河、チユルイム河、ケチ河、
 オゼリナヤ河、ロモワータヤ河、ヤゼーワヤ河等ナリトス此ノ内トミ河ハ源ヲ東亞爾泰山脈ニ發シ約
 八百露里ニシテオビ河ニ入ルモノニシテ此ノ内河口ヨリノ五十九露里チエレモ一シニヤハトムスク市
 ヲ距ル三露里ニ過キササルヲ以テ船舶ノ航行頻繁ナルモ其ヨリ上流ハ水量少ク航行困難ニシテ唯クズネ
 一ツスク市ニ至ル四百八十九露里間ハ僅ニ筏ニ依リテ來往セラルルニ過キス其ノ他ノ諸川何レモ其ノ
 通過スル地多ク未開ノ深林ニ屬スルヲ以テ經濟上未タ大ナル關係ヲ有セス唯注意スヘキハ上記支流中
 ケチ河ノ上流ニ於テ七露里ノ運河ニ依リエニセイ本流ト連結セラルルコト是ナリ此ノ運河ハ西比利亞

鐵道開通以前莫斯科イルクトスク間交通ノ便ニ供センカ爲開墾セラレタル處ニシテ一八八三年ノ起
工ニ係リ工費三百萬留ヲ投シ一九八四年竣成ヲ告ケタルモ沿岸一帯開墾ニ適セル地少ク殊ニ鐵道開通
以來其ノ價值ヲ減シ今日殆ト船舶ノ交通ヲ見ルコトナキニ至レリ

以上河川ノ外西部西比利亞ニハ湖水最モ多クトムスク縣ノミヲ以テスルモ其ノ數千五百ヲ數フルヲ得ヘ
シト云フ其ノ内大ナルハセミバラチンスク州ニ於ケルザイサン湖(長百露里、幅三〇露里) マルガグーリ
湖(長三五露里、幅一五露里) バルハーシユ湖(長四〇〇露里、幅八〇露里)等ナリトス

第二節 農 業

一、農 耕

西部西比利亞ハ歐露ニ近ク夙ニ移民ノ流入多ク農業ノ發達全西比利亞ニ冠タリ農業地トシテ最モ適當セ
ル地方ハ北緯五十五度乃至五十七度ノ間ニ亘ル所謂黒土地帶ニシテ即チ東西千五百露里、南北百五十露
里ニ亘リタボーリススク縣ノ南部トムスク縣ノ中部地方並アクモリンスク州及セミバラチンスク州ノ一部
地方之ニ屬ス西比利亞鐵道ハ此ノ地方ヲ貫通セリ更ニトムスク縣ノ南部地方即チ亞爾泰高原ノ西南麓ニ
ハ又バラバ曠原アリテ又黒土帶ヲ爲シ兩者ヲ合スルトキハ總面積四十三萬方露里ヲ算シ此ノ内十八萬方
露里ハタボーリススク縣ニ其ノ他ノ大部分ハトムスク縣ニ屬ス此ノ地方一帯ノ地表ハ數吋ノ厚キ腐植土ヲ

以テ蔽ハレ地味頗ル膏腴ナルモ現在開墾セラレタルハ僅ニ三%ニ過キスト云ヘリ若シ他日充分ナル移民
ヲ見又適當ニ開墾セラレンカ其ノ收穫ハ歐露現在人口ノ五倍即チ五億ノ人口ヲ養フニ餘リアリト稱セラ
ルルヲ以テ見ルモ同地方農業ノ前途ノ頗ル有望ナルヲ想見シ得ヘキナリ
今西部西比利亞ニ於ケル作付面積及收穫量ヲ舉クレハ左ノ如シ

	作付耕地面積	收穫量	一デシヤチン平均
ト ム ス ク 縣	二,九四,五七八	三二,一六,四〇〇	一〇,七六
タボーリススク縣	一,六九,〇三二	一一,〇七,五〇〇	六,五七
セミバラチンスク州	三六,〇五八	一七,六三,五〇〇	四八,九
アクモリンスク州	一,〇八,七四五	三九,八七,七〇〇	三六,七
合 計	六,〇八,三二二	三九,四七,三〇〇	六四,九

備考 タボーリススク縣、セミバラチンスク州ハ一九一四年其ノ他ハ一九一三年ノ統計ニ據ル

上記農産物ノ種類ハ小麥ヲ第一トシ全收穫ノ約四割強ヲ占メ馬鈴薯、燕麥、裸麥、大麥順次之ニ次キ蕎
麥、稗、黍、大麻、小麻、日廻草、煙草等ノ收穫又少カラス而シテ西比利亞ヨリ鐵道ニ依リ輸出セラ
ル穀類ハ全西比利亞輸出穀物ノ七割以上ヲ占メ其ノ輸出先ハ歐露ハ固ヨリ獨逸、埃太利並東部及西部西
比利亞地方ナリトス斯ノ如ク多額ノ穀物ヲ輸出シ得ルハ全西比利亞中獨リ西部地方アルノミナルハ注意

スヘキ點ナリトス
二、牧畜

牧畜ハ全西比利亞中西部西比利亞最盛大ニシテ從テ同地方ニ於テ畜産ハ農産ニ次ク主要産業ナリトス
馬、牛、羊、山羊最多ク馴鹿ハタポリーリスク縣ニ駱駝ハセミバラチンスク州及アクモリンスク州ニ飼養
セラル蓋シ西部西比利亞地方ノ地形、氣候及豐富ナル牧草ハ自カラ優良ナル牧場ヲ形成スルニ依レルモ
ノニシテ土人ノ専ラ之ニ從事スルハ固ヨリ農民ノ大部分亦副業トシテ牧畜ヲ營ミ斯業ハ年々著シキ發達
ヲ遂ケ來レリ而シテ斯ノ如ク牧畜業ノ隆盛ヲ來タスト共ニ牛酪、柔毛、皮革、肉等副産物ノ製造ハ亦年
年長速ノ進歩ヲ示シ其ノ歐露及諸外國ニ輸出セラルルモノ巨額ニ上レリ牧畜業カ當地方住民ノ生活ト如
何ニ密接ナル關係ヲ有スルヤハ「キルギース」土人間ニ於ケル日常最初ノ挨拶カ畜類ノ安否ヲ問フニ在リ
テ決シテ相手方又ハ其ノ家族ノ機嫌如何ニ在ラサルノ一事ヲ以テ之ヲ證スルヲ得ヘシ然レトモ之カ改良
發達ニ關シテハ從來殆ト顧慮セラルル所ナク全ク天惠ニ依頼スルノ狀ナリシカ近來各州縣ノ官憲ニ於テ
之カ保護獎勵ノ必要ヲ感知スルニ至リシモノノ如ク畜産ノ改良發達ヲ促スヘク或ハ畜産共進會ヲ開催シ
或ハ畜種ノ改良法ヲ實施スルト共ニ一面優良ナル種牛、種馬ノ貸付ヲ行ヒ又或ハ模範牧場ヲ設クル等種
々ノ施設ヲ行フニ至レリ今左ニ各縣州ニ於ケル畜産數ヲ掲ケン

	馬	牛	駱駝	馴鹿	綿羊及山羊	豚	其他	計
トムスク縣	二、三三、三三三	二、六〇五、七三三	二	—	二、六二八、二二六	四九三、二四四	—	一〇八、一〇〇、六三七
タポリーリスク縣	七、九七、四五	八、六四、三七八	九	四〇八、九三三	六〇八、八五二	一、四二、二〇〇	—	九、二二、七五、〇〇八
セミバラチンスク州	九、七、九六	八、五、八三〇	六、五二	—	二、八〇五、九五〇	八、〇六三	—	四、六、九、五、三〇〇
アクモリンスク州	一、〇五、一、六五二	一、二九、八、三三三	一〇、一、二四二	—	二、〇五、六、〇七三	四、七、三、六四	—	四、五、四、六、五二
合 計	五、一、二、六八五	五、六、五、二、九四	一、六、七、八三	四〇八、九三三	八、〇九、八、八三〇	七、〇、一、九三	—	九、一、三、一〇、一、二、五、六、七

牧畜業ニ關聯シ特筆セサルヘカラサルハ同地方ニ於ケル牛酪ノ產出多大ナルコト從テ之カ輸出旺盛ナル
ルノ一事是ナリ牛酪ハ西部西比利亞ノ主要産物タルニ止マラス亦實ニ露國ニ於ケル重要ナル輸出品ナリ
トス蓋シ穀物ノ如キ容量大ニシテ其ノ價格比較的小ナル貨物ハ之ヲ鐵道ニ依リテ遠ク搬出スルハ徒ラニ
運送費ノ増加ヲ來タシ其ノ結果需要地ニ於ケル價格ヲ高カラシムルカ若ハ生産地ニ於ケル穀價ヲ低廉ナ
ラシムルニアラサレハ無限ニ之カ發達ヲ期待スルコト能ハサルモノナリ之ニ反シ牛酪ノ如キ價格割合ニ
高ク且容積少キ商品ヲ西歐諸國ニ輸出スルモ其ノ輸送費商品價格ニ比シ大ナラス從テ牛酪ノ輸出ハ尙
充分發達ノ餘地アリト云ハサル可カラス露國政府亦此ノ點ニ着眼シ之ニ低利資金ヲ貸付ケ若ハ保護金ヲ
下付シ更ニ各所ニ傳習所ヲ設ケ又或ハ鐵道沿線中須要ナル集散地ニ之カ冷藏庫ヲ建設スル等保護誘掖頗
ル大ナルニ至レリ西部西比利亞ニ於テ牛酪ノ產出最大ナルハトムスク縣及アクモリンスク州ニシテタポ

一リスク縣之ニ次ク即チトムスク縣ニ於テハ二百二十萬布度(約二九、七〇〇、〇〇〇留)アクモリンスク縣ニ於テハ二百五十萬布度(約三三、七五〇、〇〇〇留)ヲ生産セリ其ノ他ノ一縣一州ノ産額ハ不明ナルモ其ノ輸出額(一九一三年)ヲ觀ルニトムスク縣二百四十四萬二千三百七十一布度、アクモリンスク州二百四萬五千布度、タボーリスク縣七十五萬七千四百四布度トシセミバラチンスク州ヨリノ輸出ヲ除クモ合計五百二十四萬四千七百七十五布度(價格七五、〇〇〇、〇〇〇留)ノ巨額ニ達セリ而シテ之カ輸出先ハ英國其ノ半ヲ占メ他ハ獨逸、丁抹、佛蘭西其ノ他ノ諸國ナリ茲ニ注意スヘキハ牛酪ノ輸出先カ斯克英國ヲ第一トナスニ拘ラス之カ輸出ニ從事スルモノハ戰前ニ於テ殆ト獨逸及丁抹商ノ獨占ニ歸シ居リシ事是ナリ獨逸商ハ其ノ代表者ヲ西部西比利亞ノ各地殊ニ亞爾泰地方其ノ他ノ牛酪主産地ニ駐在セシメ農民ヨリ若ハ私營又ハ共同製酪所ヨリ製品ヲ買集メ之ヲ沿線ノ冷藏庫ニ送致シ其ノ輸出ヲ爲スモノニシテ斯ノ如キハ彼等獨商ノ代表者ハ露語ヲ解シ且農民ノ性情ヲ熟知セルニ依ルヤ言ヲ俟タス而シテ獨商等ノ牛酪買占ニ從事スルモノハ其ノ傍搾乳及牛酪製造ニ關スル機械、器具及各種農具ノ販賣ヲモ兼營スルヲ常トシ而モ彼等ノ取引ヲ爲スヤ此等ノ器具ハ一切掛賣トシ後日牛酪ノ買出ニ依リテ其ノ代金ヲ決済スルノ仕組ト爲セルカ如キ其ノ商賣振ノ機宜ヲ得タル牛酪ノ輸出力殆ト獨商ノ獨占ニ歸セル所以ノ偶然ニアラサルヲ知り得ヘシ

第三節 漁 獵

西部西比利亞ノ漁業ハオビ、イルツイシ兩大河ヲ初メ其ノ他ノ河川竝ザイサン、マルガトーリ、バルハ一シユ其ノ他ノ河沼ニ行ハレ哥薩克、農民及土人之ニ從事スルモ其ノ産額ハ大ナラス即チトムスク縣ニテ年産約二百萬留、アクモリンスク州百二十萬留、タボーリスク縣九十五萬留、セミバラチンスク州五萬留、合計四百二十萬留ニ止マリ未タ以テ同地方需要ノ全部ヲ充タスコト能ハス他地方ヨリノ輸入常ニ其ノ輸出ニ超過スルノ状態ナリトス

同地方ノ山獵ハ北方オビ灣及オビ河口ノ諸島嶼ニ獵虎、河獺、白熊、白狐等ヲ産シ南部ノ深林地方ニハ熊、黑貂、狐、栗鼠其ノ他ノ禽獸栖息ス露國ノ初メテ烏爾拉以東ノ地ニ注目スルニ至リシハ實ニ此等毛皮ノ獲得ニ端ヲ發セルモノニシテ今ヤ當時ニ比シ良質ノモノ減少セルカ如キモ其ノ獵獲ハ無限ニシテ殆ト絶滅ノ期ナシト云フヲ得ヘシ其ノ獵獲額ヲ舉クレハトムスク縣三〇二、二五四留、アクモリンスク州七二、〇〇〇留、タボーリスク縣四〇六、二〇〇留及セミバラチンスク州一五、九四三留、合計七九六、〇〇〇留ナリトス

第四節 鑛 業

西部西比利亞ノ鑛産ハ之ヲ東部及中部地方ニ比セハ今日其ノ發達尙頗ル遅々タルノ感アリト雖其ノ有スル鑛量ハ必スシモ少ナルニアラス殊ニ亞爾泰地方ニ存在スル鑛物ハ頗ル豊富ニシテ殆ト無盡藏ト稱セラ
ルルモ同地方ノ多クハ御料地ニ屬シ企業家ノ茲ニ探掘權ヲ得ルノ困難ナルト交通ノ不便ナルトハ今日未
タ之カ充分ナル開發ヲ見ルニ至ラサル所以ナリ其ノ他ニ在リテモアクモリンスク及セミバラチンスク兩
州ノ東南部竝タボーリスク縣ノ南部等ハ亦鑛物ニ富メル地方ナリ即チ此等ノ地方ニハ金、銀、銅、鉛、
鐵、石炭、鹽、石綿、「アンチモニー」、寶石等甚タ多シ今日探掘中ニ係ル鑛業ノ狀況左ノ如シ

金ハ西部西比利亞中トムスク縣ヲ以テ第一トス同縣一箇年ノ産金額百三布度二十三「フント」(一九一三
年)ニシテ其ノ内マリンスク地方ノ産出最多ク亞爾泰地方之ニ次ク亞爾泰地方産出ノ礦石バ其ノ含金量
ニ於テ却テマリンスク地方産ニ優レリト云フ由來同地方ハ無限ノ鑛脈ヲ藏スト稱セラルル處ニシテ唯從
來御料地タリシ關係上之カ開發ヲ妨ケラレタルハ前ニ一言セシ處ナリトムスク縣ニ於ケル主要ノ採金者
ハマリンススキ採金會社、露國金鑛會社等ナリセミバラチンスク州ハ西部西比利亞中トムスク縣ニ次ク産
金地ナルモ一箇年産金僅ニ三十五布度餘ニ過キス其ノ他ノ州縣ニ於テモ亦多クノ金鑛脈存在スルモ現ニ
稼行セルハ極メテ少ナシ

銅 スバースキ銅鑛株式會社及アドバサール銅鑛株式會社ハ西部西比利亞ノ鑛業中最注目スヘキモノニ
シテ主トシテ英國ノ資本ニ依リ經營セラルルモノナリト云フ前者ハアクモリンスク州ウスペンスキ銅山

其ノ他ノ銅山及製銅所ヲ有シ一九一三年ニ於テ同會社所有ノ銅山ヨリ探掘シタル銅鑛ハ百六十六萬一千
六百四十二布度(其ノ含金量二十五%乃至三十一%)ニ達シ之ヨリ製出シタル精銅三十萬六千六百九十
二布度ニ上レリ尙同會社ハカラガンヂンスカヤト稱スル石炭坑ヲ有セリ又アドバサール銅鑛株式會社ノ
銅鑛ハ亦主トシテアクモリンスク州内ニ存在シ其ノ内大ナルハ同州アトバサール郡ボクローフスキ銅山
トシ其ノ産銅額七十五萬七千三百六十三布度ニ達ス

石炭ノ探掘ハトムスク縣最盛ナリ鐵道沿線スズゼンガ驛ニ同名ノ炭鑛アル外西比利亞鐵道ノ直營ニ係ル
マンゼル炭鑛アリテ探掘ニ從事シ居リ何レモ炭質良好ナリ一九一三年ノ探炭量前者ハ二五、八〇〇、〇〇
〇布度、後者ハ二二、〇〇〇、〇〇〇布度ナリトス又同縣南部クツネーツスク地方ニハ良好ナル炭田發見
セラレ其ノ炭量ノ豊富ナル殆ト世界ニ比ナシト稱セラルルモ今日未タ探掘ナク其ノ他各地ニ多數ノ炭鑛
散在スルモ規模小ニシテ僅ニ地方ノ需要ヲ充タスニ過キス即チ此等ノ探炭ヲモ合スルトキハ五四、三〇
〇、〇〇〇布度ヲ算ス

鹽 西部西比利亞ニハ到ル處無數ノ鹽湖アルモ探測探鹽セルモノ尙甚タ少シセミバラチンスク州ノミニ
テモ一技師ノ報告ニ依レハイルツイシ河左岸ニ二十、同右岸ニ十九ノ鹽湖アルコト明了トナレルモ此ノ
内探鹽セラレツアルハ僅ニ十箇所ニ過キス其ノ最大ナルハコリヤコーウ湖ニシテ百八十萬布度ヲ産ス
其ノ他ノ産鹽額ヲ合シ合計五百萬餘布度ナリトス

第五節 工業

西部西比利亞ノ工業ハ尙甚タ幼稚ナルコト他ノ西比利亞諸地方ニ異ナラサルモトムスク縣ハ比較的移民ノ數多キト農産ノ豐富ナルトノ爲此等農産又ハ家畜ヲ原料トスル工場ノ發達稍顯著ナリトス又タボーリスク縣チユーメン市ハ其ノ發達最古ク西比利亞ノ舊都タルヨリ鑄鐵工場、羅紗工場ノ如キ他ノ地方ニ見ルヲ得サル工場アリ同市ニ於ケル木工、革工ノ製品中精巧ナルモノ少カラス今左ニ各州縣工業狀態ヲ左ニ記サントス

トムスク縣ハ西部州縣中工業最隆盛ニシテ工場ト稱シ得ヘキモノヲ合セハ一萬三千餘、職工數三萬人以上ニ達スルモ其ノ内蒸汽力又ハ電氣力ヲ使用セルハ僅ニ十數箇ヲ算スルニ過キス其ノ生産額ハ合計六千萬留内外ニシテ其ノ主ナルハ牛酪製造所ノ二千八百萬留、製粉千七百萬留、釀造五百萬留、其ノ他ハ煉瓦、皮革、土人ノ履物工場等ナリトス

アクモリンスク州ノ工業ハ僅ニ地方ノ需要ヲ充タシ得ルニ過キス其ノ工場總數千五百一ニシテ職工數八千六百人、生産額千八百七十萬留ヲ算ス内製粉所ノ八百三十萬留、鑄鐵工場ノ八十萬留ヲ主ナルモノトスタボーリスク縣ニ於テハ其ノ工業比較的精巧品ヲ産スルコト前ニ一言セル處ナリト雖其ノ産額ハ微々トシテ殆ト記スヘキモノナシ同縣ノ工場總數及職工數ハ之ヲ知ルヲ得サルモ其ノ生産總額ハ千九百萬留ヲ

算シ其ノ内千二百萬留ハ牛酪、百五十萬留ハ羊毛製裘及皮革製品、二百二十萬留ハ鞣皮、洗毛其ノ動物的原料ニ加工セルモノニシテ其ノ他ハ麥粉、釀造等ナリトス

セミバラチンスク州ハ西部西比利亞中殊ニ未開ノ地多ク工業ノ發達極メテ遅々タリ其ノ生産額ハ二百萬留ニ過キスシテ鞣革、牛酪、洗毛、石鹼、釀造、製粉等其ノ主ナルモノニシテ概シテ外來露人ノ經營スル所ナリ

第六節 商業

西部西比利亞ニ於ケル商業機關ハ商店及定期又ハ不定期ノ市場ニシテ内國商品及輸出品ノ大部亦茲ニ取引セラルルヲ常トス概シテ農牧ノ隆盛ヲ來タセルニ伴ヒ此等ノ商取引ハ一般ニ活氣ヲ呈セルハ言フ俟タサル所ナルモ定期又ハ不定期市場ハ交通機關ノ發達ト共ニ漸次衰頹スルノ傾向アリ今各州縣ニ於ケル商業ノ狀況ヲ略述センニトムスク縣ニ於ケル商店數ハ一九一三年ニ於テ八、九九七ヲ算シ一億六千六十九萬留ノ取引ヲ爲セリ而シテ其ノ取引ノ最大ナルハノラニコラーエウスク市ニシテトムスク市、カーメン邑之ニ次ク右ノ外縣内ニハ五百六十三回ノ定期市開催セラレ其ノ取引額千五六百萬留ニ達セリ同縣輸出ノ重ナルモノハ穀物、牛酪、皮革類ニシテ輸入ハ農具及諸製造品ヲ其ノ主ナルモノトス

アクモリンスク州ニ於ケル商業ノ中心ハオムスク市ニシテペトロパウロースク市及アクモリンスクノ兩

市之ニ次ク州内商舖ノ總數四千六百三十一ヲ算シ其ノ取引總額六千三百四十萬留ニ達ス又定期市ハ二百餘回ノ開催アリテ二千八百萬留ノ貨物茲ニ取引セラレツツアリ本州ニ於テハ家畜及某ノ副産物ノ取引盛ニシテ其ノ取引高約千餘萬留ヲ下ラサルヲ以テ本州ノ取引總額ハ無慮一億三四千萬留ニ達スヘシ
 タボーリスク縣ハ商業殊ニ幼稚ニシテ北部地方ニ於テハ今仍ホ物々交換行ハル縣内定期市場ノ取引總額三千五百萬留、商店ニ於ケル取引亦五千七百萬留ヲ算シ其ノ内ノ三分ノ二以上ハチユーメン、イシーム及クルガンノ三市之ヲ占ム輸出品ノ重ナルハ牛酪ノ千八百萬留ヲ第一トシ千萬留ノ皮革之ニ次ク其ノ他毛皮、柔毛、脂肪ノ輸出亦少カラス

セミバラチンスク州ノ邊僻ノ地ニ在リテ交通ノ便頗ル惡シク殊ニ土人ノ住地大部分ヲ占ムルヲ以テ貿易亦活潑ナラス今尙物々交換盛ニシテ年額僅ニ百二十萬留内外ノ商取引行ハルニ過キス若シ之ニ定期市十四回ノ取引額五百四十萬留及普通商店ノ賣買額約六百萬留ヲ加フルモ本州一箇年ノ取引總額ハ尙千三百萬留内外ニ過キス

以上記述セル所ハ主トシテ州内及州外貿易ニシテ會々外國輸出ヲ含ムモ歐露經由ノ間接貿易ニ屬ス而シテ其ノ直接貿易ト目スヘキハ露支國境ニ於ケル露蒙貿易ナリ之ニ關シ聊カ記センニ其ノ貿易徑路ハ(一)トムスク縣ビドスク郡内ニ於テチユーイ街道上ニ設置セラレタルロシアガーチ税關經由ノモノト(二)セミバラチンスク州所在ノザイサン、アルカペークスキー及カトンカラガイスキー税關經由ノモノトアリテ

其ノ輸出額前者ハ六十五萬留、後者ハ百五十萬留トシ輸入ハ前者四百三十萬留、後者百六十萬留トス貿易品ノ主ナルハ輸出ニ在リテハ銀、麥粉、砂糖、石油、諸雜貨ニシテ輸入ニ在リテハ家畜、羊毛、皮革及絹布等ナリトス

第七節 都市

西部西比利亞ニ於テ人口一萬以上ヲ有スル都會ハ通計十八ヲ算シ其ノ内トムスク縣ハ八市、タボーリスク縣ハ五市、アクモリンスク州ハ三市、セミバラチンスク州ハ二市ヲ有ススク一縣ニシテ一萬以上ノ都市八箇ヲ有スルトムスク縣ノ如キハ蓋シ全西比利亞中他ニ類例ナキ處ナリ殊ニ同縣ノヲニコラーエウスク市ノ如キ僅ニ十餘年間ニシテ人口五萬ヨリ九萬ヲ有スル大市タルニ至リシカ如キ最注目ニ値スル點ニシテ斯ノ如キハ同地方ノ開發ニ伴ヒ豊富ナル穀物及牛酪ノ集散力自カラ都市ノ發達ヲ促カスニ依レルモノニ外ナラス

一、トムスク市

トミ河ノ右岸、ウシヤイカ川ノ合流點ニ位シ老樹古木鬱蒼トシテ風景佳絶ナリ西比利亞鐵道本線上ノタイガ驛迄八十四露里ノ枝線ニ依リテ西比利亞鐵道ニ連リ且水運ノ便少カラス最近ノウニコラーエウスク市ノ發達ニ伴ヒ本市ノ繁榮ハ幾分之ニ奪ハレタルヤノ觀ナキニアラサルモ尙水陸要衝ノ地トシテ物資ノ

集散甚大ニシテ年額五千萬留以上ノ取引行ハル本市ハ人口十萬四千九百六十三人アリトムスク縣廳ノ所在地タルノミナラストムスク鐵道廳、移民局、鑛山局、其ノ他ノ諸官衙ヲ有シ學校、病院、博物館等ノ施設又頗ル完備セリ金融機關ノ主ナルモノハ帝國銀行、露西亞外國貿易銀行、西比利亞商業銀行各支店ノ外數箇ノ金融機關アリ

二、ノヲニコラーエウスク市

トムスク縣ニ屬シオビ河ノ右岸ニ在リ人口八萬九千三百十九人ヲ有ス亞爾泰鐵道ノ分岐點ニシテ水陸ノ便ニ富ミ貨物輻湊ス本市ハ西比利亞鐵道ノ敷設ニ伴ヒ初メテ建設セラレ一九〇九年全市殆ト灰燼ニ歸シタルモ更ニ再築ヲ見爾來其ノ發達頗ル迅速ニシテ今ヤ西部地方最大ノ商業地タルノ地位ヲ占ムルニ至レリ西比利亞商業銀行、帝國銀行、露亞銀行及露國外國貿易銀行各支店ノ外尙數箇ノ金融機關アリ

三、バルナウル市

トムスク縣ニ在リ亞爾泰鐵道開通以來交通ノ便正ニ面目一新シ皮革、穀類、牛酪ノ集散更ニ殷賑ヲ加フルニ至レリ人口七萬四百十二人金融機關ノ重ナルモノハ帝國銀行、露亞銀行、露國外國貿易銀行及西比利亞商業銀行ノ各支店ナリトス

四、ビースク市

トムスク縣ニ屬ス人口三萬九千五百七十二人アリビエ河ノ兩岸ヲ占ムチユイ街道ノ要衝ニ當リ蒙古貿易

ノ中繼地タリ亞爾泰鐵道ハバルナウル市ヲ距ル遠カラサルアルタイスカヤ驛ヨリ一枝線ヲ出シテ本市ニ達ス其ノ間百三十八露里今ヤ開通セラレ本市ノ將來又極メテ有望ナルニ至レリ諸官衙、學校、寺院ノ外露亞銀行、西比利亞商業銀行ノ各支店アリ

五、オムスク市

アクモリンスク州ニ屬シオムスク驛ヲ距ル三露里イルツイシ河ノ右岸ニ在リ人口十三萬三千二百八十人水陸交通ノ要衝タリ又本市ハ本州及セミバラチンスク州ヲ管轄スルステブ地方總督府ノ所在地ニシテ又本州ノ首府タリ金融機關トシテハ帝國銀行、露亞銀行、「ラルジスコールカイルムスキー」商業銀行、西比利亞商業銀行、露國貿易銀行ノ各支店及其ノ他數箇ノ銀行アリ

六、ペトロバウロフスク市

アクモリンスク州第二ノ都會ニシテ人口四萬一千五百三十九人西比利亞鐵道ノ沿線ニ位ス本市ニ集散スル貨物ハタボーリススク縣ヨリ來ル皮革、穀物、牛酪等ヲ主トシ每年外國輸出ニ宛テラルルモノ牛酪一萬五千布度、毛皮及生革類二十萬布度、歐露ヘノ輸出肉類少クモ五萬布度、穀類約五十萬布度ヲ算シ又本州スバースキ精銅所ヨリ來集スル銅亦四十萬布度ニ達スト帝國銀行、西比利亞商業銀行、露國商工銀行其ノ他ノ銀行存在ス

七、チユーメン市

タボールスク縣ニ屬ス人口四萬一千八百四十四、ツーラ河ヲ挾ム都會ニシテ鐵道開通以前既ニ歐露トノ連絡基地トシテ喧傳セラレタル水陸要衝ノ地ナリ官衙、學校、寺院ノ外露西亞外國貿易銀行、西比利亞商業銀行、帝國銀行ノ各支店等アリ

八、クルガン市

タボールスク縣内タボール河ノ右岸ニアリ人口三萬六千六百六十五人オムスク鐵道沿線中屈指ノ牛酪輸出驛タリ「アルジスコールカイムスキー」銀行及西比利亞商業銀行ノ兩支店アリ

九、タボールスク市

タボールスク縣廳所在地ニシテタボール河ノイルツイシ河ニ注ク合流點ニ在リ人口三萬一千三百六十一人ヲ有ス帝國銀行、西比利亞商業銀行ノ支店其ノ他ノ金融機關アリ

一〇、セミバラチンスク市

セミバラチンスク州ノ首府ニシテ現在亞爾泰鐵道ノ終點ニ位ス人口三萬六千九百六十四、同州商業ノ中心地タル外ザイサン稅關經由ノ蒙古貿易ノ仲繼地トシテ市況稍盛ナリ然レトモ其ノ街區ハ木造家屋今尙大部分ヲ占メ其ノ外觀殆ト村邑ト異ナラサルモ本市ハ鐵道ノ開通ト共ニ漸次其ノ面目ヲ改メ將來大ニ發展スルニ至ルヘキナリ

一一、其ノ他ノ市邑

以上ノ外西部西比利亞ニ於テ人口一萬以上ヲ有スル都市ハトムスク縣ニ於テマリンスク市(人口一四、五五九)カライワン市(人口一〇、八八八)カメニ邑(人口二一、〇〇〇)カインスク市(人口一三、二〇〇)タイガ市(人口一〇、五〇〇)及ズメイノゴールスク邑(人口一二、〇〇〇)ヲ算シアクモリンスク州ニ於テアクモリンスク市(人口一六、四一人)竝タボールスク縣ニ於テイシム市(人口一五、〇〇二)及タラ市(人口一二、三二九)ヲ算ス此ノ内カメニ及ズメイノゴールスクノ二地ハ村邑ニ屬スルモ早晚市ニ上サルヘキモノナリト云フ

第五章 西比利亞ノ鐵道

第一節 西比利亞鐵道敷設ノ沿革

西比利亞ニ初メテ鐵道敷設ノ必要ヲ唱ヘタルハ十九世紀ノ中葉時ノイルクートスク總督ムラビヨフ、アムルスキー伯ニシテ伯ハ其ノ占領シタル太平洋岸ヲ防禦スルノ必要ヨリデカストリー灣ト黑龍江トノ間ヲ連絡スヘキ一鐵道ノ敷設ヲ主張セシモ其ノ實現ヲ見スシテ止ミタリ其ノ後外國企業家又ハ民間資本家ヨリ西比利亞ノ一部ニ鐵道敷設ノ出願ヲ爲スモノ續出セシカ就中一八五六年米人コリンス氏ハイルクートスクトチタトノ間ニ鐵道ヲ敷設シ以テ東部西比利亞ノ首府ト黑龍江ノ上流トヲ連絡スルノ目的ヲ以テ

一會社ヲ設立シ且之ヲシテ西比利亞ノ開發ニ必要ナル資金ノ供給ニ當ラシメンコトヲ建議シムラビヨフ
 總督ノ贊同ヲ得タルモ中央政府ハ時機尙早ナリトノ理由ニ依リ之ヲ許サス次テ一八五八年モリソン氏其
 ノ他ヨリ莫斯科、太平洋間連絡鐵道ノ敷設又同年露國ノ豪商ソフロフ氏ヨリ亞爾泰地方經由黑龍江及
 北京ニ達スルノ鐵道敷設ノ出願アリシモ是又遂ニ政府ノ容ルル所トナラス其ノ後西比利亞鐵道敷設問題
 ハ暫ク中絶ノ姿ヲ爲セシニ一八七〇年頃ニ至リ露國內ニ於ケル鐵道普及計畫ノ實行ヲ見ルニ及ヒ其ノ一
 部トシテ一八七五年ベルム、エカテリンブルク間ノ鐵道開通セラルルト共ニ之ヲチユーメン迄延長シ一
 ハ以テ烏拉爾地方ノ産業ヲ開發シ且歐露カマ河(ヴォルガ河ノ支流)ト西比利亞オビ河流域トヲ連結セン
 トスル議起リ直ニ其ノ容ルル所トナリ遂ニ一八九四年其ノ開通ヲ見ルニ至レリ是レ實ニ西比利亞ニ於ケ
 ル最初ノ鐵道ナリトス而シテ本鐵道ノ開通ハ再ヒ西比利亞鐵道敷設問題ニ刺激ヲ與ヘ當時ノ露國皇帝
 アレキサンドル三世ニ提出セル西比利亞施政報告中時ノイルクトスク總督ハ西比利亞鐵道敷設ノ急務
 ヲ切論シタルニ對シ皇帝自ラ筆ヲ執テ之ニ「朕ハ西比利亞ニ關スル總督ノ報告ヲ閱シ政府力從來此ノ放
 棄セラレ居レル豐饒ナル邊境ノ要求ヲ充タスカ爲ニ何等施設スル處ナカリシヲ深ク慚愧セサルヲ得ス而
 モ時機ハ既ニ到來セリ」トノ詔勅ヲ記セラレ同問題ニ一新生面ヲ開キ政府ハ茲ニ西比利亞鐵道ノ敷設ニ
 全力ヲ傾注スルノ機運ヲ爲セリ

一八九〇年露國政府ハ歐露鐵道ヲ西比利亞ニ延長接續セシムル目的ヲ以テヅラトウストーミアス間ノ線

路ヲチエリヤビンスク迄延長スルニ決シ尋テ翌一八九一年二月ノ閣議ヲ以テ愈西比利亞橫斷鐵道敷設ノ
 議確定シ同時ニ東西ノ兩端ヨリ其ノ工事ニ着手スルコトト爲レリ而シテ極東ニ於ケル同鐵道工事ノ開始
 ニ特別ノ意義ヲ與ヘンカ爲露國皇帝ハ當時極東諸國巡遊中タリシ皇太子ヲ浦鹽斯德ニ立寄ラシメ同年五
 月十九日極メテ嚴肅ナル西比利亞鐵道起工式ヲ舉行セシメタリ即チ皇太子ニ與ヘラレタル勅語ハ實ニ左
 ノ如シ

「皇太子殿下 天與ノ富源ヲ有スル西比利亞地方ヲ露國內國鐵道ニ連絡ス可キ全西比利亞貫通鐵道工事

ニ着手スルニ臨ミ朕ハ殿下ニ極東諸國視察後更ニ露國ノ版圖ニ入リテ朕カ此ノ意ヲ表明センコトヲ託

ス又其ト共ニ殿下ニ附託スルニ浦鹽斯德ニ於テ國費ヲ以テ政府直接監督ノ下ニ敷設セラルヘキ西比利

亞大鐵道ノ一部トシテ烏蘇里幹線ノ起工式ヲ舉行スヘキコトヲ以テセントス

起工ニ際シ特ニ殿下ヲ臨場セシメタルハ朕カ如何ニ西比利亞ト帝國內地トノ交通ヲ容易ナラシムルニ

銳意シ且露國ノ平和の繁榮ノ確保ニ對シ朕ノ切實ナル配慮ヲ表明スヘキ證明タル可キ也」

西比利亞鐵道敷設ノ其ノ後ノ實行ニ關シテハ一八九二年ウイツテ伯大藏大臣ニ就任セシ以來銳意企畫セ

ル所アリ伯ハ技術上茲ニ財政上ノ諸點ニ關シ詳細ナル調査ヲ遂ケ之カ實行ノ順序ヲ決定セリ即チ先ツ

チエリヤビンスクヲ起點トシテ全線ヲ七區ニ分チ更ニ之ヲ左ノ三期ニ配シテ工事ニ着手セントスルコト

是ナリ

第一期

第一區 西部西比利亞鐵道(チエリヤビンスク—オビ河間)

一、三二八露里

第二區 中部西比利亞鐵道(オビ河—イルクートスク間)

一、七五四露里

第七區 南部烏蘇里鐵道(グラフスカ—浦鹽斯德間)

三八二露里

第二期

第六區 北部烏蘇里鐵道(ハバロフスク—グラフスカ—間)

三四七露里

第四區 後貝加留鐵道(ムソフヤ—スレーチエンスク間)

一、〇〇九露里

第三期

第三區 貝加留湖迂迴鐵道(イルクートスク—ムソフヤ間)

二九二露里

第五區 黑龍鐵道(スレーチエンスク—ハバロフスク間)

二、〇〇〇露里

合計

七、一一二露里

而モ當時實際ニ於テハ工費支出ノ小額ナルカ爲僅ニ些少ノ土木工事ヲ施セルニ過キス工事ノ進捗極メテ遅々タルノ状態ニ在リタリト雖同年十二月新ニ西比利亞鐵道委員會設立セラレタル以來同鐵道敷設問題ニ一轉機ヲ畫シ同事業ノ完成ニ一步ヲ進メタリ即チ同委員會ハ皇太子殿下ヲ議長トシ首相、大藏、交通各大臣其ノ他ノ有力者ヲ網羅シ西比利亞大幹線ノ敷設ニ關シ廣汎ナル權限ヲ附與セラレタリ同委員會ノ

決議ニ依リ決行シタル事項中主ナルモノヲ擧クレハ(一)一八九二年ニ於テ決定セル第二期ニ屬スル後貝加留鐵道工事ヲ繰上ケ之ヲ第一期工事中ニ編入シ一八九八年中ニ竣工セシム可キ計畫ヲ建テタルコト

(二)建設材料輸送ノ便ヲ計ランカ爲西比利亞ニ於ケル河流ノ浚渫設備ヲ施セルコト(三)鐵道工事ニ流刑囚並配謫居住民其ノ他各般ノ罪人ヲ使役スルノ方法ヲ講シタルコト等是ナリ此ノ内特ニ記スヘキハ一八九五年ニ於テ後貝加留鐵道ヲ第一期工事ニ編入セルコトニシテ是レ前年ニ勃發セル日清戰爭カ同年ニ至リ愈日本ノ大勝利ヲ以テ終リタル結果極東ニ於ケル露國ノ地位ニ重大ナル變化ヲ來タシ軍事上速ニ本線ヲ敷設シ以テ貝加留湖上連絡汽船及黑龍江ノ水運ト相俟チ歐露ト浦鹽斯德トノ連絡ヲ完ウスルノ必要アリトナセシカ爲ニ外ナラス而シテ第一期ニ屬スル鐵道ハ各區兩端ヨリ同時ニ起工シ工事ノ進捗ヲ計リタル結果其ノ工程意外ニ進行シ西部西比利亞線(チエリヤビンスク—ノラニコラーエウスク間)ハ一八九六年十月十五日、中部西比利亞線中ノラニコラーエウスク—クラスノヤールスク間並タイガーヨリチエレモ—シニク間ノ所謂トムスク支線ハ一八九八年一月一日ヲ以テ開通シ次テ翌一八九九年一月一日イルクートスク市迄ノ開通ヲ見タルヲ以テ茲ニチエリヤビンスク以東イルクートスクニ達スル所謂西比利亞鐵道ハ全線ノ運轉ヲ開始スルニ至レリ更ニ後貝加留鐵道本線ハバイカル驛タンホイ驛間ノ貝加留湖畔迂迴線ヲ除キ一九〇〇年七月一日ヲ以テ開通シ貝加留湖ハ一時渡船ヲ以テ連絡ヲ計リシモ是又一九〇四年竣成ヲ告ケ歐露ヨリノ鐵路ハ漸ク黑龍江岸ニ達スルニ至レリ

是ヨリ先キ露國ハ黑龍江ノ左岸ニ沿フテハバロフスクニ至ルノ一鐵道ヲ敷設シ以テ西ハ後貝加留鐵道ニ東ハ烏蘇里鐵道ニ連接セシムルノ計畫ナリシカ實測ノ結果本鐵道ハ工事頗ル困難ニシテ工費ヲ要スルコト多大ナルニ拘ハラヌ沿道山嶺河川相交錯シテ荒涼ヲ極メ何等見ルヘキノ産業ヲ有セス本鐵道ノ經濟的價值絶無ナルコト明カトナリタルニ加ヘテ浦鹽ニ至ル幹線トシテ甚タシク迂迴シ之ヲ後貝加留鐵道ヲ延長シテ北滿ノ沃野ヲ橫斷セシメ東走直ニ浦鹽ニ達スルヲ得ンカ其ノ間五一五露里ヲ短縮シ得ルノミナラス工事ノ難易、收支ノ多少ハ誠ニ雲泥ノ差アリ露國ハ茲ニ着眼シ日清戰後大ニ畫策スル所アリ遂ニ一九〇六年九月「カシニー」條約ヲ締結シ更ニ同年八月支那政府ト露清銀行トノ間ニ締結シタル東清鐵道條約ニ依リ西比利亞鐵道ノ一端ヲ支那ノ領土ニ入レ之ヲ烏蘇里鐵道ニ連結スヘキ鐵道敷設ノ特權ヲ獲得セリ超ヘテ一八九八年二月「ハバロフ」條約ニ依リ大連及旅順ニ延長スルノ權利ヲ得直ニ此等兩線ノ工事ニ着手シ一九〇二年全線ノ開通ヲ見ルニ至レリ斯ノ如クニシテ西比利亞大幹線ハ完成ヲ告ケ單ニ露國領土ノミナラス更ニ支那ノ領土タル北滿洲ヲ橫貫シテ太平洋ト大洋洋トヲ連絡シ東西ノ旅客及貨物ノ輸送ハ始メテ安全且迅速ナルヲ致スト共ニ其ノ沿線地方ノ富源ヲ開發シ西比利亞ノ經濟的發達ニ資スル所頗ル大ナルモノアリシト共ニ極東ニ於ケル外交上、軍事上露國ノ地位ヲ優越ナラシムルニ與テ力アリタルヤ亦言ヲ俟タサル所也

前述ノ如ク東清鐵道ノ敷設決セラルルト共ニ一時放棄ノ狀態ニ在リシ黑龍鐵道ハ日露戰後ニ至リ再ヒ其ノ敷設企畫セラレ一九〇九年以來其ノ工事ニ着手セリ而シテ之ト共ニ西比利亞鐵道大幹線ノ輸送力ヲ増加スルノ必要上一九〇八年以來全線ニ亘リ複線工事ニ着手シ現在ニテハオムスク以東ハ黑龍、東清兩鐵道ノ分岐點タルカルイムスカヤ驛ニ至ル迄ハ僅ニ貝加留湖畔迂迴鐵道ノ外既ニ一九一五年ヲ以テ複線竣功シ湖畔迂迴鐵道又一部橋梁及隧道ヲ除キ複線トナルニ至リ且烏蘇里鐵道ニ於テモ浦鹽—ニコリスク、ウスリスキー間ノ複線完成セルヲ以テ東部ニ於テハ黑龍、東清ノ兩鐵道西部オムスク以西ニ於テハチエリヤビンスクニ至ル舊線及エカテリンブルクニ出ル新線ト相俟チ極東歐露間ノ輸送力ハ殆ト倍加シ沿線地方ノ發展ニ資スルコト莫大ナルモノアルノミナラス一朝有事ノ日ニ際セハ各鐵道ハ二十列車ヲ晝夜運轉セシムルコトヲ得當初ノ計畫初メテ實現セララルニ至レリ

上述ノ如ク今日既ニ鐵道ハ西比利亞ヲ橫貫シテ歐露ヨリ極東ニ相通セリ此ノ大幹線ハ世人之ヲ西比利亞鐵道ト稱スルヲ常トセリト雖單ニ西比利亞鐵道ト稱スルトキハ(一)インノケンチエフスカヤ(イルクト)トスク驛ノ附近)以テ西ヲ稱シ是ヨリ(二)スレーチエンスク及滿洲里ニ達スル線路ハ之ヲ後貝加留鐵道ト云ヒ(三)滿洲里以東北滿洲ヲ通過シテ蒙支國境ボクラニチナヤニ至ル鐵道及哈爾濱以南寬城子間ノ鐵道ハ之ヲ東清鐵道ト稱シ(四)國境ボクラニチナヤ浦鹽間竝ニコラリスク、ウスリスキー以北ハバロフスク間ハ之ヲ烏蘇里鐵道ト名付ケ更ニ(五)後貝加留鐵道ノ一驛クローエンカヨリハバロフスク間ハ黑龍鐵道ト稱スルモノナリ其ノ他尙最近開通セル亞爾泰鐵道、ミヌシンスク鐵道及ボダイボ狹軌鐵道アリ以下順

次此等既設鐵道ニ關シ略述スル所アラントス

第二節 西比利亞ノ既設鐵道

一、オムスク鐵道及トムスク鐵道

此ノ二鐵道ハ西比利亞橫貫鐵道ノ一部ニ屬シモト西比利亞鐵道ト稱セシカ一九一五年ノ初メ新ニオムスク、チユメーン間ノ線路竣成ヲ告ケ歐露ベルム鐵道ニ連絡スルニ至リシト共ニノヲニコラーエウスク驛附近オビ河鐵橋ヲ分界トシテ之ヲ二分シ一ハオムスク鐵道ト稱シ他ハトムスク鐵道ト名付ケタルモノナリ即チオムスク鐵道ハチエリヤビンスクヨリオビ河鐵橋迄ノ一、三三二露里間トオムスク、エカテリンブルグ間八三七露里合計二、一六九露里ヲ含ミ在オムスク市オムスク鐵道廳ノ管轄ニ屬スルモノナリ同沿線ノ主要都市ハ舊線(西比利亞線)ニ在リテハオムスク、ペトロバウロフスク、クルガン、チエリアビンスク等トシ新線ニ在リテハイシム、チユメーン、エカテリンブルク等ナリトス本鐵道ノ輸送狀態ハ大部分通過貨物ニシテ本鐵道各驛ノ發着貨物ハ割合ニ少ナシト云フ

トムスク鐵道ハオムスク鐵道ニ連リテ東方インノケンチエフスカヤ(イルクートスク市ノ西七露里)ニ至ル一、七二七露里及タイガー、チエレモーシニツク間ノ枝線八九露里合計一、八一六露里ナリトス鐵道廳ハトムスク市ニ在リ本鐵道ハ西比利亞全線ヲ通シ最豊饒ナル地方ヲ通過セルヲ以テ其ノ收益ハ露國官有鐵道中屈指ノモノナリト云フ沿線ノ重ナル都市ハノヲニコラーエウスク、トムスク、マリンスク、アチンスク、クラスノヤールスク、カンスク等ナリトス

二、後貝加留鐵道

本鐵道ハインノケンチエフスカヤ驛—スレーチエンスク驛間一、三五二露里、其ノ一驛キタイスキー待避驛ヨリ分岐シ支那國境ヲ超エ滿洲里ニ於テ東清鐵道ト接続スル支線三五五露里並ネルチンスク枝線約一〇露里、合計一、七二七露里ヲ總稱シ後貝加留鐵道廳ハイルクートスク市ニ在リテ全線ヲ管轄ス本鐵道全線中貝加留湖迂迴線ヲ除キ最初一八九八年中ニ竣成ノ豫定ヲ以テ工事ニ着手セシカ其ノ經過スル地方ハ海拔數百哩ヨリ一千哩以上ニ達シ冬季氣温非常ニ低ク甚シキハ地表下一「サーゼン」乃至三「サーゼン」ニ至ル迄氷結シ春季其ノ一部ハ解氷スルモ尙地表數「サーゼン」以下ノ地中ハ殆ト永久的ニ氷結セルアリテ爲ニ工事ノ進捗ヲ妨ケタルト且一八九七年ニ於テ未曾有ノ大水害アリ鐵道工事ニ大被害ヲ被リタル等ノ爲其ノ開通ハ自カラ遅延ヲ免レサリシモ其ノ一部タルイルクートスク市ヨリ貝加留湖ノ西岸バイカル驛間並貝加留湖東岸ムイソールワヨリスレーチエンスク迄ノ間ハ共ニ一九〇〇年七月一日ヨリ本營業ヲ開始シ次テキタイスキー待避驛、滿洲里驛ニ至ル支線ハ一九〇一年十月十一日ヲ以テ開通ヲ見ルニ至レリ而シテ滿洲里ヨリ支那領土タル黑龍江、吉林二省ヲ横斷シテ再ヒ露國國境ニ達スル一、三七〇露里ノ東清鐵道本線並更ニ進ミテ烏蘇里鐵道ニ連結スル一一四露里ノ延長線ハ共ニ一九〇四年ニ於テ竣成セシヲ以

テ後貝加留鐵道ハ西、西比利亞鐵道ト連ツテ歐露ニ通シ東方東清鐵道及烏蘇里鐵道ニ依リ直ニ浦鹽斯德ニ達スルニ至レルハ前述ノ如シ

本鐵道沿線ハ未開發ノ地多ク其ノ營業ハ年々損失相次クノ状態ニ在リト云フ沿線主ナル都市ハイルクトスク市、チタ市、スレーチエンスク等ナリ

三、烏蘇里鐵道

本鐵道ハ之ヲ南北ノ二區ニ分チ其ノ南部線ハ一八九一年露國皇太子自カラ臨場シテ莊嚴ナル起工式ヲ舉ケ工事ニ着手シ一八九四年其ノ假運轉ヲ開始シ北部線ハ引續キ工事ヲ進メ一八九九年是又全ク竣成セリ其ノ延長浦鹽斯德ヨリハバロフスクニ至ル七二露里(ハバロフスク驛ヨリ黑龍江埠頭迄ノ支線ヲ含ム)竝ニニコリスク、ウスリスキー驛ヨリ國境ボクランニチナヤ驛間ノ一一四露里合計八三六露里ナリトス本鐵道ハ當初專ラ速成ヲ計リシ爲鐵路粗雜ヲ極メ往々危險少カラサリシモ爾來之カ改良ヲ計リ殊ニ黑龍鐵道ノ敷設ト共ニ其ノ改良工事ハ益進行シ最近全ク其ノ完成ヲ告クルニ至レリ

四、黑龍鐵道

黑龍鐵道ハ後貝加留鐵道ノクローエンカ驛ヨリ起リテ東北行シ一五露里乃至一二〇露里ヲ距テテ黑龍江ト相並ヒ烏蘇里鐵道ノ終點ハバロフスカ驛ニ至ル延長一、八七五露里ノ本線ノ外ブラゴウエシエンスクニ達スル一〇一露里ノ一枝線ト黑龍江ノ水運ト連絡スヘキ江岸埠頭ニ至ル六箇ノ枝線竝ブレヤ炭鑛枝線

通計一八八露里ヨリ成レリ本鐵道ハ當初西比利亞橫貫鐵道幹線ノ一部ヲ爲スノ計畫ナリシモ後貝加留鐵道及東清鐵道ノ敷設ニ依リ一路直ニ浦鹽ニ達スルヲ得ルニ至リテ本鐵道ノ敷設ハ一時全ク之ヲ放棄セリ然ルニ一九〇六年日露戰役ノ終局トシテ露國ノ極東ニ於ケル地位ハ大ニ一變シ北滿地方ヲ橫貫スル東清鐵道ハ軍事上甚シク其ノ價值ヲ減損シタルヲ以テ露國ハ再ヒ黑龍鐵道敷設ノ必要ヲ認メ同年中ボーツマウス條約ノ墨痕尙未タ乾カサルニ測量隊ハ早クモ既ニ本鐵道線路ノ實測ニ着手セリ斯ノ如ク本鐵道ノ建設ハ一ニ軍事及外交上ノ必要ニ出テシヲ以テ敷設計畫ノ如キハ專ラ之ヲ目的トシテ設計セラレ現ニ一九〇九年三月ニ開キタル建設委員會ノ決議ニ於テ「黑龍鐵道營業上ノ諸設備ハ將來貨客ノ増加ニ伴ヒ擴張又ハ増築ヲナシ得ル程度ニ止メ出來得ル限り消極的ニ經營セサルヘカラス」ト云ヘルニ反シ同委員長ノ説明ハ更ニ「陸軍省ヨリノ特別要求ニ依リ四列車運轉ノ計畫ハ之ヲ二十列車運轉ノ設備ニ改メ從フテ待避線増加ノ爲線路延長セルノミナラス平時ノ列車運轉ハ何時ニテモ戰時動員ノ運輸ニ變更スルコトヲ得ル様豫メ充分ナル諸設備ヲ爲ササルヘカラス」ト云ヘルニ依ルモ之ヲ明ニスルヲ得ヘシ本鐵道工事ハ初メ之ヲ頭部、西部、中部及東部ノ四區ニ分チ各區ニ其ノ建設事務所ヲ置キテ之カ工事ノ進捗ヲ計レリ此ノ區分ハ後三區ト爲シ更ニ東西ノ二區ト爲セリ即チ頭部區ハクローエンカ驛ヨリウリユーム驛ニ至ル一八三露里ニシテ一九〇九年六月起工シ西部區ハウリユーム驛ヨリカール河ノ左岸ケラーク驛ニ至ル五九六露里トチャリワヤ枝線ノ二八露里及ツジアリンダ枝線ノ六四露里ニシテ同年六月之ヲ起工シ中部區

ハケラーク驛ヨリボチカレラ驛ニ至ル四八〇露里トチエルニヤーエウ枝線三八露里、ブラゴウエシチ
 エンスク枝線一〇一露里ニシテ一九一〇年六月起工シ又東部區ハボチカレラ驛ヨリハバロフスク驛ニ
 至ル六一六露里トブレヤ枝線ノ六露里、同炭鑛枝線ノ一五露里、インノケンチエフスク枝線ノ三一露里
 及ウラヂーミロフカ枝線ノ六露里ニシテ一九一一年四月起工セリ全線經過スル處多クハ山間又ハ溪谷ニ
 アラサレハ沼澤ノ地ナルヲ以テ工事ノ困難名狀シ難ク殊ニ工夫ハ自國人ノ外使役セサルノ方針ナリシカ
 爲其ノ募集意ノ如クナラス止ムナク囚徒及鐵道工兵ヲ以テ之ニ充テタリ其ノ竣成ハ當初一九一二年迄ノ
 豫定ナリシカ工事ノ進捗思ハシカラサリシト軍事上ノ註文ニヨリ屢設計ニ變更ヲ來タシタル等ノ爲遲延
 シ其ノ結果頭部區ハ一九一一年十月、西部區ハ一九一三年八月、中部區ハ一九一四年七月全線ノ開通ヲ
 見東部區ハ一九一五年八月ニブレヤ及黒龍ノ兩架橋ヲ除キ全部開通セシカ一九一六年ニ至リブレヤ架橋
 ハ四月、黒龍架橋ハ十月十八日其ノ開通式ヲ舉クルニ至リ茲ニ黒龍鐵道全線ノ開通ヲ見ルニ至レリ

五、亞爾泰鐵道

本鐵道ハトムスク鐵道ニ於ケルノヲニコラーエウスク市ヲ起點トシセミバラチンスク市ニ至ル六一三露
 里ノ本線ト且バルナウール市ヲ距ルコト遠カラサルアルタイスカヤ驛ヨリピースク市ニ至ル延長一三三
 八露里ノ一枝線トヨリ成ル私設鐵道ナリトス一九一五年末全線開通シ翌年一月一日ヨリノヲニコラーエウ
 スク驛ニテトムスク鐵道トノ連絡運輸ヲ開始セリ本鐵道ハ全西比利亞中最豊饒ナル穀倉地ニシテ又畜牧

業般盛牛酪ノ產地トシテ名アル亞爾泰地方ヲ通過セルヲ以テ現在既ニ縣内ヨリ産出スル穀物及牛酪ノ輸
 送ニ多大ノ便益ヲ與フルノミナラス沿線鑛物ノ埋藏豊富ナルヲ以テ本鐵道ハ將來此等富源ノ開發ヲ促シ
 經濟上至大ノ影響ヲ與フルニ至ルヤ必セリ沿線ノ主ナル市邑ハノヲニコラーエウスク市、バルナウール
 市、セミバラチンスク市、ピースク市等ナリ

六、アチンスク—ミスシンスク鐵道

本鐵道ハトムスク鐵道アチンスク驛ヨリ分岐シテエニセイ縣ノ南部ミスシンスク市ニ達スル四百四十七
 露里ノ鐵道ニシテミスシンスク鐵道會社ノ經營スル所ナリ初メ政府ハトムスク鐵道カンスク及アチンス
 クノ兩驛ヨリミスシンスク市ニ達スルノ鐵道ヲ敷設スヘキ計畫ヲ立テ先ツ二千八百六十萬留ヲ投シテ本
 鐵道ノ敷設工事を着手セシカ其ノ後歐洲戰亂勃發セシ爲軌條其ノ他ノ建設材料ノ不足甚シク工事ノ進捗
 思ハシカラサリシモ一九一六年漸クミスシンスク市ノ前驛アバカンスク驛迄ノ鐵道ヲ竣成セシムルヲ得
 タリ元來ミスシンスク地方ハ中部西比利亞ニ於ケル第一ノ農業地ニシテ同地方産出ノ穀類及畜類ハ同縣
 ノ需要ヲ充タシ尙其ノ剩餘ハ之ヲ滿洲及其ノ他ノ西比利亞州縣ニ輸出スルノ狀況ニアルノミナナス附近
 ニハ有望ナル鑛物頗ル豊富ナルヲ以テ本鐵道ノ開通ハ沿線地方ニ於ケル農産及畜産ノ輸出ヲ容易ナラシ
 ムルト共ニ更ニ此等富源ノ開發ニ至大ノ便益ヲ與フルモノアルヘシ

七、ボダイボ狭軌鐵道

ボダイボ狭軌鐵道ハレナ採金會社ノ經營セル所ニシテイルクートスク縣内ウイテム河ノ右岸ボダイボ町ヨリ起リボダイボ川ニ沿フ諸採金所ニ至ル六十七露里間ヲ稱スルモノナリ軌道ハ幅員僅ニ七十五「サンチメートル」ニ過キスシテ其ノ線路ノ迂曲セルト工事ノ不完全ハ殆ト他ニ比ヲ見サル程ナリト云フ

第三節 西比利亞ニ於ケル鐵道敷設計畫

西比利亞ニ於ケル既設鐵道ニ就テハ以上述フル所ニ依リ其ノ一班ヲ窺フコトヲ得ヘシ尙此ノ外多クノ鐵道ニシテ既ニ敷設工事ニ着手セシモ戰亂ノ影響ニ依リ中止シタルモノアリ或ハ一旦建設ノ事決セシモ未タ工事ニ着手スルニ及ハサリシモノアリ又或ハ單ニ將來ノ敷設豫定線ニ止マリシモノ等少カラス而シテ此等ノ敷設計畫ハ露國今日ノ政情ニテハ到底近キ將來ニ其ノ實現ヲ期待シ難キコト言フ俟タサル所ニシテ今日之ヲ記述スルハ無用ノ感ナキニアラスト雖露國力從來何レノ地方ヲ以テ經濟上又ハ軍事上鐵道ノ敷設ヲ必要ト爲セシヤヲ知ルハ將來國情平靜ニ歸スルノ曉自國又ハ外國資本ヲ以テ先ツ第一ニ開發セラレヘキ地方ノ何レナルヤヲ考察スルニ於テ亦多少ノ參考ト爲スヘキモノナシトセス左ニ其ノ一班ヲ叙述セントス

一、恰克圖鐵道

本鐵道ハ後貝加留鐵道ト恰克圖トヲ連絡シ軍事及外交ニ資シ併セテ地方ノ發展及露蒙貿易ノ機關タラシ

メントスルモノニシテ久シキ以前ヨリ計畫セラレ其ノ測量ノ如キ既ニ數回ニ及ヒ恰克圖ニ於ケル露國商人ハ損益ノ如何ニ拘ハラス之カ建設ヲ熱望シ千五百萬留ノ資金ヲ投シ愈工事ニ着手セントスルニ當リテ戰亂起リ遂ニ之ヲ中止セリ

本鐵道ノ起點ニ關シテハ後貝加留鐵道ノムイソワヤ又ハウエルフネウーデンスクノ兩驛中何レヲ以テスヘキヤハ先決問題ヲ爲シ之ヲ前者トセハ百七十二露里後者トセハ百八十四露里ト爲リ即チ前線ハ十二露里ヲ短縮シ得ルノ利益アルモハマルバダン山脈ヲ貫通スル一露里ノ大隧道ヲ開鑿スルノ不利アリ尙後線又セレンガ河ヲ橫斷スル橋梁一箇ヲ増ササルヘカラスシテ結局兩起點ノ優劣未タ決定スル所ナク遂ニ今日ニ至レリ

二、ボダイボ—イルクートスク鐵道及ボダイボ—ツルン鐵道

本鐵道ハレナ及ウイツテム金鑛地方ヲ西比利亞鐵道ト連絡セシメントスルモノニシテ前者ハイルクートスク市ヲ起點トシレナ河上流ノカチユウガ及クネルマヲ經由シテボダイボニ達スル千百八十露里ノ鐵道ニシテ後者ハトムスク鐵道ツルン驛ヲ起點トシアンガラ沿岸ノブラストキー、オストロフ及レナ沿岸ノウスチクトヲ經テボダイボニ至ル一千五百十四露里間ノ鐵道是ナリ本鐵道ノ敷設ニ就テハ二箇ノ出願アリ即チ一ハレナ採金株式會社ヨリ他ハイルクートスク市在住ノ請負業者及銀行家ヨリセルモノニシテ既ニ數回ノ踏査測量ヲ爲セリ尙イルクートスク—ボダイボ間及イルクートスク市内ニ電車鐵道ヲ敷設セ

ントノ計畫モアリト云フ

三、ユルカーコルチユーギン炭鑛鐵道

トムスク鐵道ユルカ驛ヨリコルチユーギンニ至ル百八十七露里ノ運炭鐵道ニシテ工費九百三十五萬留ヲ以テ建設ニ決セシモ未タ着手スルニ至ラスシテ止ミタリ

四、グヅネーツスクーゴルチユーギン鐵道

前記ノ炭鑛鐵道ニ連絡シテコルチユーギントクヅネーツスク間、クヅネーツスクーバルナウル間及クツネーツスクーテレベセー間ノ三線合計三百八露里間ニ對シコルチユーギン鐵道會社ハ其ノ鐵道敷設ノ特許ヲ得タリ其ノ工費豫算五千九百二十萬留ニシテ本鐵道敷設ノ目的ハクヅネーツスク地方ノ炭田及鐵鑛ノ採掘ヲ助長セントスルニ在リテ同會社ハ別ニ資本金二千五百萬留ヲ投シテ一大製鐵所ヲ同地ニ設立スルノ計畫ヲ有シ曩ニ政府ニ對シ數百萬留ノ補助金下府ト向十箇年間一定ノ軌條ノ注文ヲ保證セラレタキ旨ノ出願ヲ爲セリト云フ尙本鐵道及製鐵事業ハ在露都露亞銀行及國際商業銀行主トシテ之ニ干與セルモノナリ

以上ノ外政府及民間ニ於テ敷設ノ計畫ヲ爲セシモ未タ政府ニ於テ決定若ハ特許ヲ爲ササリシ鐵道極メテ多シ左ニ其ノ主要ナルモノヲ記スヘシ

五、黑龍江沿岸マリンスクヨリ太平洋岸デカストリー灣ニ至ル鐵道

六、アレキセーエフスク驛(黑龍鐵道)ヨリセレムヂヤ河ニ沿フテ黑龍江口ニコラーエフスク市ニ達スル鐵道

七、チタ驛(後貝加留鐵道)ヨリボダイボニ至ル鐵道

八、チタ驛(同上)ヲ起點トシヤクトスク市ヲ經テ堪察加及白令海峽ニ至ル鐵道

九、ツイレート驛(トムスク鐵道)ヨリジガーローラニ至リ更ニイルクトスク驛ニ連絡スル鐵道

一〇、タイセツト驛(トムスク鐵道)ヨリウスチクトヲ經テ黑龍鐵道ウラギール驛ニ連絡スル鐵道

一一、エニセイスク市—アチンスク間鐵道

一二、エニセイスク市ヨリトムスク市及タボーリスク市ヲ經テ歐露ベルム市ニ達スル鐵道

一三、ピースク市(亞爾泰鐵道枝線)ヨリチユイ街道ニ沿フテ國境ニ近キコシアガーチニ至ル五百十七露

里間ノ鐵道

一四、バルナウル市ヨリスラウゴロト及バウロダールヲ經テ阿克モリンスク市ニ至ル鐵道

一五、タタールスク(オムスク鐵道)ヨリスラウゴロトヲ經テセミバラチンスク市ニ至リ夫レヨリ分岐シテ—ハザイサンスク—ハウエルヌイニ達スル鐵道

一六、セミバラチンスク市ヨリ起リテバヤンアウル、阿克モリンスク市、アトバサルスク及オルスクヲ經テオレンブルグニ至リ既設ノ中央亞細亞鐵道ト交叉シ進ンテウラーリスク驛ニ於テ歐露諸鐵道ニ連

絡スル二千九露里間ノ鐵道並上記バヤンアウルヨリカルカラリンスクニ至ル枝線及阿克モリンスク市
ヨリスバスキーザラート及カラガンチンスキニ至ル枝線
一七、ペトロバウロフスク驛(オムスク鐵道)ヨリマクチュターウニ至ル百八十露里ノ鐵道

附

録

第一 西比利亞地方ニ於ケル工業ノ發達

- 一、西比利亞地方工業ニ對スル投資——二、採礦業、冶金業——三、挽材業及製紙業ノ有望——四、鑛詰工場、皮革工場、煉瓦製造工場、鑛山採掘業——五、灌溉事業發展策
- 六、電氣機械及同附屬品——七、西部西比利亞地方ニ於ケル市街鐵道敷設計畫——
- 八、オムスク市街鐵道敷設計概要

西比利亞地方開發上重要ナル關係ヲ有スル點ハ(一)西比利亞地方ニ於ケル日用品ノ供給ハ概ネ之ヲ外國品ニ仰キツツアルノ不利益ナルコト(二)西比利亞地方ニ於ケル天惠ノ資源ヲ利用スルノ目的ヲ以テ交通機關其ノ他ノ利便ヲ完備スルノ必要ナルコト之レナリサレハ今ヤ西比利亞地方ニ於テハ地方工業ノ發達ヲ計ルカ爲鐵道ノ建設、穀物倉庫又ハ冷蔵庫ノ設備、動力裝置、灌溉用溝渠ノ開鑿等各種ノ企業計畫セラレツツアルノ有様ニテ從ツテ是等企業ニ要スル機械器具類早晚外國ヨリ輸入セララルニ至ルヘシ

一、西比利亞地方工業ニ對スル投資

西比利亞地方ニ投セラレヘキ工業資金カ將來益増加スルニ至ルヘキハ世人一般ノ認ムル所ニシテ現今操業中ノ工業ノミヲ以テスルモ釀造業、皮革業、製粉業、燐寸業等ヲ舉クヘク此等ノ事業ハ同地方ニ於ケル低廉且豊富ナル原料ノ供給ヲ受ケツツアリ然レトモ西部西比利亞地方ニ於テハ尙他ニ開拓スヘキ幾多ノ富源ヲ有スルニ拘ハラス資金ノ潤澤ナラサルト及金利ノ低廉ナラサル爲今日未タ發達セサル工業舉ケテ數フ可カラス西比利亞地方ニ於ケル外國資本案ハ從來主トシテ鑛山事業ニ投資スルニ止マリシニ頃者

英米兩國ノ代表的商工業家カ偶々西比利亞地方ヲ歴訪シテ製紙業、挽材業、製革業、罐詰製造業、農具製造業、製鐵業等ノ將來有望ナルコトヲ調査シタレハ外國資本家ニテ將來是等企業ニ放資スルモノ續出スヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ

二、採鑛業、冶金業

現今露國ノ最缺乏ヲ感シツツアルモノノ一ツハ金屬及燃料ナリ而モ西比利亞地方ニ於ケル製鐵業及採炭業ハ今後六、七年間ハ一箇年優ニ鑄鐵及生鐵約九十六萬噸、石炭約四百八十萬噸ヲ產出シ得ルノ状態ニ在リ西比利亞地方ハ到ル處各種ノ炭層ニ富メルモ從來運送機關ノ缺如セル爲未タ採掘ノ運ヒニ至ラサルモノ多キヲ以テ敷設豫定鐵道線ノ竣成セラルル曉西比利亞地方ノ石炭採掘高ハ蓋シ莫大ナル増加ヲ見ルニ至ルヘシ

又トムスク縣ノクズネーツスク地方、エニセイ河上流アバカン地方及沿海州セント、オルガ灣附近ノ三地方ハ優良ナル石炭層ト相竝ンテ鐵鑛層ノ發見セラレシ以來將來冶金業ノ發展ニ極メテ有望ナル地トシテ矚目セラルル所ニシテ既ニクズネーツスク附近ニハ製鐵工場及骸炭工場設置セラレ之ニ對シ政府ハ巨額ノ低利資金ヲ貸與シ是等企業ヲ補助シツツアリ而シテ鑄鐵爐及鑄鐵工場經營者ニ對シテハ或期間内政府ノ注文ヲ與フヘキ旨ノ保證ヲ與ヘラレ農用機械器具製造業者ニ對シテハ政府ノ特別獎勵金ヲ下附セラルルニ至ル可シ吾人ハ西比利亞地方ニ於ケル製鐵及製鋼業カ今後益發達シテ管ニ西比利亞市場ノミナ

ラス進ンテ露本國ヘモ其ノ製品ヲ供給シ得ルニ至ラン事ヲ望ムモノナリ

西比利亞地方ニ於ケル冶金業ノ發達ハ從來歐露及外國ヨリ輸入セラレタル各種ノ鐵製品ヲ防止シ之ヲ自國ニ於テ製造スルニ至ラシムヘシ現ニオムスク製鐵工場ハ數年來年々約二萬挺(一箇ノ犁頭ヲ有スルモノ及二箇ノ犁頭ヲ有スルモノ共)ノ犁ヲ製出シツツアリト雖尙西比利亞地方ニ於テ需要セラルル其ノ他ノ農具ニ至リテハ何レモ皆之ヲ遠ク歐露若ハ外國ニ仰クノ有様ナリ而シテ是等農具ノ需要甚タ盛ナルヲ以テ農具製造業ハ將來西比利亞ニ於テ極メテ有望ノ事業タルヘシ

三、挽材業及製紙業ノ有望

西比利亞地方ニハ未タ斧鉞ヲ加ヘサル森林地帶極メテ多キヲ以テ之カ採伐ニ用ユル伐木用機械及挽材用機械ノ需要ハ戰後益増加スルニ至ルヘク而シテ目下計畫中ノオビ河ヨリ北氷沿岸ノ一地點ニ至ル鐵道開通スルニ至ラハ西部西比利亞地方ヨリ歐洲ニ向ツテ材木ヲ輸出スル事亦難ラサルヘシ西比利亞ニ於ケル森林面積ハ八億三千五百萬「エーカー」ト計上セラルル而シテ露國ニ於ケル挽材用機械ハ多ク獨逸及瑞典ヨリノ輸入ニ係リ特ニ一般ニ使用セラルルモノハ瑞典製鉗掛鋸ニシテ圓鋸モ一時試用セラレタレトモ其ノ結果ハ面白カラサリキ彼ノ北米式伐林方法ハ西比利亞地方ニ於ケル状態ニ適合スルヲ以テ一度其ノ方法ニシテ紹介セラレンカ機關車「ケーブル」線、定置氣機、索引機、起重機及其ノ他伐木用機械器具竝輕便鋸輪機等盛ニ需要セラルルニ至ルヘシ

西比利亞地方ニ於ケル紙ノ消費高ハ一箇年二百萬噸乃至三百萬噸ニシテ同地方ハ製紙原料タル「バルブ」製造ニ適當ナル「タウヒ」其ノ他ノ木材豊富ナレハトムスク市ニ於テハ一日百二十噸ノ格安ナル包紙及新聞紙ヲ製造スルノ目的ヲ以テ製紙工場設立セラレタリ然レトモ今尙工場用機械其ノ他器具類ヲ註文スルノ運ヒニ至ラサルノ有様ナリ其ノ外西部西比利亞地方其ノ他ニ於テモ製紙工場設立ノ計畫アリ

四、鐘詰工場、皮革工場、煉瓦製造工場、鑛山採掘業

食料品鐘詰製造工場ハ英國同業者ニヨリテ數年來ベトロバウロフスクフ南部ニ於テ經營セラル其ノ他クルガンニ一箇所及ベトロバウロフスクフニ一箇所都合二箇所ノ工場ハ今設立工事中ニ屬ス尙オムスク市ニ鐘詰工場ヲ建設スルノ目的ヲ以テ同地市參事會ハ奔走シツツアリ又バルナウル及其ノ他ノ都邑ニモ同様ノ計畫アリ然レトモ鐘詰工場用ノ諸機械ハ殆ト全部外國ヨリノ輸入ニ待タサルヘカラス

西部西比利亞地方ニ於ケル草原ハ露國獸皮ノ重要ナル供給地タルニモ不拘此ノ地方ニ於テ需要セラルル獸皮ハ殆ト總テ歐露或ハ外國ヨリ輸入セラル近來小規模ノ製革工場數箇設立セラレ又大規模製革場ノ設立計畫アリ西比利亞地方ノ開發ハ煉瓦其ノ他各種ノ建築材料ノ需要ヲ喚起スルニ至ルヘク而シテ煉瓦製造工場ノ増加ハ自然煉瓦製造機械ノ需要ヲ増進セシムルニ至ルヘシ而シテ既設工場据付機械ハ皆獨逸式ナルヲ以テ此ノ種ノモノ最歡迎セラル

鐵道枝線ノ開通ハ西比利亞地方鑛山業ニ著大ナル刺戟ヲ與ヘ碎礦用具其ノ他新式採掘機械ノ輸入ヲ増進

セシムヘク西比利亞地方ニ於ケル石炭採掘用機械ハ漸次面目ヲ更ムルニ至ルヘシ

西比利亞地方ニ於ケル天與ノ富源ヲ利用シ工業ノ發展ヲ計ラント欲セハ是等產物ヲ運搬貯藏スヘキ鐵道穀物倉庫、冷蔵庫、水利、電力、設備及市街鐵道等ノ設置ヲ完成セサルヘカラス而モ現今敷設中ノ鐵道ヲ完成スルニ用ユル「レール」ヲ得ルコト極メテ困難ニシテ「アチンスク、ミスシンスク」鐵道會社ハ「レール」三萬條ヲ出來得ル限リ急速ニ納入セシムヘク既ニ入札ニ付セラレツツアリ

五、灌溉事業發展策

露國農務省ハイルツイシ河附近ノ地方ニ一大灌溉用運河ヲ開鑿スルノ計畫ヲ立テ尙西比利亞地方ノ他ノ地方ニ於テモ同様ノ計畫アリト云フ此ノ計畫タルヤ延イテ開鑿用機械ノ需要ヲ促スニ至ルヘク西比利亞ニ於ケル天然水道ノ改修及現ニ審議中ノ掘割開鑿計畫ノ實現ト相俟ツテ是等穿鑿用機械器具類ノ輸入ヲ必要トスルニ至ルヘシ

六、電氣機械及同附屬品

電氣用器具機械ハ近キ將來ニ於テ西比利亞地方各鑛山地方又ハ各都市ニ於テ著シク其ノ需要ヲ増進スルニ至ルヘシ蓋シ各小都邑ハ新ニ電燈ノ設備ヲ設ケントシ又大都市ハ從來ノ設備ヲ擴張スルニ至ルヘケレハナリオムスク市ハ近來一大發電所ヲ建設シ之ニ要スル機械ヲ瑞西ニ註文シ現ニ輸送中ニアリ電氣用機械器具ハ從來主トシテ獨逸製ニシテ市及私立ノ發電所ハ蒸汽ヲ動力トスル獨逸式ノ發電裝置ニ依レルモ

ノ多キモ小都邑及鑛山地方附近ニハ適當ナル發電用水力ニ乏シカラサルヲ以テ近キ將來ニ於テハ水力利用ハ益盛ナルニ至ル可シ

七、西部西比利亞地方ニ於ケル市街鐵道敷設計畫

現今西比利亞ニ於テ既ニ市街鐵道ノ敷設セラレタル都邑ハ浦鹽斯德市ノ一箇所ニシテ近ク擴張ノ計畫アリ其ノ他オムスク、トムスク及イルクーツク市ニ於テモ新ニ敷設セラレルノ計畫アリ尙其ノ他ノ都邑ニモ逐次敷設ヲ見ルニ至ルヘシ而シテ右ニ要スル機械器具ハ出來得ル丈ケ露國製ヲ使用スルノ方針ナルモ「レール」及車體等外國製ニ待ツモノ亦極メテ多シ目下計畫中ノオムスク電氣鐵道代表員之ニ關シ加奈陀製造業者ヨリ供給ノ申込ヲ歡迎スヘキ旨ヲ語レリ

實ニ露國ニ於ケル電氣鐵道敷設計畫ハ「レール」及車體ノ供給不能ノ爲中絶ノ有様ニテ全露國都市同盟會代表委員ハ過般「レール」及車體註文ノ用務ヲ帶ヒ歐洲及米國ニ渡航シタルモ之カ注文ニ應スヘキ適當ノ製造家ナク爲ニ具體的ニ商談ヲ進メ得サルノ状態ニアリオムスク及トムスク電氣鐵道ノ當事者ハ概シテ該計畫ニ要スル設備ノ一部分ノミヲ供給スルカ如キ製造業者ニ註文ヲナスヲ欲セサルカ故ニ若シ加奈陀製造業者ニシテ之ニ要スル全設備ヲ一手ニ引受クル覺悟アラシカ其ノ申込ハ必ス彼等ノ歡迎スルトコロナラン露國各市ノ註文ハ通例右ノ如キ方法ニ依ルヲ以テ加奈陀ニ於ケル同業者カ此ノ種ノ註文ヲ引受ケムト欲セハ其ノ特別代表者ヲ彼地ニ渡航セシメ直接交渉スルノ必要アルヘシオムクス市街鐵道ハ延長約

十哩ニシテトムスク鐵道ノ延長モ亦殆ト之ト同一ナリオムスク鐵道ノ電力ハ同市立發電所ヨリ其ノ供給ヲ仰クヘキ筈ニテ同發電所ハ來夏ヨリ其ノ事業ヲ開始スルノ豫定ナリ然レトモ其ノ他尙「レール」車庫及機械工場ノ設備ヲ要スルモノ少カラス更ニオムスク鐵道ノ敷設ハ今後續々敷設セラレムトスル西比利亞大都邑市街鐵道ニ對シ模範ヲ示スモノニシテ從ツテ同鐵道ニ要スル設備ノ註文ヲ獲得スルハ將來露國ニ大ナル賣込ミヲ爲サムトスル加奈陀當業者ノ正ニ努ムヘキ所ナルヘシ

八、オムスク市街鐵道設計概要

「レール」ハ「グイニオル」鐵道型トス此ノ型ハ旅客運輸ヲ主トスル歐露ニ於ケル都市ニ廣ク用ヒラレ成績良好ナリシモノナリ「レール」ノ重量ハ長一呎ニ付二八封度六五トシ高五吋トス「レール」ノ全長ハ九二米四五〇ヲ要ス(一米ハ三呎二八ナリ)敷設「レール」ハ四線トシ露國標準原基五呎トス車輛ハ差當リ四十輛ヲ要シ一車ノ收容人員ハ三十五人トス客車ハ二個ノ車輛及堅牢ナル基礎ニ定置シ車軸間ノ間隔ハ一米八トス各車ニハ二個ノ電氣モーター及二個ノ制動機ヲ設備シ制動機ハ一ツハ手用、一ツハ電氣裝置トス各車ノ平均速力ハ一時間九哩三トシ運轉時間ハ一日十四時間トス客車ハ歐洲ニ於ケル市街電氣鐵道ノ客車ト同一ノ設備ヲナシ電燈暖爐ノ取付ヲ要ス

電車交叉點ニ於ケル銅線ノ面積ハ五十乃至八十平方「ミリメートル」トシ(一平方「ミリメートル」ハ〇・〇〇一五五平方吋トス)電線ノ高サハ「レール」面ヨリ一九呎六八トス支柱ハ木造ニシテ一三一呎二ノ間

隔ヲ置キ其ノ基礎ヲ「コンクリート」ニテ堅ムルモノトス (一九一七年四月九日加奈陀商務省週報所載)

第二 西比利亞ニ於ケル信用期間

一、獨逸商人ノ與フル信用期間——二、英米商人ノ與フル信用期間——三、銀行トノ關係
四、得意先信用調査——五、西部及東部西比利亞——六、戰後ノ豫想

西比利亞ノ産業ハ農業ヲ主トスルヲ以テ同地人民ノ購買力カ自然收穫ノ多少ニ依リテ増減スルハ云フ迄モナク一箇年ヲ通シテ現金ヲ所持スル期間モ又一定時季ニ限ラルルヲ常トスルカ故ニ同地方輸入業者カ其ノ商品ノ外國仕入先ニ對シテ要求スル信用期間モ亦自ラ此ノ事情ニ支配セラレサルヲ得ス

一、獨逸商人ノ與フル信用期間

對西比利亞貿易ニ於テ最モ著シキ成功ヲ收メタル獨逸商人ハ爲替手形若ハ約束手形ニ對シ三箇月ヨリ九箇月ニ亘ル信用ヲ與フルヲ常トシ機關其ノ他機械類ニ對シテハ二箇年若ハ三箇年ニ亘ル年賦支拂ヲ許ス事アリ又同國ノ製造業者若ハ輸出業者ニシテ同地ト直接取引アルモノハ其ノ信用確實ナル取引先ニ對シテ「クリーン」ノ信用狀ニ對シ註文ニ應スル事アリ殊ニ獨逸銀行ニ於テ特ニ發達シタル買主資力保證業務ハ兩國間ノ貿易ヲ助長スル上ニ於テ顯著ナル功績ヲ擧ケタリ即チ西比利亞ニ於ケル獨逸品輸入業者ト其ノ地方銀行トノ間ニ締結セラレタル契約ニ基キ右地方銀行ハ輸入業者ノ爲ニ獨逸ニ於ケル輸出業者ノ取引銀行ニ對シ其ノ債務ヲ保證スルモノトス而シテ西比利亞ニ於テハ大商人ハ小商人ニ比シ一層長期ノ

信用ヲ要求スルヲ常トス

二、英米商人ノ與フル信用期間

西比利亞ニ對シテ輸出業ヲ營ム英國商人ハ唯長年ノ取引アリ且信用ノ最モ確實ナル取引先ニ對シテノミ長期ノ信用ヲ與フ但シ機械及類似ノ商品ニアリテハ成ルヘク其ノ競争者ノ提供スル條件ヲ以テ註文ニ應スル事ヲ力ム合衆國ノ製造業者ニ至リテハ大ニ之ト趣ヲ異ニシ普通米國海港ニ於テ船積書類引換ニ代金ヲ要求シ其ノ最モ寬ナルモノト雖到着地ニ於ケルD/P以上ノ條件ヲ與フル事ナシ是ヲ以テ米國製造家ハ獨逸仲介商ヲ經由シテ取引ヲナシ以テ長期ノ信用期間ヨリ生スル危險ヲ免ルルヲ常トス

三、銀行トノ關係

露亞銀行、露國外國貿易銀行、西比利亞商業銀行、「ヴォルカ、カマ」銀行ハ西比利亞ノ各中心市場ニ支店ヲ設立シ信用確實ナル輸入商ニ宛テタル外國ノ製造業者若ハ輸出業者ノ手形取立ニ從事ス而シテ期限附手形ニシテ引受濟ノモノニ對シテハ船荷證書ヲ交附シ保證ヲ徵收スルコト極メテ稀ナリ
保證ヲ徵收スル場合ニハ通例銀行ノ認メタル二箇以上ノ署名ヲ有スル約束手形ヲ差入レシムルヲ常トス
戰爭前ニ在リテハ信用期間中年六分乃至八分ノ利子ヲ課シ外國製造業者カ信用ヲ與ヘサル場合地方銀行ニ對シテ資金ノ融通ヲ仰ク場合ノ利子モ略是ト等シ又銀行ハ信用狀ノ發行ニ對シ一分若ハ二分ノ手数料ヲ徵スルヲ普通トス

四、得意先信用調査

露國ニ於テ獨逸商人カ長期ノ信用ヲ與フル事ヲ得タルハ主トシテ本國ニ於ケル銀行ノ後援ニ依レリ然レ共彼等カ西比利亞ノ各地ニ定住代理者ヲ置キ其ノ顧客ノ信用ヲ調査セシメ又「シンメルブリエンク」社ノ如キ有名ナル興信所アリテ露國ノ各地ニ人ヲ派シ調査材料ヲ蒐集シテ彼等ニ提供シタルカ如キ又與ツテ力アリトス是ヲ外ニシテハ外國ノ商人カ露國顧客ノ信用状態ヲ確メン事決シテ容易ナラス之ヲ銀行ニ照會スルモ銀行ハ單ニ萬々誤リナキ信用金額ノ限度ヲ通知スルニ過キス又銀行ハ時トシテ利害關係ヨリ公平ナル信用ノ評價ヲナササル事アリ最モ斯ノ如キハ一部商人ニ對スルモノニシテ設立ノ日久シク且責任アル商人會社ニ對シテハ満足ナル報知ヲ得ル事決シテ難キニアラス

五、西部及東部西比利亞

貿易上ヨリ觀察スレハ西比利亞ヲ二箇ノ地方ニ分割スルコトヲ得而シテ以上述フル所ハ主トシテ西部西比利亞即チ烏拉爾山ヨリ貝加留湖ニ至ル地方ニ行ハルルモノナリ此ノ地方ニ於ケル商業ノ大部分ハ今尙莫斯科市ノ大卸商ノ手ニ依リテ行ハレ其ノ取引條件ノ如キモ重ニ同市ニ於テ定メラル尤モ外國製造家ト直接取引ヲナシ卸小賣兩様ノ業務ヲ營ム大商賈ナキニアラサルモ信用期間ニ關シテハ歐露地方ニ行ハルルモノト大差ナシ貝加留湖ヨリ太平洋ニ到ル地方即チ東部西比利亞ニ在リテハ稍事情ヲ異ニシ此ノ地方ニ行ハルル貿易ハ所謂極東的色彩ヲ帶ヒ其ノ大部分ハ小數ノ大商賈ニ依リテ行ハル彼等ハ「クリーン」信

用狀ニ依リ貨物ヲ外國ヨリ仕入レ信用期間ニ對シ戰前ニアリテハ八分ヨリ九分五厘ノ利子ヲ支拂フヲ常トセリ極東ノ風ニ倣ヒ各銀行ハ大ナル倉庫ヲ有シ手形ノ支拂アル迄貨物ヲ保管スルノ用ニ供セリ之ヲ要スルニ掛賣ハ西比利亞市場ニ於ケル特色ノ最モ顯著ナルモノニシテ信用ノ期間ハ輸入業者カ最モ重視スルトコロナリトス而シテ品質同等ナル場合信用期間ノ長キモノ勝ヲ制スルコト言フ迄モナシ

六、戰後ノ豫想

以上ハ戰前ノ状態ナルカ戰爭終熄後其ノ状態如何ニ成行クヘキヤハ人ニ依リ其ノ意見ヲ異ニセリ現今ハ殆ト凡テノ取引カ現金ヲ以テ行ハレツツアルヲ以テ此ノ經驗ハ將來健全ナル影響ヲ此ノ地方ノ取引方法ニ及ホスヘキハ論ヲ待タス獨逸モ亦戰後ハ戰前ニ於ケルカ如ク確實ナル商賈ニ對シ無制限ノ信用ヲ與フル事能ハサルヘシ而モ露國特有ノ經濟事情ハ決シテ看過スルコトヲ得ス即チ人民ノ大多數ハ農業ニ從事スルヲ以テ一般の債務ノ總決算日ト稱スヘキモノハ僅々年ニ一回アルノミ而シテ農民ノ多數ハ貧困ノ状態ニアルヲ以テ穀物代金ヲ得ル迄ハ其ノ物資ノ供給ヲ仰ク小賣商ニ對シテ支拂ヲナスコトヲ得ス從テ卸商モ亦小賣商ニ對シ長キハ十二箇月ニ達スル信用ヲ與ヘサルヲ得ス然レトモ通常卸商ハ小賣商ニ對シ貨物ノ引渡ト共ニ關稅及内國運賃ニ要スル費用ヲ支辨スルニ足ル金額ノ支拂ヲ要求スルヲ常トス事情右ノ如キヲ以テ彼等ト取引スル外國ノ製造業者ハ彼等ノ金融ヲ援助スルノ必要ヲ生スルナリ而シテ信用期間ノ長短ハ時トシテ代價ノ高下若ハ品質ノ優劣ヨリモ重要視セララルルニ至ル又已ムヲ得サルナリ蓋シ發達

ノ途ニアル新開地ニシテ而モ資本ノ豐富ナラサル西比利亞ノ如キ地ニアリテ斯クノ如キ事情ノ存在スルハ當然ナルヲ以テ外國ノ製造業者タルモノハ同地ノ顧客ニ對シ少ナクトモ其ノ供給シタル貨物カ一部分換價セラルル迄其ノ代金ノ支拂ヲ猶豫セサル可ラス其ノ程度ニ至リテハ貨物ノ性質相手方ノ信用ニ依リ一概ニ言ヒ難キモ少ナクトモ貨物代金ノ七割五分ニ對シ六箇月ノ信用ヲ與フルヲ以テ一般的標準トナシテ然ルヘキカ (加奈陀商務省報一九一六年十二月號)

第三 西比利亞ニ於ケル米國農具販賣會社ノ組織及取引方法

一、米國農具販賣會社ノ組織 二、米國農具販賣會社ノ取引方法

本篇ハ在オムスク加奈陀商務官報告ノ一部ニシテ西部西比利亞ニ於テ廣ク農業機械及農具ノ販賣ニ従事スル有名ナル一米國會社ノ組織及取引方法ヲ記述セルモノナリ同地方ニ於ケル米國商人活動ノ狀況ヲ推知シ得ヘキモノアルヲ以テ左ニ之ヲ譯出セントス

一、米國農具販賣會社ノ組織

該米國會社ハ莫斯科ニ農具販賣本部ヲ置キ西部西比利亞及烏拉爾地方ニ對スル農具賣捌店トシテエカチエリンブルグ、オムスク及ノウオニコラエフスクニ支店ヲ設ケ各支店ニハ其ノ受持區域内ニ住スル需要者ニ對シ何時ニテモ供給シ得ルニ充分ナル農具其ノ他ヲ貯藏シ各支店長及次席ハ社員トシテ一定ノ俸給ヲ受クル外賣上高ニ對スル規定ノ歩合ヲ受クルモノトス

各支店ハ其ノ受持區域内ニ於ケル主要ナル市邑ニ出張所ヲ配置ス例ヘハオムスク支店管下ニ於ケルベトロバフロフスク並セミバラチンスク出張所ノ如シ而シテ是等出張所モ同シク社員ニヨリ支配セラルルモ支店長ノ如ク賣上高ニ對スル一定ノ歩合ヲ受クルコトナク且農具其ノ他ノ貯藏高ニモ限度アリテ會社ハ出張所ニ對シテハ務メテ貯藏品ノ僅少ヲ計リ居レリ

前記支店、出張所ヲ有スル外會社ハ手數料制度ヲ以テ各地至ル所ニ多數ノ代理人又ハ販賣人ヲ指定シ豐富ナル商品ノ見本時トシテハ少數ノ商品ヲ配布ス而シテ是等代理人又ハ販賣人ノ外各支店ニハ別ニ常置販賣員ヲ置キ常ニ各村ヲ訪問シテ註文ヲ取り廣告ヲ擴メ集金ニ當リ兼テ普通販賣人ノ取締ニ當ラシムルモノトス

機械器具ノ取付及修理ニ關シテハ會社ハ時ヲ定メテ莫斯科ヨリ技師ヲ派遣ス

二、米國農具販賣會社ノ取引方法

西部西比利亞ニ於ケル農具ノ取引ハ戰前ニ在リテハ殆ト現金ヲ用ヒス (現金取引ハ二割乃至三割ニ過キス) 大抵二箇年以内ノ信用貸ニテ時ニハ三箇年ニ亘リ春農具ヲ受取ル時ハ第一期ノ支拂ハ春末ニ行ハレタルモ現今ニテハ凡テ現金主義ヲ以テ行ハレツツアリサレハ戰後トテモ二三箇年後ノ掛賣ハ再興シ難シト一般ニ認メラレトモ適度ノ掛賣ハ強テ不可能ナラサルヘクカクシテ再ヒ信用取引ノ復興ヲ見ルニ至ルヘシ (一九一七年九月二十日「ホード、オブ、トレード、ジユルナル」誌)

第四 西比利亞ニ於ケル毛皮貿易

一、毛皮ノ種類——二、一九一三年ニ捕獲シタル毛皮獸——三、取引方法ノ變遷

西比利亞ハ毛皮供給ノ主ナル源泉地ノ一ナリ同地方ノ廣大ナル無人ノ面積ハ貂、黑黃鼬、海獺、川獺、蝦夷黃鼬、麝香鼠、栗鼠、「モルモット」、「スカンク」及獾等各種ノ貴重ナル毛皮ノ生産地ニシテ殊ニ其ノ最豐富ナル地方ヲヤクーツク、堪察加及オコーツク等ト爲ス同地方ハ黑黃鼬、北極狐及栗鼠等ノ毛皮ノ主ナル產地ニシテ又堪察加海上ノカラギンスク島ハ黑褐色狐ノ產地トシテ有名ナリ最良ナル貂皮ハ西部西伯利亞ノイシム、バラビンスク諸廣原ヨリ出テ又最上ノ黑黃鼬皮ハヤクーツク又之ニ次キテレナ河ヨリ得ラルルナリ若シ夫レ品質劣等ナル黑黃鼬皮ニ至テハ黑龍江下流ノ地至ル所ニ産スルナリ褐色黑黃鼬皮ノ選良品ハ堪察加ヨリ出テ又海獺ハ北部太平洋地方ニ於テ同海岸至ル所ニ捕獲セラル

西比利亞ニ於ケル毛皮獸ノ供給ハ同地方ニ於ケル移住民ノ増加ニ伴テ累進的ニ減少シツツアリ蓋シ西比利亞ニ於ケル木材取引ノ發達ハ漸ヲ以テ同地方ノ深山幽谷ニ人跡ヲ印セシメ人跡ヲ印スルノ地大ナルニ從テ毛皮獸ノ繁殖ノ數ヨリモ捕獲ノ數ヲ増スニ至リタルヲ以テ毛皮獸ハ之ヲ恐レテ更ニ深遠ナル奥地ニ遁逃シツツアレハナリ一例ヲ擧ケレハ黑黃鼬ナリイルクツク州ノキレンガ河ニ於テハ二十五年前マテハ毎年同獸皮三千枚以上ヲ得タルモノナルカ今日ニテハ一枚ヲモ得ル能ハサルノ状態ニ陥リタリ斯ノ如ク供給ノ減少スル一結果トシテ最良毛皮ノ價格ハ益騰貴ヲ來シツツアリ

一、毛皮ノ種類

各種ノ毛皮中最高ノ價格ヲ有スルモノハ貂ナリ貂ハ僅ニ露國及スカンヂネビヤニ産スルノミ貂皮ノ高價ナルハ一ニハ同獸カ冬ニ至レハ尾端ノ黒ク殘ル外其ノ他ハ一切純白ニ化スルノ事實ヨリ來レリ該毛皮ハ普通十吋ヨリ十二吋ニ至ル長サヲ有シ四十枚一束トシテ賣却ス該束ヲ「チムバ」ト稱ス又他ニハ該獸ノ消滅ヲ恐レテ一九一三年貂獵ノ禁制ヲ施キタルコト是ナリ是ヨリ以前ニアリテハ該獸ハ多數ノ捕獲アリテ該毛皮ニ關スル露國一年ノ產出額ハ約二萬枚ニ上リタリト云フ純種ノ黑黃鼬ノ皮ハ其ノ荒毛ヲ取テ青色ノ美麗ナル織物ト爲スヘク殘リタル毛皮ハ柔軟ニシテ且耐久性ニ富メリ該毛皮ハ長サ十五吋ヨリ二十吋ニ又幅ハ五吋ヨリ八吋ニ至リ其ノ產地ニ從テ價格ト品等ヲ異ニス又該皮ノ摸擬品アリ各種ノ動物ノ毛皮ニ染色ヲ施シ或ハ其ノ他ノ方法ヲ講シ之ヲ黑黃鼬ニ模スルナリ而モ其ノ巧妙ナル斯業ノ精通者ニ非サルヨリハ其ノ眞偽ヲ判別シ得スト云フ栗鼠ハ西比利亞ニ於テ多數捕獲スルヲ得ヘシ其ノ毛皮ハ衣服ノ裏地其ノ他一般ノ目的ノ爲ニ需要アリ東部西比利亞ノ青色栗鼠ハ殊ニ愛好セラル海獺ハ堪察加ニテ狩獵業者又ハ捕獸業者ニヨリ多數ニ捕獲セラル該毛皮ハ帽、衣襟其ノ他ノ製造ニ多量ニ使用セラル狐モ亦商業上重要ナル毛皮動物ニシテ銀色又ハ黒色ノモノニ至テハ其ノ價格ノ貴重ナルコト黑黃鼬ノ次位ニアリ兔皮ハ高價ノ毛皮ヲ得ル能ハサル者ノ間ニ大需要アルヲ以テ家畜ノモノト野生ノモノトヲ問ハス商業上重要ノ地位ヲ占メリ「スカンク」ハ外出用衣類ノ料トシテ露國ニ於テ重用セラル其ノ他ノ西比利亞ニ於テ捕

獲サルル毛皮獸ハ麝香鼠、蝦夷鼬及土鼠等ナリトス
 二、一九一三年ニ捕獲シタル毛皮獸
 露國年報ヨリ拔萃シタル左表ハ一九一三年中ニ亞露ニ於テ捕獲シタル毛皮獸ノ數ト價格トヲ示スモノナ
 リ

種 類	捕獲數	價 格
蝦 夷 黃 鼬	二〇、八九二 ^枚	一一二、八三二 ^圓
黑 黃 鼬(註一)	二〇	八〇〇
西伯利亞「スカンク」	六、三〇四	二〇、六九一
「スカンク」	三〇、一六一	二〇、四〇一
栗 鼠	三七〇、六七〇	一四七、六九二
山 兔	七八、五三二	一一、五三五
狐	六、七五四	二六、六六九
熊	一、〇一五	一二、四四九
狼	一四、六三二	六六、九二〇
山猫、豹、虎其他	二三二	一、二五七

北 極 狐(註二)

三一、二二八

二三二、二五四

(註一) 黑黃鼬ニ關スル一九一二年ノ計數ハ捕獲數一〇、八二六枚ニシテ其ノ價格ハ二八九、二〇〇留ナリ
 (註二) 全部露國產ナリ

三、取引方法ノ變遷

西比利亞産毛皮ノ取引ニ關スル重要ナル特色ハ毛皮集散ノ主ナル中心地ニ開カルル毎年ノ市場ナリトス
 毎夏ヤクーツクニ於テ大市場開設セラレ西比利亞各地ノ商人ヲ吸引セリイルビット市場ノ主ナル取引品
 モ亦毛皮ナリ二月ノ同市場ニ於テ賣殘リタル毛皮ハ夏ニ至リテニズニ、ノヴゴロツドノ有名ナル市場ニ
 於テ販賣セララル然レトモ近時地方ノ漸ク發展シ且鐵道ノ擴張スルニ伴テ西比利亞毛皮取引市場ハ其ノ重
 要ノ度ヲ減シツツアリト云ハル蓋シ露國及外國ノ大商人等ハ漸次ニ其ノ市場ノ取引ヲ變シテ生産地ニ於
 テ直接購入ノ方針ヲ取り西比利亞ニ於ケル捕獸業者及商人等ト大範圍ニ於テ直接取引ヲ開始シツツアレ
 ハナリ從前歐洲ニ於ケル西比利亞毛皮ノ主要ナル集散中心地ハ倫敦ヲ以テ主トシライプチヒ之ニ次ケリ
 然ルニ今次ノ大戰開始以來莫斯科市ノ毛皮市場トシテ重要ナル地位ヲ高メシメ據テ以テ從來獨逸仲立業
 者等カ其ノライプチヒニ於ケル露國毛皮ノ取引ニヨリテ得ツツアリタル利益ヲ露國商人ニ歸セシメント
 スル努力露國人間ニ行ハレ來レリ若シ夫レ倫敦市場ニ輸送スル露國毛皮ニ至テハ獨リ糶シタルモノニ止
 マラス糶ササルモノモ亦多ク輸送セラルト云フ

露國ハ精製シタル毛皮及毛皮製造品ノ最大ナル販賣市場ナレト毛皮ノ鞣法ニ至テハ未タ充分ニ發達シ居ラサルナリ莫斯科及爾餘ノ諸中心地ニ建設セラレタル大製造所ハ主トシテ高價ノ鞣皮ニ關スル作業ヲ事トシ又羊、兔、栗鼠等ノ如キ廉價ノ毛皮ニ關スル作業ハ多クハ歐露ノ東北諸縣ニ於テ内職ヲ事トスル農民ノ營業トスル所ナリ而シテ西比利亞ニ於ケル「コート」、帽其ノ他ノ毛皮製造品ノ小賣商人等ニ至テハ其ノ供給ヲ莫斯科其ノ他ノ歐露ノ中心地ニ於ケル商人ニ仰キ居レリ

〔一九一八年四月二十五日〕
〔コムマリス、リゴーツ〕

第五 北氷洋航路ト西比利亞貿易

一、北氷洋航路發見ノ目的——二、西比利亞ノ富源開發ト北氷洋航路ノ利益——三、北氷洋航路ト之ニ依ル西比利亞貿易ノ實況——四、北氷洋航路ニ關スル施設及其ノ發展

一、北氷洋航路發見ノ目的

西比利亞ノ中部地方ヨリ延長スル鐵道ハ西方波羅的海ニ至ルモノモ又東方太平洋ニ達スルモノモ共ニ其ノ距離長キニ失スルヲ以テ同地方ノ農產物ヲ海外ニ輸出スルニ於テ甚タ不便不利ノモノタルヲ免レス一例ヲ舉クレハエニセー縣ヨリ波羅的海ニ至ル鐵道ハ其ノ延長二千七百五十哩若シ之ニ依テ穀物ヲ運送スルトキハ之ニ要スル運賃ハ穀物其ノモノノ價格ヲ超過スルノ状態ニアリ然レトモ中部西比利亞ハ北方北氷洋ニ注入スルエニセー、オビ兩大河ト又之ニ流入スル諸支流ヲ有スルヲ以テ若シ此ノ河水ヲ利用シテ西部歐洲市場トノ通路ヲ發見スルヲ得ハ此等地方特殊ノ農產物ヲ比較的低廉ナル運賃ヲ以テ運送シ得ヘ

キニヨリ西比利亞ノ利益タルハ勿論西部歐洲諸國ノ爲ニモ大ナル利益タルヘキハ固ヨリ言フ俟タサル所ナリ是故ニ歐洲ヨリ中央西比利亞ニ達スヘキ北方航路ノ發見ハ過去數百年間ニ於テモ屢必要ノモノトシテ唱道セラレ幾回カ計畫セラレタル所ナルカ西部歐洲ヨリ此等ノ諸河口ニ達スル航路ハ實ニ北氷洋ノ一部タル加羅海ヲ經由セサルヘカラサルヲ以テ常ニ流水ト奮闘セサルヘカラサルノ危險ヲ存シ爲ニ該計畫ハ屢企圖セラレテ屢失敗ニ歸シ遂ニ不可能ノモノトシテ最近ニ至リタリキ

然ルニ近時加羅海ニ關スル調査其ノ歩ヲ進メ同海ノ状態カ毎年變更ヲ來スコト明瞭ト爲リ殊ニ綿密ニ本問題ヲ研究シタル有名ナル諾威ノ探險家ナンセン博士ノ所說ニヨルトキハ加羅海ハ北氷洋ノ他ノ部分ニ比シ海水甚タ淺キヲ以テ北方ヨリ同海ニ漂流シ來ル流水トテハ極メテ寡少ニシテ同海上ニ浮ヒ常ニ同海ノ航行ヲ困難ナラシムル水塊ハ殆ト皆毎年冬季ニ於テ結氷シ翌年夏季ニ至リ溶解分裂スル同海ノ水野ナルカ同海カ陸地ニ包圍セララルル結果其ノ水塊ハ到底大規模ノ運動ヲ爲シ得ス要スルニ前年ノ冬季中ニ於ケル同海ノ結氷ノ多少ヲ見テ翌年同海ニ漂流スル流水ノ多寡ヲトシ得ヘキヲ以テ從テ結氷状態ヲ組織的ニ研究調査スルニ於テハ流水ノ多少ヲ豫メ決定スルコト至難ノ業ニ非ス毎年少クモ五週間乃至八週間ハ或程度マテ定期ノ航海ヲ可能ナラシメ得ヘシト云ヘリ

是ニ於テ前記ノ目的ヲ達スル爲西比利亞製造貿易汽船會社(Siberian Steamship, Manufacturing & Trading Co.)組織セラレ一九一五年マテニ既ニ四回ノ遠征隊ヲ派遣シ中部西比利亞トノ貿易ヲ開始シタリシカ今

次ノ歐洲戰爭起ルニ及ヒ波羅的海ノ通商杜絶シ西比利亞鐵道ハ專ラ軍事上ノ目的ニノミ使用セラレ中部西比利亞ノ農産物ハ同地方ニ堆積シ鐵道以外他ニ通路ヲ求ムルニ非サレハ到底其ノ莫大ナル産物ヲ處分シ得サルノ窮境ニ陥リタリ是レ益北氷洋航路ノ發展ヲ促スニ至リタル所以ナリトス

二、西比利亞ノ富源開發ト北氷洋航路ノ利益

エニセー河ノ本流ト其ノ支流トカ灌溉スル中部西比利亞ノ面積ハ約七十七萬方哩ノ大ニ及ヒ其ノ本流ハ蒙古境上ノミナンスレンスクヨリ北氷洋ニ至ルマテ延長約一千五百哩此ノ間小汽船ヲ往復スルヲ得ヘク又其ノ支流中主ナルモノハアンガラ河ニシテ源ヲ貝加爾湖ニ發シ水勢稍急ナルモノアルモ若シ水閘若干ヲ設置スルトキハ之ヲ制スルコトヲ得ヘシ左レハ東北蒙古ヨリシテセレンガ河ヲ下リ貝加爾湖ニ出テ更ニ北氷洋ニ通スヘキ貨物ノ運送ハ決シテ不可能ノ事ニ非サルナリ

エニセー河ノ主ナル支流ハ皆東方ヨリ來テ同河ニ注クモノナルカ同河ノ西方ニモ更ニ一條ノ大水路アリテ其ノ支流ハ又エニセー河ノ支流ノ如ク西方ニ向テ同地方ヲ灌溉セリ是レオビ河ニシテ同河ハ其ノ支流タルイルツイシユ河ト共ニ阿爾泰山脈ト北氷洋トノ間ニ横ハル西比利亞ニ於ケル最豊饒ナル大延袤ノ地ヲ灌溉シオビ、イルツイシユ諸河ノ通航ハ大距離ニ亘リテ比較的容易ナリ

西比利亞鐵道ハエニセー河口ヨリ千二百七十四哩ノクラスノヤルスクニ於テ同河ヲ又オムスク、ノヴオニコライヴスク又ハチユーメンニ於テオビ河ト其ノ支流ノイルツイシユ河トヲ横斷セリ是故ニ兩河口ニ

於テ大型ノ鋼製小汽船ニ積換ヘラレタル貨物ハ兩河ヲ遡航シ來テ此等ノ諸地ニ於テ西比利亞鐵道ニ連絡シ其ノ便ニ頼リテ目的地ニ達シ斯ノ如クニシテ或程度マテ西比利亞鐵道ノ運輸力ノ不足ヲ補ヒ得ルナリ殊ニオビ河ノ如キハエニセー河ニ比シ其ノ支流更ニ多數ニシテ且西部西比利亞ノ最富饒ナル地方ヲ貫流スルヲ以テ一旦航路ノ發見成リ定期航海ノ開カルルニ至ラハ英國其ノ他ノ諸國ヲシテ其ノ最缺乏セル物資ヲ得テ其ノ無盡藏ノ恩澤ニ浴セシメ得ルハ毫末モ疑ヲ容レサル所ナリ

露國政府ハ北氷洋航路ノ發展策トシテ戰爭ノ終了ニ至ルマテエニセー河ノ水路ニヨリテ輸入セラレタル肥料、桶板、石炭酸、各種ノ鐵及鋼、汽鐘、筒管、鐵製及鋼製針線、鎌及大鎌其ノ他ノ農具、工業用具農業用器械其ノ他ノ各種ノ器械及其ノ部分品等或種ノ貨物ニ對シ免税ヲ行フニ至リタレハ前記ノ貨物ニシテ此ノ航路ニヨリテ西比利亞ニ赴クモノハ露國政府ノ關稅ヲ免セラルルノ便宜ヲ有スルナリ

之ヲ要スルニ現時ノ狀態ノ下ニ北氷洋航路ヲ經由シテ西比利亞ニ貨物ヲ輸送スルモノハ主トシテ左ノ二點ニ於テ利益ヲ享有スルヲ得ヘシ

一、目下鐵道ニ依リ私有商品ヲ輸送スルコトニ於テ免レ得サル時日ノ遷延ト到着ノ不確實トヲ避ケ得ルコト

二、エニセー河ノ水路ニ依テ西比利亞ニ輸送セラルル或種ノ貨物ニ對シ露國政府ノ免税アルコト

三、北氷洋航路ト之ニ依ル西比利亞貿易ノ實況

北氷洋航路ト之ニ依ル貿易ノ實況ヲ知ラント欲セハ西比利亞製造貿易汽船會社ノ第四回ノ遠征タル一九一五年ニ於ケル「ホーガステール」(二、一〇〇噸)「エデン」(二、〇〇〇噸)兩汽船ノ航海ヲ知ルニ如クナカルヘシ同航海ハ實ニ北氷洋航路ノ充分ニ利用シ得ラルヘキモノナルコトヲ證明スルト同時ニ又オビ河ノ航路ヲモ新ニ發見スルニ至リタルモノナリ

加羅海ハノヴァ、ゼムブラ島ヲ本州ヨリ分離スル一帯ノ海水ニシテ西、南、東ノ三面ハ陸地ヲ以テ包圍セラレ只北方ノ一面ノミ太平洋ニ向テ開放セラレ西方ヨリ之ニ入ルニ際シテハユゴール(ヴァイガーチ島ト本州トノ間ニアリ)加羅(ヴァイガーチ島トノヴァ、ゼムブラ島トノ間ニアリ)マトチキン、シャ(ノヴァ、ゼムブラ島ヲ二部ニ區分スル)三海峡中何レカ一ヲ通過セサルヘカラス而シテ其ノ流水ノ最跳梁ヲ極ムルハ加羅海及三海峡ナルカ兩船ハ同年ノ航海ニ於テ前三年ノ航海ニ於テ嘗テ實驗シタルコトナキ海峡ヲ距ル西方二百哩ノ地ニ於テ氷塊ニ遭遇シタルヲ以テ一時其ノ進路ヲ危フマレタルモ幸ニ無線電信ノ報告ニヨリ流水ノ海峡ニ存在セサルコト明瞭シ流水二百哩ニ亘ル間ヲ突破シテ海峡ヨリ公海ニ出テオビ河口ニ至リ「エデン」ハ舊路ヲ趁フテエニセー河ニ向ヒ「ホーガステール」ハ新ニオビ河ノ遡航ヲ企テタリ

オビ河ノ水路ハ從來屢計畫セラレタル所ナルモ常ニ組織ノ不完全ナルト且注意ノ足ラサリシ爲ニ失敗ニ歸シ居タルモノナリ然ルニ「ホーガステール」ハ今次ノ航海ニ於テ綿密ナル研究調査ヲ遂ケタル結果遂ニ

適當ノ水路ヲ發見シ何等ノ困難ナク目的地ニ到着シ得タリ

是ヨリ先キ中部西比利亞ニ英國全島ヨリモ大ナル面積ニ亘ル野火アリテ燭烟千二百哩ニ漲リ或所ニテハ數月ニ亘リテ天日ヲ遮斷シ或所ニテハ十九日間モ通航ヲ杜絶シ爲ニ西比利亞内地ヨリオビ河ヲ下航シ來ル河航小汽船ハ之ニ妨礙セラレテ「ホーガステール」ヨリ十日タケ遅延シテ到着シタリ而モ右ニモ拘ハラヌ牛酪、大麻、亞麻其ノ他ノ農産物ノ轉載ヲ速ニ終了シ(積荷ノ吃水二十呎ニ及フト云フ)九月二十六日再ヒトムソニ着シタリ此ノ間費ス所ノ日數十九日(「エデン」ハ「ホーガステール」ヨリ五日多ク費シタリ)之ヲ一九一三年ニ於テ只往航ノミニ二十三日ヲ要シタルニ比較スルトキハ其ノ進歩ノ大ナルヲ知リ得ヘシ右貨物ハグリムスビーニ揚陸シタルカ其ノ價格ハ實ニ三十五萬磅ノ多キニ達シタリト云フ

翌一九一六年ノ貿易即チ同會社第五回ノ遠征ニ於テ使用シタル汽船ハ僅ニ一隻ニ過キサリキ是レ輸出入貨物共ニ露國政府ノ免許ヲ得ルニ困難ナリシニヨルモノトス而シテ之ニヨリテ外國貨物ノ西比利亞ニ輸送セラレタルモノ總計二千五百噸又西比利亞物産ノ歐洲ニ輸出セラレタルモノ約千百噸ナリ輸入品ノ主ナルモノハ器械、工具、針線、囊、雜貨、「ペン」ト、錫、錫板等英國製品ニシテ又輸出品ノ主ナルモノハ穀類、牛酪、獸皮、大麻、亞麻及亞麻仁等ナリキ

一九一七年第六回ノ遠征ハ三隻ノ汽船(一萬噸以上ノ運送力)ヨリ成レリ會社ハ之ヲ派遣スル以前其ノ重役ヲ合衆國及加奈陀ニ出張セシメ同地ノ製造業者ニモ貨物ノ輸送ヲ慫慂シ其ノ結果右三隻中一隻ハ加奈

陀ノ一港ヨリ出發セシメタリ

同會社ハ本年モ亦西比利亞遠征ヲ企圖シ本年七月ノ頃ヲ以テ同會社第七回ノ遠征隊ヲ派遣セント欲ス而シテ前年ノ經驗ニヨリ今年モ亦七月中米國ノ一港ヲ出發シテ潛航艇戰域ノ北方ニ當ル通路ヲ取り九月中西比利亞ニ到着スヘク本年ハ飛行機ヲ使用シテ以テ流水ノ難ヲ避ケ航海ノ安全ヲ期スト云フ

四、北氷洋航路ニ關スル施設及其ノ發展

西比利亞製造貿易汽船會社ハ事務所ヲ彼得具羅士、莫斯科、アーチヤンヂエル(以上歐露)クラスノヤルスク、ノヴォニコライヴスク(以上西比利亞)クリスチアニヤ、倫敦、紐育ニ有シジョナス、リード氏其ノ事務ヲ管掌セリ獨リ運送業ノミナラス一般ノ通商ヲモ營ミ從來毎年七月英國ヲ起點トシテ西比利亞ニ赴キ九月ニ至リテ歸航シタルモノナルカ一九一七年ヨリハ加奈陀若ハ米國ヲモ起點トシテ一隻ハ同地ニ派遣シテ同地ニ於テ艤裝スルコトトセリ同會社ハ又エニセー河上ニ挽材工場ヲ有シ作業ヲ行ヒ今年ヨリハ同工場ノ生産ニ係ル林產物ヲモ歐洲ニ輸出スト云ヘリ

運賃ハ一九一六年ニ於テ英國ヨリクラスノヤルスクニ至ルマテ一噸約六十弗ナリキ同年ハエニセー河ノ河水非常ニ少量ナリシ爲運輸ノ便ヲ缺キ僅ニ貨物ノ一部ヲクラスノヤルスクニ運送シタルノミニテ冬季迫リタリ依テ殘部ハ之ヲ陸送スルノ已ムナキニ至リタリト雖此等ノ障礙ハ爾後排除セラレツツアルノミナラス會社ハ毎年得ル所ノ經驗ト技能トニヨリ微細ノ點ニ亘リテ益良好ナル成績ヲ舉ケツツアリ左レハ

貨物ノ積換及小汽船ノ同河ノ上下ニ要スル時間等モ既ニ著シク短縮セラレ尙又汽船カ本國トエニセー河口トノ間ニ往復航ニ要スル時間モ從前ヨリ減少シタリ又兩河及其ノ河口ニ於テハ航行ニ適當ナルヘキ水道發見セラレ明細ナル製圖モ成リ又流水ニ對シテハ熟練ナル水先案内ヲ得既ニ無線電信ヲ使用シ居ルノミナラス更ニ飛行機ヲモ使用セントスルニ至リタリ是等ノ結果從來本航路ニ賴ル貨物輸送上主ナル不利益ノ一タリシ高價ノ保險料モ漸々保險會社ニヨリテ變更セラルルニ至リタリ(因ニ云フ一九一六年ニ於ケル西比利亞輸送貨物ノ保險料ハ戰爭其ノ他一切ノ危險ニ對シ一割二分ナリシ由ナリ)

終ニ露國政府ハ北氷洋航路ノ發展ヲ期スル爲無線電信ヲ加羅海ノ關門ニ當ルニ海峽及加羅海ノ東側ニ當ルヤマル半島ノマラ、サレーニ設置シ流水ノ状態ヲ船舶ニ報告スルニ便ナラシメ此等ノ無線電信所ニハ海上ノ状態ト流水ノ方向トヲ測知シ得ヘキ器械ヲ裝置シ又燈臺及陸標ヲモ建設スル計畫中ニアリ又汽船ト河航小汽船間ノ積荷ノ交換ヲ便利ナラシムル目的ヲ以テエニセー河ノ北部ニ適當ナル碇泊所ノ設置等モ考究シツツアリト云ヘハ此等ノ方策實行セラレタル曉航海ノ困難ハ益減少シ從テ加羅海通航ノ貨物ニ對スル保險料ノ如キモ益減少ヲ見ルニ至ルヘケレハ從來荒寥無邊ノ氷海トシテ世人ノ注目ヲ脱シ居タル加羅海モ遠カラス其ノ面目ヲ一新スルニ至ルヘキナリ (一九一八年四月倫敦「タイムズ」貿易號)

第六 日露度量衡比較表

一、度—二、量—三、衡

尺 度

露 國

日 本

一 露里(五百サーゼン)	九町四十六間四尺強
一 サーゼン(七フット又ハ三アルシン)	七尺〇四分〇八毛弱
一 アルシン(十六ウエルシヨーク又ハ二十八ジユイム)	二尺三寸四分六厘九毛強
一 フット(十二ジユイム)	一尺〇〇五厘八毛
一 ウエルシヨーク(一 ³ / ₄ ジユイム)	一寸四分六厘六毛九
一 ジユイム(十クローニヤ)	八分三厘八毛
一 クローニヤ(十スクループル)	八厘三毛八
一 スクループル	八毛三八
一 デシヤチン(二、四〇〇平方サージン)	一町一反四步八

平 方 尺

- 一 平方アルシン(五平方フット九分ノ四)
- 一 平方サーゼン(九平方アルシン)
- 一 平方フット

- 一 步三七七一
- 〇 步一五三〇
- 〇 步〇二八一

二、量

穀 用

- 一 ラスト(一二チエトウエルト)

十三石九斗六升三合二勺

但シ「ラスト」ハ穀物ノ種類ニ依リ其ノ容量異リ右ハ小麦ニ用ヒラルルモノニシテ其ノ他燕麥ハ一六「チエトウエルト」、裸麥ハ一三「チエトウエルト」、亞麻仁ハ一四¹/₂「チエトウエルト」ナリトス

- 一 チエトウエルト(二オシミーナ)
- 一 オシミーナ(四チエトウエリク)
- 一 チエトウエリク(八ガルネツ)
- 一 ガルネツ

- 一 石一斗六升三合六勺
- 五斗八升一合八勺
- 一斗四升五合四勺五才六
- 一升八合一勺八才二

液 用

- 一 ボーチカ(四〇ウエドロー)
- 一 ウエドロー(一〇クルーシカ)

- 二石七斗二升七合二勺
- 六升八合一勺八

一クルーシカ(一〇チャルカ)

三、衡

一ベエルコグイツ(一〇ブート)

一ブート(四〇フント)

一フント(三二一ロート又ハ九六ゾロトニツク)

一ロート(二ゾロトニツク)

一ゾロトニツク(九六ドリーヤ)

一ドリーヤ

六合八勺一八

四十三貫六百八十一匁

四貫三百六十八匁一分

百九匁二分

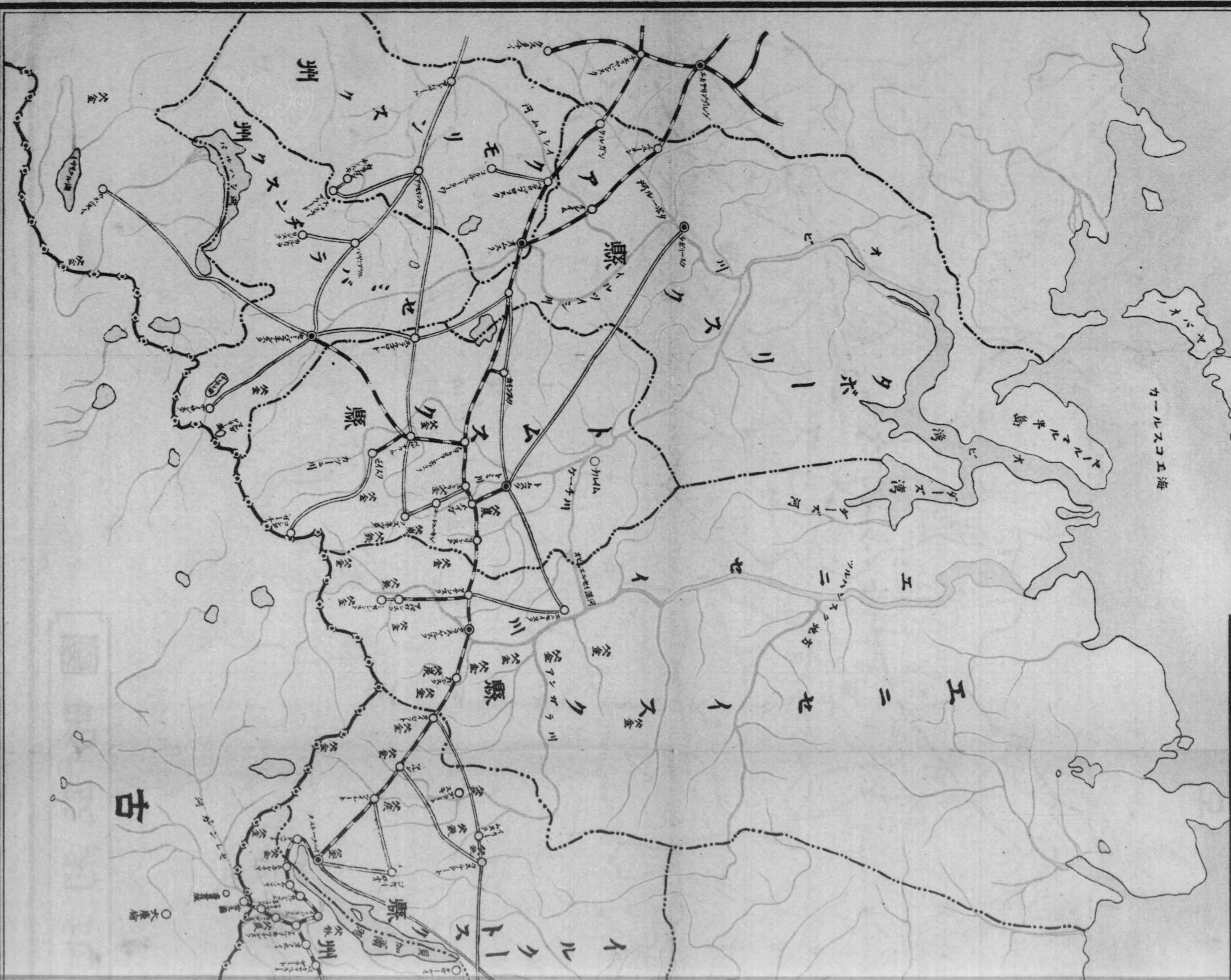
三匁四分一厘三毛

一匁一分三厘七五

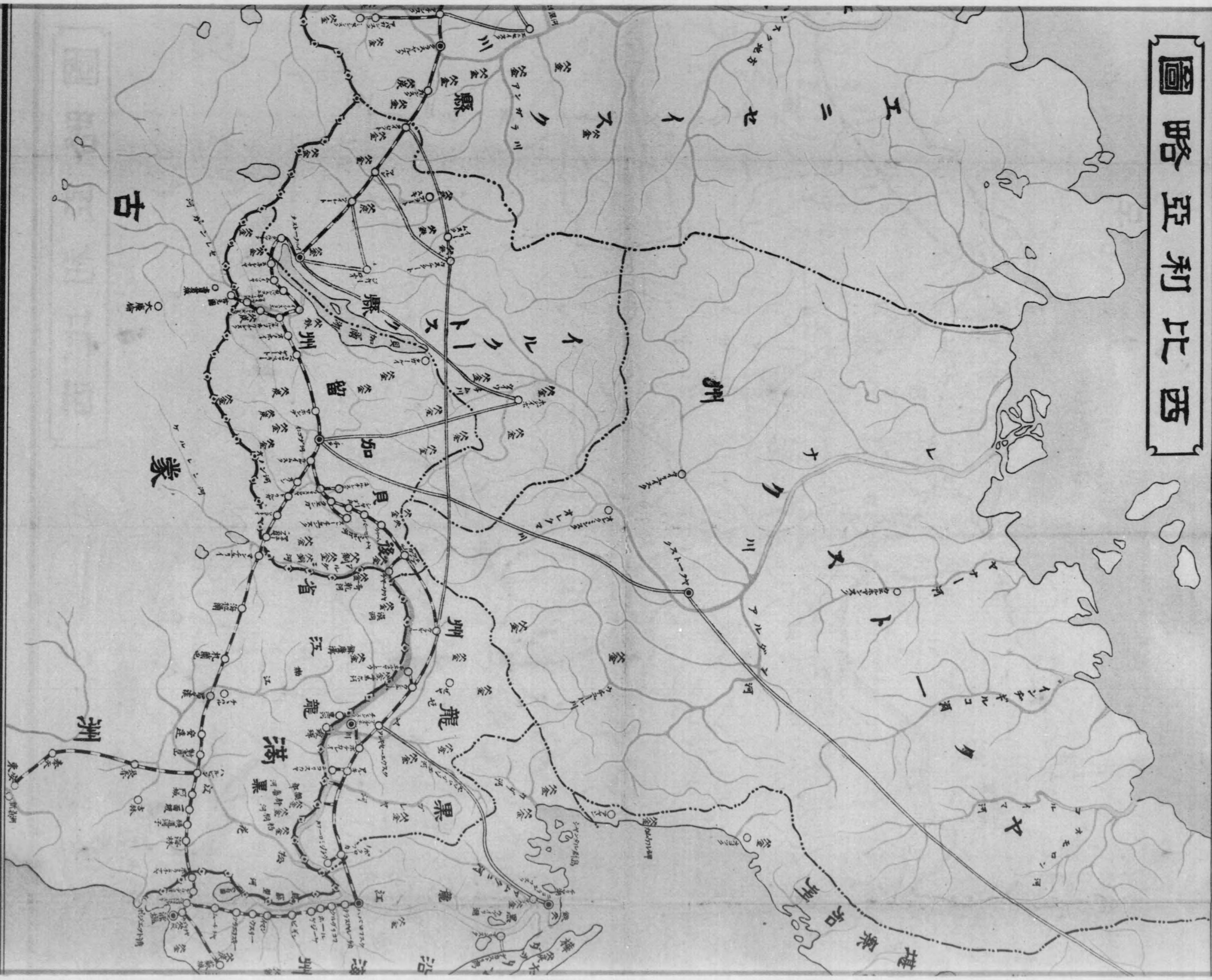
一厘一八四九



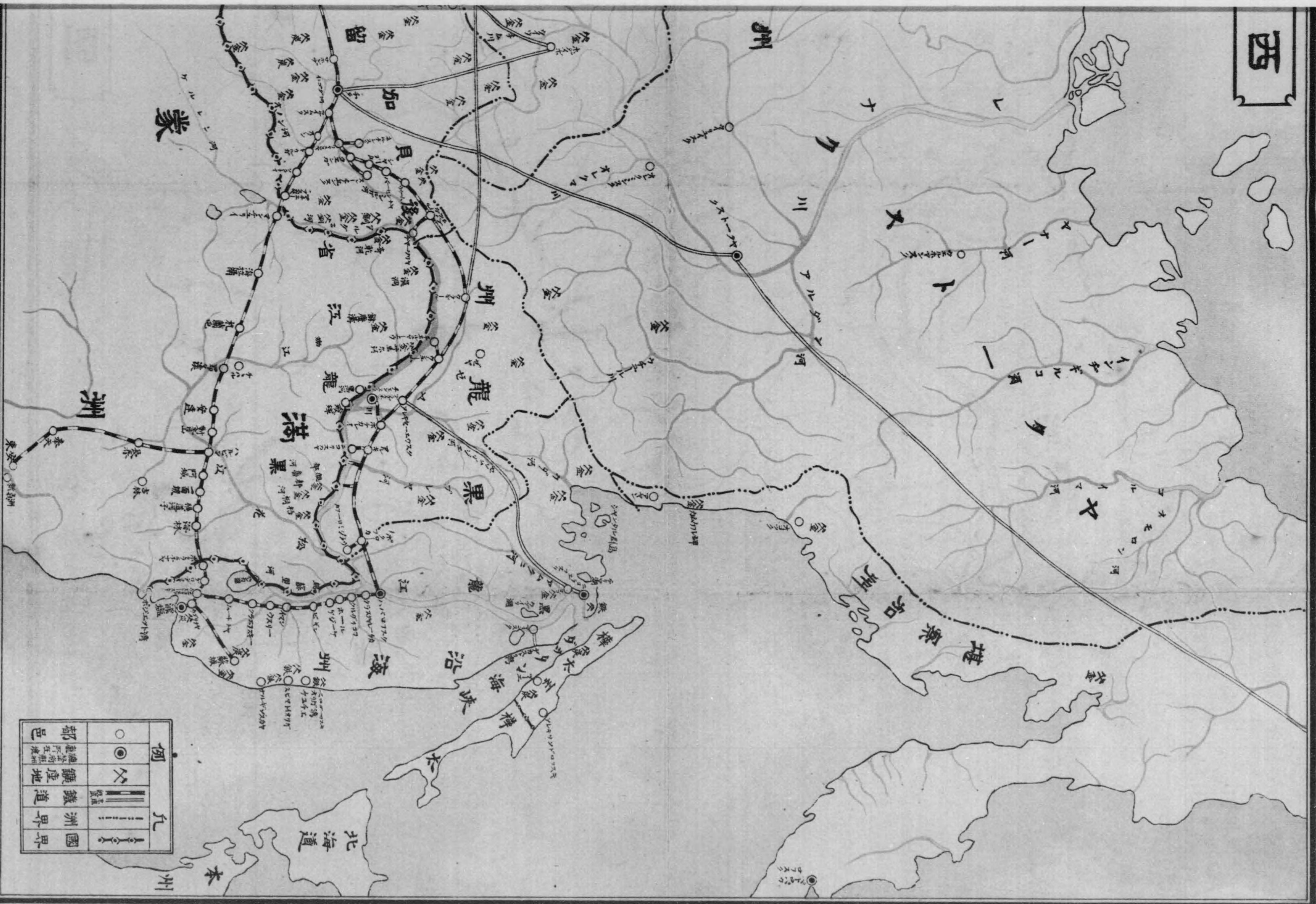
比利亞略圖



西比利亞略圖



西



○	部
●	總局
父	鐵道
	鐵道
!!!	洲界
——	國界

326

370

8.12.72

16

326

370

終